

# 小学校国語科映像指導資料

～言語活動の充実を図った  
「読むこと」の授業づくり～

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター



## はじめに

現代は、高度情報化や少子高齢化，グローバル化などが急速に進む，極めて変化の激しい時代です。我が国の将来を担う子供たちには，こうした社会の加速度的な変化の中でも，社会的・職業的に自立した人間として，伝統や文化に立脚し，高い志と意欲を持って，蓄積された知識を礎としながら，膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し，自ら問いを立ててその解決を目指し，他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められます。そのために，学校においては，子供たち一人一人の可能性を伸ばし，新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくための不断の授業改善が重要です。

こうした要請を踏まえ，国語科においても更なる授業改善・充実が求められています。与えられた文章の意味を理解するにとどまらず，目的に応じて必要な情報を得たり，互いの考えを交流しながら新たな意味を見いだしたりする，課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業づくりを行っていく必要があります。

本指導資料は，「読むこと」領域における授業づくりを中心に，その改善の具体的な方策を授業実践という形で提示しています。言語活動の充実を図った「読むこと」領域の授業改善を通して，子供の読書生活をより豊かにしたり，各教科等での調べる学習などにおいてより機能する読む能力を育成したりするなど，基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう，12の授業実践を映像で具体的にお示ししています。

今後，全国の教育委員会及び各学校において，本指導資料が有効に活用され，国語科における授業改善の参考となることを期待しています。

最後に，本書の作成に当たり，御協力いただいた作成協力者をはじめとして，本書の作成に御協力くださった方々に心から感謝の意を表します。

平成 28 年 3 月

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター長  
梅澤 敦

# 小学校国語科映像指導資料

## ～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～

### 目次

#### 《実践事例》

事例1 第1学年	6
お気に入りの乗り物で乗り物図鑑をつくって、図書室に置いてもらおう	
事例2 第1学年	14
「マイ吹き出し」でお話の大好きなところを紹介しよう	
事例3 第2学年	20
なでしこレオ＝レオニ展を開こう	
事例4 第2学年	28
がまくん、かえるくんのシリーズを読んで、「すてき」を見つけて紹介しよう	
事例5 第3学年	36
食べ物の秘密を本で調べて、家の人に報告しよう	
事例6 第3学年	44
大好きな登場人物を「イチおしフリップ」で紹介しよう	
事例7 第4学年	52
『車のいろは空のいろ』シリーズの不思議を解き明かそう	
事例8 第4学年	60
心に残った物語の面白さを伝え合おう	

事例 9 第 5 学年	68
伝記を読んで自分の生き方を考えよう	
事例 10 第 5 学年	74
お薦めします 私の心に響いたお話 ～「おすすめカード」で杉みき子作品をすいせんしよう～	
事例 11 第 6 学年	82
「持続可能な社会」の実現について調べたことや考えたことを解説しよう	
事例 12 第 6 学年	90
つなげて重ねて読み解く，立松和平の表現する命 ～読書座談会で，作者の考えを捉え，命に対する自分の疑問を解き明かそう～	

小学校国語科映像指導資料

～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～の利用に当たって

〈映像資料〉

「小学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）第 2 章 各教科 第 1 節 国語 第 2 各学年の目標及び内容」では，それぞれの領域における指導事項は，言語活動を通して指導するものとされている。そのため，本映像資料では，読むこと的能力を育成するためには，どのような言語活動を通して指導するかについて把握できるよう，実際に行われた授業の映像を収録している。

〈印刷資料〉

映像で収録した授業の全体の流れや，当該授業が行われた単元の全体像が把握できるよう，単元の指導目標や指導計画，収録した授業の指導案などを掲載している。



# 《实践事例》

# 事例 1 第 1 学年

1 単元名 お気に入りの乗り物で乗り物図鑑をつくって、図書室に置いてもらおう  
 教材名 「はたらくじどう車」 他 乗り物図鑑

## 2 言語活動とその特徴

本単元では、図鑑を読んで、お気に入りの乗り物について調べ、説明する文章を書く言語活動を行う。これは、お気に入りの乗り物について書かれた本や文章を読み、乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」を見付け、すごいと思ったことや感想を図鑑カードに書いてクラスの人々に紹介したり、図書室に置き、全校の人々に読んでもらったりする言語活動である。

本単元で児童がつくる図鑑カードとは、下の写真のように、市販の図鑑から必要な情報を見付けて付箋を貼り、それを基に説明の文章に書くものである。このような図鑑カードを書くため、児童は図鑑から「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」や「すごいところ」を見付けながら読んでいく。このことによって、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」が実現できると考えた。そして、「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」，そこから見付けた「すごいところ」を、共通学習材やカードの見本の書きぶりを参考に図鑑カードに書いていくことで、「B書くこと」の指導事項「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」を実現できると考えた。

また、本単元では図鑑カードに書くために数種類の乗り物図鑑を準備している。児童は必要な情報を得るために図鑑の目次や見出し、図や写真とその解説などに着目して読んでいく。その際に、「C読むこと」の指導事項「カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」が実現できると考えた。なお、乗り物の中には一つの図鑑では必要な情報が得られないものもある。その場合は複数の図鑑を用いることができるようにしていく。

**乗り物の名前**  
(C読むことカ)

**「はたらき」と「つくり」**  
「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」を図鑑から見付ける。(C読むことイ)

**「はたらき」「つくり」「すごいところ」**  
内容のまとまりごとに簡単な構成を意識して書く。(B書くことイ)

**すごいところ**  
本や図鑑を選んで読み、写真やその解説の文、見出しから乗り物のすごいところを見付ける。(C読むことカ)



### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童はこれまでに「C読むこと」の指導事項「イ 事柄の順序を考えながら文章の大体を読むこと。」「カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」については、1学期に「問い」と「答え」の関係を意識した学習を行っている。さらに2学期は上記の指導事項に加え「B書くこと」の指導事項である「イ 自分の考えが明確になるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」については、簡単な文章を書くこともできるようになっている。本単元では「事柄の順序」を意識して必要な情報を得ることやその情報を得るための本や文章の選び方や見方、得た情報を説明するための順序を意識して簡単な構成で書くことに重きを置いて指導する。

#### (2) 教材について

本単元では共通学習材として「はたらくじどう車」を用いた。また、見出しや写真、写真に添えた簡単な解説文など、様々な書きぶりがあり、「はたらき」や「つくり」を表す言葉に着目して読む必要のある図鑑を数種類準備している。どの図鑑も、図鑑カードを完成させるには必要な情報を意識しながら丹念に読むことが要求される教材でもある。

#### (3) 指導について

本単元では、児童の実態を踏まえて、共通学習材の読みを自分の選んだ読みにすぐに生かせるように学習過程を工夫した。具体的には、1単位時間の前段に共通学習材、後段には自分の選んだ図鑑を読むようにしたり、バスの図鑑カードを書いた次の時間に自分の選んだ乗り物の図鑑カードを書くことができるようにしたりした。

単元全体を通して共通学習材で主に書きぶりを学んでいくことができるように、構成を意識した指導及び、共通学習材や図鑑カードの見本の掲示を工夫する。図鑑カードを友達と交流する過程で、事柄の順序やそれを表す言葉を意識するだけでなく、「すごいところ」を見付けながら読むことで情報を主体的に読めるようにする。また、困ったことを相談したり、読み方のコツを交流したりすることで、他者と協働して課題を解決する力を身に付けられるようにしていく。

### 4 単元の指導目標

- お気に入りの乗り物の図鑑カードづくりに必要な情報を得るために、乗り物図鑑を選んで読み、必要な情報を見付けようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ お気に入りの乗り物について「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」や「すごいところ」などの事柄の順序を意識して書くことができる。(書くことイ)
- ◎ 乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」の事柄の順序に気を付け、必要な情報を見出しや写真とその解説などに着目して選んで読むことができる。(読むことイ、カ)
- 文の中における主語と述語との関係に注意して読んだり、書いたりすることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・お気に入りの乗り物の図鑑カードづくりに必要な情報を得るために、乗り物図鑑を選んだり、必要な情報を見付けたりしようとしている。	・お気に入りの乗り物について「はたらき」「つくり」などの内容のまとめりに簡単に構成を意識して書いている。(イ)	・事柄の順序に気を付けて、乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」を見付けて読んでいる。(イ) ・乗り物について必要な情報を文章や見出し、写真とその解説などに着目して選んで読んでいる。(カ)	・文の中における主語と述語との関係に注意して読んだり、書いたりしている。(イ(カ))

6 単元の指導計画（全10時間扱い）

次	時	学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
事前		○学校の図書室，公立図書館を活用して，	乗り物図鑑を準備し，関心を高めておく。
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな乗り物が好きか，どんなところが好きかを自由に出し合う。</li> <li>・図鑑カードの見本や共通学習材の記述を縦に並べたものを比べながら，図鑑カードの構成をつかむ。</li> <li>・図鑑カードの見本を基に，学習の計画を立て，図鑑カードに書いて紹介したい「すごいところ」を見付けながら本（図鑑）を選ぶ。</li> </ul>	<p>◇ [関] お気に入りの乗り物についての情報を出し合いながら，これからの活動の見通しを持ち，必要な情報を見付けるために図鑑を選ぼうとしている。</p> <p>(発言，図鑑を選ぶ姿)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント①</b></p> <p><b>文章の構成を視覚的に捉えやすくするために，色や並べ方など提示の仕方を工夫し，学習の見通しを明確に持てるようにします。</b></p> </div>
	2		
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材の「バス」の「名前」を見付け，どこに書かれているか，どんな言葉に着目すればよいか気付く。</li> <li>・自分の乗り物の「名前」を見付け，付箋を貼り，名前を書き込む。</li> </ul>	<p>◇ [読カ] 乗り物について必要な情報を文章や見出し，写真，写真の解説などに着目して選んで読んでいる。（付箋，発言）</p> <p>☆グループでいつでも相談できるような座席にしておく。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント③</b></p> <p><b>グループで必要な情報の見付け方等を自由に相談できるようにし，協働的な学びを進められるようにします。</b></p> </div>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材の「バス」の「はたらき」が書いてある文に付箋を貼り，どんな言葉に着目すればよいか確認する。</li> <li>・自分の乗り物の「はたらき」を見付け，付箋を貼る。</li> </ul>	
本時①	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材の「バス」の「つくり」に付箋を貼ったり，貼ったものを出し合ったりしながら「はたらき」に応じた「つくり」になっているかを確認する。</li> <li>・自分の乗り物の「つくり」に付箋を貼り，「はたらき」に応じた「つくり」になっているか確認する。</li> </ul>	<p>◇ [読イ] 乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」の事柄の順序に気を付けて読んでいる。（付箋，振り返り）</p> <p>◇ [言イ(か)] 文の中における主語と述語との関係に注意して読んでいる。（付箋，発言）</p> <p>☆あらかじめ「はたらき」や「つくり」を表す言葉を教室に掲示しておく。</p> <p>☆一冊の図鑑では「はたらき」にぴったり合った「つくり」が見付けられない児童もいると思われるので，複数の図鑑を準備しておく。</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材の「バス」の「すごいところ」を教科書や図鑑の写真とその解説から選んで読む。</li> <li>・自分の乗り物の「すごいところ」を図鑑の見出し，写真とその解説から選んで読む。</li> </ul>	<p>◇ [読カ] 乗り物の「すごいところ」を文章や見出し，写真とその解説などに着目して選んで読んでいる。（付箋，発言）</p> <p>☆前時までには図鑑や共通学習材に貼った付箋と「すごいところ」が重複することも多いと思われる。重なってもよいことやすごいところがたくさんあってもよいことを知らせ，複数の図鑑を手にとれるようにしておく。</p>
本時②	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材の「バス」の図鑑カード</li> <li>・自分の図鑑カードを書く。</li> </ul>	<p>◇ [書イ] 乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」，「すごいところ」などの事柄の順序を意識して書いている。（図鑑カード）</p>
	8		

**指導のポイント②**

**1年生の実態を踏まえ，共通学習材で学んだ読みの力をすぐに使って，選んだ図鑑を読むようにします。**

			◇ [言イ(か)] 文の中における主語と述語との関係に注意して、文や文章を書いている。 (図鑑カード) ☆「救急車」の付箋と書きぶりを例として見せることで、書き出しや文末表現などを意識できるようにする。また「ですから」という言葉に着目させ、二つの事柄の順序を意識して書けるようにする。
第三次	9 10	・お互いのカードを読み合い、友達のよいところや自分のカードに生かしたい表現などを交流し、各自のカードを仕上げる。	◇ [関] 自分のカードに生かすために友達のカードの書きぶりのよさや「はたらき」とそれに応じた「つくり」や「すごいところ」などの事柄の順序を意識して聞こうとしている。 (感想, 発言) ☆早く終わったら2枚目に取り組みよう促す。
事後		○図鑑カードを一つにまとめ「乗り物図鑑」として、図書室に置くようにする。図書ボランティアや学習サポーター、図書委員に感想を書いてもらうようにする。	

## 7 本時①の指導 (5/10時間目)

### (1) 本時①のねらい

乗り物の「つくり」を表す言葉に着目しながら、「はたらき」に応じた「つくり」を見付けることができる。  
(読むことイ)

### (2) 本時①の展開

学 習 活 動	時	指導○及び、指導上の留意点・	◇評価規準 (評価方法)
1. 本時の課題をつかむ。	2	○本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>のりものの「はたらき」にぴったりあった「つくり」を見つけよう。</p> </div>			
2. 図鑑カードに書く「つくり」を図鑑から見付けるために、救急車の「つくり」は何を手掛かりに見付けたかを確認し、これからの活動の手掛かりを共有する。	5	○図鑑カードの見本や図鑑の拡大写真に貼った付箋を基に、何に着目すればよいか、手掛かりを共通理解できるようにする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;手掛かり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりをあらわすことば ものなまえ (ベッドなど) ~がついている。 ~をのせている。</li> <li>・みだしやしんとそのかいせつ</li> <li>・「はたらき」(ぴったり合っているか)</li> </ul> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>指導のポイント④</b> 図鑑を拡大したものを 使い、具体的に「見出し」や「写真とその解説」などの図鑑の見方、読み方を示します。</p> </div>		<p>・「救急車」の拡大図鑑を読み、見出しや写真とその解説を手掛かりに「つくり」を見付けたことを確認した後、第一次で確認した共通学習材の中の「つくり」を表す言葉や言葉貯金 (語彙集め) の「つくり」を表す言葉にも着目できるように支援する。また、いくつかの「つくり」に付箋を貼り、ぴったり合ったものを選ぶ様子も見せるようにする。</p>	
3. 図鑑カードに書く「つくり」を見付けるために、共通学習材における「バス」の「つくり」を見付ける。	5	○共通学習材における「バス」の「つくり」を文章中から見付けることができるようにする。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・範読を聞きながら「つくり」を表す言葉に付箋を貼れるようにする。</li> <li>・友達と相談してもよいことを告げ、困ったことや発見したことなどを予め自由に交流できるようにしておく。</li> </ul>	

<p>4. 図鑑カードに書く「つくり」を見付けるために、「はたらき」に応じた「つくり」という関係を理解する。</p>	<p>15</p>	<p>○「バス」の「つくり」を発表させ、「はたらき」に応じた「つくり」という関係をつかむことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;予想される児童の考え&gt;</p> <p>・たくさんのごせき ・てすり ・つりかわ</p> </div> <p>・児童の体験として「ハンドル」や「ヘッドライト」なども出されることも予想されるが「はたらき」にぴったり合った「つくり」はどれかという視点で確認させることで、「はたらき」に応じた「つくり」になっていることをつかめるようにする。</p> <p>・「つくり」を表す言葉を手掛かりに「つくり」を見付け、その後「はたらき」とぴったり合った「つくり」を付箋に書き出すとよいことを全体で確認する。</p>
<p>5. 自分の乗り物の図鑑カードに書く「つくり」を図鑑から見付ける。</p>	<p>15</p>	<p>○自分の乗り物の「つくり」を見付けることができるようにする。</p> <p>・一冊の図鑑では見付けられない児童もいると思われるので、複数の図鑑を準備しておく。</p> <p>・図鑑によっては、絵や写真しかない場合があると思われる。事前に準備し、対応できるようにするが、児童が絵や写真から「つくり」を推量した場合は、それも認めながら他の図鑑からも探すように促す。そして、書く際にどちらがよいか、どちらを使いたいかを考えさせるようにする。</p> <p>・周りの友達と困ったことや発見を自由に交流してよいことを告げ、途中全員で共通理解した方がよいことがあれば、発表することも確認する。</p> <p>◇[読み] 乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」の事柄の順序に気を付けて読んでいる。 (付箋, 発言)</p>
<p>6. 学習を振り返る。</p>	<p>3</p>	<p>○学習を振り返り、分かったことや新たに生じた課題などを何人かの児童に発表させ、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして、学習のまとめとする。</p>

**指導のポイント⑤**  
**必要な情報がない場合には他の図鑑から探すといった情報検索能力の基礎を養う経験をさせます。**

8 本時②の指導 (6/10時間目)

(1) 本時②のねらい

「すごいところ」をはっきりさせるために、見出しや写真とその解説、「はたらき」や「つくり」に着目しながら、必要な本や文章を選んで読むことができる。 (読むことカ)

(2) 本時②の展開

学 習 活 動	時	指導○及び、指導上の留意点・ ◇評価規準 (評価方法)
1. 本時の課題をつかむ。	2	○本時のめあてと学習の進め方を確認する。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>のりものの「すごいところ」をはっきりさせよう。</p> </div>		
2. 図鑑カードに書く「すごいところ」を見付けるために、救急車の「すごいところ」はどこから見付けたのか、「すごいところ」はどんな	5	<p>○図鑑カードの見本や図鑑の拡大写真に貼った付箋、教科書の文章を拡大した掲示を基にすごいところの見付け方(手掛かり)を共通理解できるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;手掛かり&gt;</p> <p>・先生のずかんカード ・しゃしんとそのかいせつ</p> </div>

ことを書けばよいのかを全員で確認し、これからの活動の手掛かりを共有する。

3. 図鑑カードに書く「すごいところ」を見付けるために、バスの「すごいところ」を見付けて読む。

4. 図鑑カードに書く「すごいところ」を見付けるために、図鑑や文章のどこに着目すればよいかを全員で共有する。

5. 自分の乗り物の図鑑カードに書く「すごいところ」を図鑑から見付ける。

6. 学習を振り返る。

・みだし

・「はたらき」と「つくり」

・児童は乗り物を選んだ時点で「すごい」「カッコいい」などイメージを持っている。ここでは「すごいところ」だけでなく、どんなことを書けば読む人が楽しく、書く方も嬉しいかを児童と話しながら「すごいところ」をはっきりさせる視点を明確にする。そして、当初に持っていたイメージ以外にも「すごいところ」を探してみようという思いが持てるようにする。また、教師が見付けたこつとして「はたらき」に応じた「つくり」を基にして書いたことを告げ、児童の意見を引き出すきっかけをつくるようにする。

8 ○「バス」の「すごいところ」を選んで読むことができるようにする。  
 ・友達と相談してもよいことを告げ、困ったことや発見を自由に交流できるようにする。  
 ・見付けた「すごいところ」には、付箋を貼ったり、付箋に書き抜いたりするように指導する。

10 ○「バス」の「すごいところ」を発表させ、どこから見付けたかを共通理解できるようにする。

＜予想される児童の考え＞

- ・おおぜいのおきやくさんをあんぜんにはこぶためにぎせきやつりかわがついているからすごい。(はたらきとつくり)
- ・すわれない人のためにつりかわやぎせきががついているからやさしい。(つくり)
- ・あんぜんにはこぶためにミラーが五つもついているからあんしんしてのれる。(見出し、写真とその解説)

・教科書以外からも見付けたい児童もいると思われるので、何種類かの資料を用意し、必要に応じて使ってよいことを知らせ、複数の図鑑を活用できるようにする。

17 ○自分の乗り物について書かれた図鑑から「すごいところ」を見付け、付箋を貼る。  
 ・周りの友達と困ったことや発見したことを自由に交流してよいことを告げ、途中みんなで共通理解した方がよいことがあれば、発表してもらうことも確認しておく。  
 ◇ [読力] 乗り物の「すごいところ」を文章や見出し、写真とその解説などに着目して選んで読んでみる。(付箋、発言)

3 ○学習を振り返り、分かったことや新たに生まれた課題などがあれば何人かの児童に発表させ、本時の学びを実感させたり、次の課題を確認したりし、学習のまとめとする。

## 9 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

### ① 必要な情報を視覚的に意識させる掲示（ポイント①）

図鑑カードの構成要素である「なまえ」「はたらき」「つくり」「すごいところ」を黒板に短冊などで示したり，図鑑カードの見本の構成要素を色分けしたりすることで視覚的に必要な情報を意識することができるようにした。その際，共通学習材の四つの車についての文章を縦に並べて掲示し，図鑑カードとの構成の類似点や自分たちが書く図鑑カードの内容のイメージをつかめるようにした。また，見本となる「救急車」の図鑑カードはどのようにしてつくっていったかについて，実際の図鑑を拡大したものを見せながら，「はたらき」「つくり」等を見付けていくことで学習の見通しを明確に持てるようにした。

第一次で見付けた「はたらき」「つくり」を表す言葉については，この後の活動の手掛かりにするために「言葉貯金」（語彙集め）として常に掲示した。

### ② 学んだことを使って必要な情報を得られるようにする工夫（ポイント②）

図鑑の見方，読み方を確認した後，共通学習材「はたらくじどう車」の「バス」を読み，乗り物の名前を見付ける学習を行った。さらに本時の後段では，自分の選んだ図鑑を読み，乗り物の名前を確実につかめるようにした。第3時～6時まではこのような学習過程をとった。これは，学んだことを間を置かず活用させた方が効果が大きいという1年生の実態を踏まえて1時間の学習内容を工夫したものである。

### ③ グループの交流による「自らの課題」の明確化と協働的な学びの経験（ポイント③）

グループで見付け方などを相談させたり，必要に応じて全体で「自らの課題」や発見を共有したりできるようにした。課題を解決する段階で自ら困難と感ずることを明確にすることは，「自らの課題」を見付けることである。教師の指示に従って行うのではなく，自ら課題を持つという主体的な学びをこの時期から積み上げていくことを経験させたいと考えた。また，いつでも児童が自由に課題を出し合えるようにすることで，他者と協働して課題を解決する力も身に付けられると考えた。

### ④ 図鑑の見方，読み方の指導（ポイント④）

図鑑から自分の乗り物の「なまえ」や「はたらき」「つくり」「すごいところ」を見付ける活動では，共通学習材と書きぶりが違うので，見付けるのが難しいことが予想された。そこで，まず教師が図鑑の拡大図や電子黒板を使って「目次」や「見出し」「写真の中の言葉」「写真と解説の文章」や「吹き出し」など，図鑑の特徴を踏まえた見方や読み方を取り上げ，視覚的にも確認できるようにした。その後，実際に共通学習材や自分の選んだ本を読んで，欲しい情報を見付けた。その際，どこから見付けたのかを確認していくことで図鑑の見方，読み方を意識させた。

### ⑤ 必要な情報を求めて読む力の育成（ポイント⑤）

児童の選んだ乗り物の図鑑には「つくり」が載っていないことがある。そのことを教師が予めつかんでおき，複数の図鑑や資料を準備し対応できるようにした。次時の「すごいところ」を見付ける際にも複数の図鑑を準備し，自分の欲しい情報がない場合にどうすればよいか，また取り出すのは一つの情報だけでよいのかなどを判断する情報検索能力の基礎を養うことができるようにした。

## （2）児童の姿から

座席をグループの形にすることで，自然と相談し合う姿が見られた。これに加えて，複数の図鑑を比較している友達を見て，再度自分の図鑑を見直し，さらに多くの図鑑や資料から調べてみようとする児童の姿も多く見られた。また，右の写真の児童のように共通学習材でつくった「バス」の図鑑カードの書きぶりを見ながら，実際に自分の選んだ乗り物の図鑑カードを書く姿も見られた。全員で確認したり，修正したりして身に付けた力を自分の乗り物図鑑カードを書くことに活用することができた。



## （3）評価の実際

第5時間目の「C読むこと」の指導事項イについての評価の実際を紹介する。

【読イ】乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」の事柄の順序に気を付けて読んでいる。

この評価規準に照らして次のような状況の児童は「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

#### 【Bの状況】

自分の選んだ乗り物の「はたらき」と「はたらき」に応じた「つくり」を読み、付箋に書いている。

さらに、下の写真の児童は、複数の図鑑を比べて読み、「はたらき」や「はたらき」に応じた「つくり」を見つけた上で、「はたらき」と「つくり」がぴったり合うように、見つけた情報を取捨選択しているので「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### 【Aの状況】



この児童は図鑑①から「橋の裏側の状況を調べる」と「道路に架かる橋の点検をする」ことの二つの「はたらき」を見つけて付箋を貼った。しかし、それに合う、「つくり」は見付けられなかったため、図鑑②を読み、「アーム」を見つけた。その後、二つの「はたらき」を比較し、どちらが「つくり」にぴったり合うかを考え、図鑑に載せる「はたらき」を選択した。こうした状況から見て、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

Bの状況については、全ての児童について、付箋を基に判断した。机間指導において、上記のような姿が見られた場合にはAと判断し、他の児童に広めていった。本単元では、「6 指導計画」にあるように、4、5時間目の2時間かけて指導と評価を行い、児童の実態を丁寧に把握する中で、Bの状況に達していない児童については、一緒に「はたらき」を探したり、見つけやすい図鑑を提示したりするなど個に応じた指導を行った。そして、最終的にできあがった図鑑において、「はたらき」と「つくり」が対応しているかを確認し、評価した。

#### （4）学習指導を振り返って

実際の図鑑を読むことは、思っている以上に難しく、戸惑う児童も少なくなかった。図鑑カードの見本や図鑑の拡大版を示しながら「目次」「見出し」などの図鑑の見方を丁寧に扱うことは情報検索能力を養う意味でも重要であった。この指導においては、自分の欲しい情報を見付けるために不可欠な情報である「なまえ」をキーワードとして確実に押さえて読むことの大切さも実感した。

選んだ図鑑や本に、常に欲しい情報の全てが載っているわけではない。今回の授業で友達が2冊を比べて読んでいた姿を見て、自分も複数の本から情報を得ようとする児童がかなりいた。児童が困ったときに、全てを教師が教えるのではなく、自力で課題解決できるような環境としてのグループ活動や本の選定なども重要であると感じている。

## 事例2 第1学年

- 1 単元名 「マイ吹き出し」でお話の大好きなところを紹介しよう  
教材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。」に対応する言語活動として、物語の大好きなところに吹き出しを付けて、想像を広げて読む活動を行うこととした。吹き出しを付けて紹介することは、1年生の児童にとって、場面の様子を捉えたり、想像する際の手掛かりとなる登場人物の言動をよく把握したりすることにつながる。また、吹き出しに入れる言葉を考える際には、登場人物の思いを自分の経験と結び付けて想像できるようにする。こうしたことによって、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」の実現を目指すものである。なお、1年生の実態を踏まえて、吹き出しを活用して想像を広げて読む学習を繰り返し行うことができるよう、下のような「マイ吹き出し」を用いる。



#### マイ吹き出し

吹き出しの形に切った紙をパウチした繰り返し使える吹き出し。登場人物の気持ちや言いそうなことを想像したり、自分が掛けた言葉を考えたりして活用する。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童はこれまでの学習で、吹き出しを付けて想像して読むことを学習経験として持っている。「はなのみち」などの短い物語を読む学習では、登場する生き物たちの様子について想像を広げて読んで楽しんだ。「おおきなかぶ」「ゆうやけ」などにおいても、動作化や劇遊びを行うことに向けて、吹き出しを活用して想像を膨らませて読んでいた。さらに「くじらぐも」では、音読と動作化を多く取り入れて、大好きなところを見つけた。大好きな理由をはっきりさせることで、吹き出しを付けて想像する中身も物語の内容を踏まえたものとなってきた。

本単元では、こうした学習経験を生かしつつ、作品を読んで自分の思いや考えをまとめ、発表し合うことができるようにしたい。

#### (2) 教材について

本教材は、これまでの教材に比べて、長い物語である。読書体験の少ない児童にとっては抵抗が大きくなると思われるので、物語の展開をつかみやすくするため、展開に即して吹き出しを当て、場面の様子を想像するなどの支援を丁寧に行うこととする。

一方で、児童にとって身近な登場人物や出来事が描かれた物語であり、自分の経験と結び付けやすい箇所も多い。死を扱う内容であるが、死んでしまう悲しさより、主人公がエルフを精一杯愛したことに焦点が当たるように留意する。

#### (3) 指導について

自分の経験と結び付けて想像して読む際には、挿絵を手掛かりとしながら吹き出しを当てて想像を膨らませることができるようにする。その際、挿絵から想像できる行動と、その根拠となる叙述を本文から探し出すことで、文章から離れた想像にならないよう支援する。また、交流によって想



像を一層広げられるように支援する。

本単元の学習全体を通じて、一人一人の読みを大切にしていき、自分の大好きなところを、自信を持って発表できるようにすることで、楽しんで読書しようとする態度の育成を図りたい。

#### 4 単元の指導目標

- 物語を読んで大好きな場面を見付け、登場人物の行動を中心に想像して吹き出しの中身を書こうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 自分の経験と結び付けながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読むことができる。  
(C読むことウ、オ)
- 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ))

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・吹き出しを活用して想像して読むことを楽しんだり、大好きな場面を見付けたりしようとしている。	・自分の好きな場面に着目し、場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げて読んでいる。(ウ) ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えを発表している。(オ)	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。(イ(ウ))

#### 6 単元の指導計画（全6時間扱い）

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
第一次	1	○物語の読み聞かせを聞き、想像を膨らませて楽しみ、感想を交流する。 ○大好きなところとに吹き出しを付けて紹介するという学習の見通しを持つ。	・読み聞かせを通して、学習への関心を高め、見通しを持つことができるようにする。 ・話の大好きなところを見付けることを意識できるようにする。 ◇ [関] 興味を持って読み聞かせを聞き、自分のお気に入りの場面を見付けようとしている。(観察、発言)
第二次	2	○「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の読み聞かせを聞き、物語の展開をつかむ。 (登場人物や主な出来事等) ○「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を音読し、マイ吹き出しを当てながら、好きだと思える場面（お気に入りの場面）について、登場人物の思いを想像したり、言葉を考えたりする。 ○お気に入りの場面をたくさん探して付箋を付ける。	○気持ちを表す言葉を集め、掲示することで語彙を増やす。 <b>指導のポイント①</b> <b>マイ吹き出しをお気に入りの箇所の挿絵にたくさん当てて、想像を膨らませて読めるようにします。</b> ・本文を繰り返し音読や微音読し、好きだと思われるところにサイドラインを引き、そのときに感じている思いを付箋に書いたり、マイ吹き出しを当てて登場人物の言葉を想像したりする。 ・大好きなところを見付けるため、また想像を広げて読むための手立てとして、吹き出しの型紙をパウチして繰り返し使用できるマイ吹き出しを活用する。 ◇ [言イ(ウ)] 言葉には、感想を表すもの、場面の様子を表すものなどのまとまりがあることに気づき、自分の思いを表す際に用いている。(発言、付箋への記述内容)

	<p>3</p> <p>○お気に入りの場面の挿絵から、人物がしていることを想像し、その根拠を本文から見付ける。</p> <p>○話の展開全体に目を向けて好きなところを見付けられるように、登場人物の「していること」を中心に大まかなあらすじを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のお気に入りの場面の挿絵を取り上げ、「何をしているところですか」と問い掛けることで、行動に注目できるようにする。</li> <li>・絵から想像した行動については、本文に書かれているか確認することで、文章から離れた読みにならないようにする。</li> <li>・お気に入りの場面から想像したことを出し合わせながら、話の展開を捉えることができるようにする。</li> </ul>
	<p>4 本 時</p> <p>○お気に入りの場面にマイ吹き出しを当てながら想像を広げて読み、その中でも特に好きなところを決める。</p> <p>○大好きな場面に貼った付箋にお気に入りの理由を書く。</p> <p>5</p> <p>○自分の経験と似ていて大好きだと思うところを紹介し合う。</p> <p>○大好きな場面を読み返しながら、付箋の記述を基に、吹き出しに言葉を書き入れる。</p>	<div data-bbox="683 510 1439 683" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>指導のポイント②</b>  <b>これまで見つけてきたたくさんのお気に入りの、何度も教科書をめくり、比べながら読み、大好きなところを決められるようにします。</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ずうっと、ずっと、大好きだよ」のお気に入りの場面に付箋を貼り、好きな箇所が友達にもはっきり分かるようにすることで、交流に生かせるようにする。</li> <li>・複数見付けているお気に入りの場面の中から大好きな場面を一つ決め、決めた理由を付箋に書くようにする。</li> <li>・お気に入りの場面の中から一つに絞った大好きな場面とその理由を交流することで、自分の思いを明確にできるようにする。</li> </ul> <p>・同じ場面を選んだ児童同士がペアになり交流することで、言葉を書き入れる際の手掛かりとする。</p> <p>・好きなところを見付ける観点として、自分の経験と結び付け、「自分と似ているから好き」「自分だったらちょっと違って、こんなふうにする」などと想像を広げて読めるようにする。</p> <p>◇ [読ウ] 場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げて読んでいる。(発言、吹き出しの記述内容)</p> <p>◇ [読オ] 自分の経験と結び付けながら、物語の好きなところをはっきりさせている。(発言、付箋、吹き出しの記述内容)</p>
<p>第 三 次</p>	<p>6</p> <p>○大好きな場面について、登場人物になったつもりで、気持ちや言葉を想像して吹き出しを付けて紹介し合う。</p> <p>○友達の好きなところや、交流を通して新たに見つけた好きなところを音読したり、吹き出しを付けて想像したりして読み返す。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの好きなところを紹介し合う際にも、マイ吹き出しを活用できるようにし、登場人物の気持ちや行動を想像できるようにする。</li> <li>・友達と交流することで、物語を一層楽しめるようになったという実感を持てるよう声掛けしていく。</li> </ul> <p>◇ [関] 吹き出しをいろいろな場面に当てて、想像を広げて読むことを楽しんだり、友達の考えた吹き出しのセリフを楽しんで聞こうとしたりしている。(観察、発言)</p>

7 本時の指導（4/6時）

(1) 本時のねらい

場面の様子について、自分の経験と結び付け、想像を広げながら読み、登場人物の行動を手掛かりにお気に入りの場面を見付けることができる。（読むことウ・オ）

(2) 本時の展開

主な学習活動 予想される児童の反応	指導上の留意点（・） 評価（◇）
<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の大すきなところを見つけよう。</p> </div> <p>2 学習の手順を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>① 大すきをさがしながらおんどくする。                  ② マイふき出しをあててお気に入りのばめんをよんで、大すきをきめる。                  ③ ②できめた大すきなところに、ふせんをつけて、えらんだりゆうをかく。                  ④ ペアやぜんたいでおはなしして、大すきなところとそのりゆうをはっきりさせる。</p> </div> <p>3 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を、マイ吹き出しを当てて大好きな場面を探しながら読む。</p> <p>4 既にサイドラインや付箋が付いているお気に入りの場面を中心に読み返し、好きなどころを一つに絞り、大好きなところを決める。 付箋に、選んだ理由を書き、本文の該当箇所に貼る。</p> <p>5 大好きなところについて、ペアや全体で交流し、選んだ理由をはっきりさせる。                  (1) 学級全体での学習場で、友達に聞いてもらいたい大好きな場面とそのわけを数名の児童が発表する。                  (2) ペアで、大好きな場面とそのわけを発表し合い、選んだ理由をはっきりさせる。                  (3) 互いの大好きな場面を再読し、想像したことや感想を述べ合ったりして、物語の面白さを共有できるようにする。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント④</b>                      ペア交流では、教科書を間に置いて一緒に大好きな場面を確かめるなどして、叙述を基に交流できるようにします。</p> </div>	<p>指導上の留意点（・） 評価（◇）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表を基に、本時では「大すきなところをみつける」活動をすることを確認できるようにする。</li> <li>・学習の手順を確認することで、学習のゴールとそこに至る過程をしっかりと理解し、学習の見通しを持てるようにする。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>指導のポイント③</b>                      学習計画表や学習の進め方を掲示し、さらに全体に見本を提示することで、見通しを持って取り組めるようにします。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きだと思う場面について、本文を音読したり、マイ吹き出しを当てて想像した思いや会話を声に出して読んだりできるようにする。</li> <li>・好きなどころを絞り込む際には、付箋が付いている場面を繰り返し音読や黙読をする。</li> <li>・大好きなところを絞り込む観点として、「～しているところが優しい」「～と言っているから大好きなんだなあとと思う」などと、登場人物の言動を手掛かりにしたり、自分の経験と結び付け、「自分と似ているから好き」「自分だったらちょっと違って、こんなふうにする」などと想像を広げて読んだりできるようにする。</li> <li>・一斉の学習場で、実物投影機を活用し、数名の児童に発言させる。このことにより、ペアで交流する際にはどのように説明すればよいのかに関するイメージを具体的に持てるようにする。</li> <li>・ペアでの交流では、好きな場面とそのわけについて説明し合うようにする。その際、叙述を指し示しながら説明できるようにする。</li> <li>・ペアでの交流は、グループ内で相手を替えて3回程度繰り返す。</li> </ul> <p>◇ [読む] 場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げて読んでいる。（発言、付箋、吹き出しの記述内容）</p> <p>◇ [読む] 自分の経験と結び付けながら、物語の好きなどころをはっきりさせている。（発言、付箋、吹き出しの記述内容）</p>

6 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を 確認する。	
--------------------------------	--

## 8 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① マイ吹き出しの活用 (ポイント①)

吹き出しの形に切った紙をパウチして作ったマイ吹き出しを活用し、想像を広げて読むことを自然に繰り返すことができるようにした。物語を読む際、文字が多いと絵だけをパラパラめくって眺めることも多い。マイ吹き出しを当てることにより、場面の様子や登場人物の行動をより意識的に捉えることにつながり、その登場人物が言っていそうなことや気持ちを想像することができる。そこでさらに「本当にそうかな。」と振り返るときに、じっくり本文を読む必要が出てくる。本単元でも、マイ吹き出しを当てながら、想像したことをつぶやく時間を毎時間とった。

#### ② たくさんのお気に入りの中から「大好き」を選ぶ (ポイント②)

最初の読み聞かせの段階から、たくさんのお気に入りの場面を見付けることを促している。物語と出合った瞬間のいきいきとした感動を大切にしながら、主体的に場面の様子に着目できるようにするためである。

本単元では、エルフのお腹を枕にする場面や、エルフを抱っこして階段を上る場面、エルフが死んでいることに気付いた場面、隣の子がくれると言った子犬を断る場面などで、児童たちの心が動いた。その中で、一番好きな場面、つまり「大好き」を決めるということは、お気に入りのそれぞれの場面のよさを比べたり、お話全体の流れを再確認して自分なりの価値付けをしたり、なぜよいと思ったのか考えを深めたりと、様々な効果がある。自分はお話のこの部分に魅力を感じたということ、自信を持って紹介できるようにした。

#### ③ 説明や交流の進め方のイメージの共有 (ポイント③)

説明や交流を行うに当たっては、その方法を教師又は児童が、全体の場で実際に行うことで1年生でも無理なく学習のイメージが持てるようにした。

#### ④ ペア交流の手立て (ポイント④)

1年生の交流では、「自分の考えを伝えられる」ということと、「興味を持って友達の言葉を聞く」ということをねらっている。自分の考えを伝える手立てとして、同じ教科書を一緒に見せもらう、一緒に音読してみる、などの工夫を取り入る。友達の説明を聞くための手立てとして、発表が終わったらコメントをすることを促した。コメントは、「上手だね」「よく伝わってきたよ」など、発表自体を褒めるものから、「私も同じ場面を選んだよ」「理由が違うんだね」と自分と比較するもの、「本当にそうかな」と疑問を投げ掛けるようなものなど、その場面に応じて様々なものを用意した。何かコメントしてあげたいという気持ちで発表を聞くことができるようにした。

### (2) 児童の姿から

児童たちは、国語の時間だけでなく日常の読書においても、本を開くとマイ吹き出しを当てるようになった。たくさん想像を広げて楽しんで本を読んでいる。そして、交流を繰り返す中で自分の考えや思いを伝えたいという意欲も高まり、自然と本を紹介し合ったり、一緒に吹き出しの中身を想像し合ったりという活動につながった。1年生でありながら、付箋にはびっしりとお気に入りや大好きな理由が書かれ、自分なりの感想や疑問を持って読んでいることを実感した。

### (3) 評価の実際

第4時の「C読むこと」の指導事項オについての評価の実際を紹介する。

[読オ] 自分の経験と結び付けながら、物語の好きなどころをはっきりさせている。
---

### 【Bの状況】

大好きなところとして選んだ理由を、自分の経験と結び付けながら付箋に書いている。

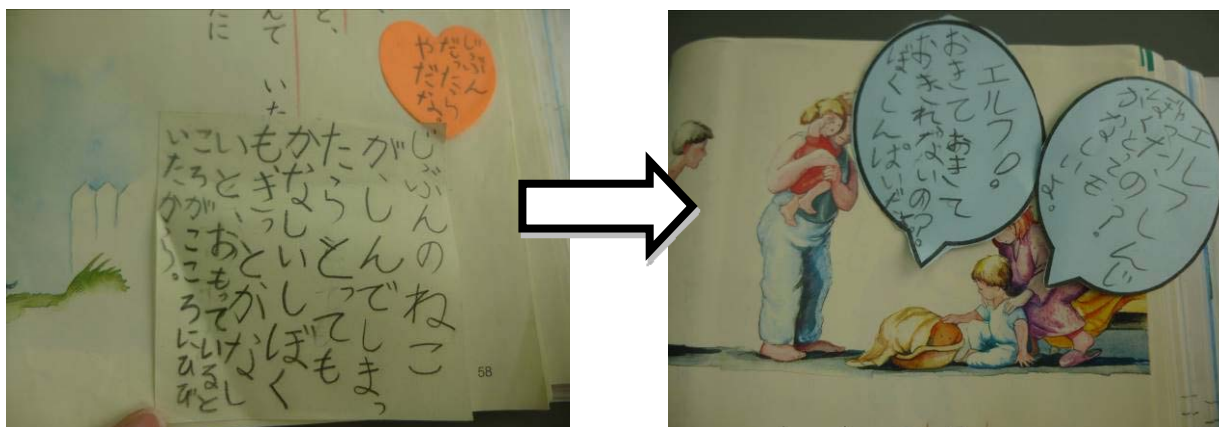
(例)・わたしも友だちの犬のお腹にのせてもらって気持ちよかったから。

・自分の友だちが犬をくれるといたらうれしいから。

さらに、下の写真の児童は、自分の経験と結び付け、登場人物の気持ちを想像して大好きな理由をはっきりと説明していることから「十分満足できる」状況（A）と判断した。

### 【Aの状況】

・この児童は、自分の飼い猫が死んでしまったらと想像した悲しい気持ちと、主人公ぼくの悲しい気持ちを重ね合わせた上で、さらにそのことが心に響いたことを記述している。



・このような付箋を付けた児童は、次時の吹き出しの中身を書く学習の際に、上記（写真右側）のような言葉を想像することができている。エルフが死んでしまって悲しい気持ちを想像するにとどまらず、動かなくなってしまったエルフを心配する気持ちを表現している。

Bの状況については、全ての児童について付箋を基に判断した。机間指導において、上記のような姿が見られた場合にはAと判断し、全体交流では見本として発表してもらうなど全体に広めていった。付箋がなかなか書けず、Bの状況に達していない児童については、サイドラインが引いてあるお気に入りの場面と一緒に確認し、なぜサイドラインを引いたのか思い出し、その中で似たような経験をしたことはないか、他の本で読んだことはないか質問し、想起できるよう個別に指導した。

## （4）学習指導を振り返って

1年生が、悲しい気持ちになるお話を大好きと言えるようになるには、事前の耕しが不可欠だった。それは、お話の表面だけを理解し、「かわいそう」「いやな気持ち」という表現しかできなかったからであった。たくさんの本に触れ、かわいそうな出来事の裏側には、優しい気持ちや温かい思いが隠れていることに、マイ吹き出しを当てながら気付くことができるようになってきた。

また、本文を繰り返し読み、交流を繰り返す中で、お話を十分に味わいながら読むことができるようになってきた。実体験に裏付けられた想像には説得力があり、より具体的に想像の世界を広げることができるようになった。一方で、お話のストーリーを理解できず、全く関係のない想像を広げてしまう児童もいる。そのような児童も、根気強く読み聞かせを続け、大好きなところを交流する中で、少しずつ成長している。

### 事例3 第2学年

#### 1 単元名 なでしこレオ＝レオニ展を開こう

教材名 「アレクサンダとぜんまいねずみ」他 レオ＝レオニ作品

#### 2 言語活動とその特徴

本単元では、お気に入りのレオ＝レオニ作品を紹介する「なでしこレオ＝レオニ展」を開くこととした。これは、同じ作者の作品を選んでそれを繰り返し読み、大好きな場面や文を紹介する言語活動全体を指すものである。本単元でいう「なでしこレオ＝レオニ展」とは、自分にとってお気に入りのレオ＝レオニ作品の中から印象に残った一文を書き抜き、その理由やお話の概要などを入れて紹介文を書き、登場人物を動かせるようにした絵も添えて図書室に展示するというものである。低学年の児童は、レオ＝レオニ作品を読んで驚いたり、感動したりするところをたくさん見つけられるものである。それをレオ＝レオニ展として展示し、読書紹介につなげることを考えた。なお、単元名にある「なでしこ」とは本校の象徴であり、「自分たちの」という思いを表すものである。

「なでしこレオ＝レオニ展」を開くためには、お気に入りのレオ＝レオニ作品の場面について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読まなければならない。そして、想像を広げながら読んだことを基に、印象に残った一文を書き抜き、その理由やお話の概要を紹介する文章を書いて読書紹介につなげていきたい。したがって、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」と「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」を実現する上で適切な言語活動であると考えた。

印象に残った一文の書き抜き（C読むことエ）

書誌情報（題名、副題、作者、訳者、出版社）

お話の概要（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（カ））

登場人物の行動から導かれる、印象に残った一文を選んだ理由（C読むことウ）

大好きな場面の登場人物を動かせるようにした絵（図画工作科）

#### 3 単元について

##### (1) 児童について

音読に繰り返し取り組み、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようになってきている。これまでに児童は、「きつねのおきやくさま」で音読劇を行い、一つの作品をクラスみんなで読み、表現することで、場面の様子や登場人物の行動を中心に想像を広げてきた。本単元では自分のお気に入りの一冊を選び、印象に残った一文とその理由、お話の概要などを書き、紹介する学習を初めて行う。毎週、司書による様々な本の読み聞かせの機会があり、それを楽しみ

にしている児童が多い。第1学年で行った「シリーズでよんでみよう」という単元により、日常的にシリーズ読書を楽しむ姿が見られるようになった。その際、読む能力の発達の段階を踏まえ、“一人の作家が書いたもので、主人公が同じもの”のシリーズ作品（例：「ますだくんシリーズ」など）を取り上げたが、本単元では初めて“一人の作家が書いたもので、主人公が異なるもの”としてレオ＝レオニ作品を取り上げる。

### (2) 教材について

本単元ではレオ＝レオニ作品を、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、印象に残った一文を書き抜く力を育成したい。そのために、レオ＝レオニ作品の図書資料を複数冊用意していく。レオ＝レオニの絵本の魅力は、まず絵の色遣いの鮮やかさにある。さらに、それぞれの主人公が他とは違う自分のありのままの姿を前向きに受け入れ、自分の持ち味を生かして友人を助けるような優しい性格の持ち主だということである。児童の心を耕す上でも、この時期に多くのレオ＝レオニ作品と出合っしてほしいと考え、本単元を設定した。また、ほとんどの作品が谷川俊太郎の訳で、日本語の響きの面からも楽しむことができる。自分の選んだ作品を友達や家の人を紹介することによって、その作品に対する思いが深まると同時に、友達が紹介した作品を読んで、読書により親しんでほしいと考えた。

### (3) 指導について

児童一人一人が主体的かつ意欲的に読む学習を行えるようにしたい。そのために単元のゴールを明確にする。また、互いに関わり合いながら課題解決ができるように、交流スペースを設け、児童自らが自由に交流し合えるようにする。

## 4 単元の指導目標

- レオ＝レオニ作品に興味を持ち、進んでレオ＝レオニ作品を読んだり、紹介文を書いて伝え合ったりしようとするができる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ◎ お気に入りのレオ＝レオニ作品の場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んだり、印象に残った一文を書き抜いたりすることができる。 (読むことウ、エ)
- 主語と述語との関係に注意して、文や文章を読んだり書いたりすることができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

## 5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・レオ＝レオニ作品に興味を持ち、進んでレオ＝レオニ作品を読んだり、大好きな場面の紹介文を書いて伝え合ったりしようとしている。	・お気に入りのレオ＝レオニ作品の場面の様子について、好きな場面を選んだり、お話の概要をまとめたり、印象的な一文の理由を書いたりしながら、登場人物の行動を中心に想像を広げて読んでいる。(ウ) ・お気に入りのレオ＝レオニ作品の中から、印象的な一文を書き抜いている。(エ)	・主語と述語との関係に注意しながら、文や文章を読んだり書いたりしている。 イ(カ)

## 6 単元の指導計画 (全8時間扱い)

次 時	学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
0 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級文庫に置いてあるレオ＝レオニ作品を読む。</li> <li>・レオ＝レオニ関連グッズを見てレオ＝レオニ作品への興味・関心を高める。</li> </ul>	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p><b>指導のポイント①</b> 単元の導入前から作品への興味を持てるよう「0次」の学習を設けます。</p> </div>

第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているレオ＝レオニ作品について発表する。</li> <li>・「なでしこレオ＝レオニ展」を開くという学習課題を把握し、学習の見通しを立てる。</li> </ul>	<p>☆意欲を高めるために今まで読んだレオ＝レオニ作品について自由に発表させる。</p> <p>◇ [関] 学習課題を理解し、意欲的にレオ＝レオニ作品を読もうとしている。</p> <p>(観察・発言)</p>
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材の書誌情報を書く。</li> <li>・自分が選んだ本の書誌情報を書く。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント②</b>  <b>共通学習材で学んだことを自分の選んだ本に生かして読めるよう、1単位時間の学習過程を工夫します。</b></p> </div>	<p>☆題名、副題、作者、訳者、出版社を書くことで、「なでしこレオ＝レオニ展」を見た人がどの本なのか分かるようにする。</p> <p>◇ [関] 進んで書誌情報を書こうとしている。</p> <p>(観察・書誌情報カード)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材を読んで、誰が何をしてどうなったお話か、概要をまとめる。</li> <li>・自分が選んだ本を読んで、誰が何をしてどうなったお話か、お話の概要をまとめる。</li> </ul>	<p>☆お話の概要をまとめる際には、挿絵3枚を選び、挿絵から誰が何をしてどうなったお話なのかをまとめられるようにする。</p> <p>◇ [言イ(カ)] 主語と述語との関係に注意し、文や文章を読んだり書いたりしている。(お話カード)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材を読んで、大好きな場面を見付ける。</li> <li>・自分が選んだ本を読んで、大好きな場面を見付ける。</li> </ul>	<p>☆自分のお気に入りの本で大好きな場面を見付けることで、主体的に読めるようにする。</p> <p>◇ [読ウ] お気に入りのレオ＝レオニ作品の大好きな場面を見付けながら、登場人物の行動を中心に想像を広げて読んでいる。(付箋)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材を読んで、大好きな場面の中から印象に残った一文を見付ける。</li> <li>・自分が選んだ本を読んで、大好きな場面の中から印象に残った一文を見付ける。</li> </ul>	<p>☆児童の意見を類型化し、印象に残った一文の選び方にもいろいろあることに気付かせる。</p> <p>◇ [読エ] お気に入りのレオ＝レオニ作品の中から印象的な一文を書き抜いている。(一文カード)</p>
	6 (本時①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通学習材を読んで、交流しながら印象に残った一文を選んだ理由についてはっきりさせる。</li> <li>・自分が選んだ本を読んで、交流しながら印象に残った一文を選んだ理由についてはっきりさせる。</li> </ul>	<p>☆書き終わったら、声に出しながら読むことでおかしいところがないかを考えさせる。</p> <p>◇ [読ウ] 印象に残った一文を選んだ理由について登場人物の言動を手掛かりにはっきりさせ、想像を広げながら読んでいる。(理由カード)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ本の大好きな場面の絵を添えて、紹介文を完成させる。</li> </ul>	<p>☆絵については図画工作科の学習と関連させて作成する。</p>
第三次	8 (本時②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の書いた文章を読み、よいところを見つけて互いに伝える。</li> <li>・「なでしこレオ＝レオニ展」学校図書館に開設し、全校児童や保護者に見てもらおう。(課外)</li> </ul>	<p>☆自分が選んだレオ＝レオニの本を添え、完成した作品は学校図書館に展示しておく。</p> <p>◇ [関] 完成した「なでしこレオ＝レオニ展」の作品を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合おうとしている。(「すてきカード」・観察)</p>



7 本時①の指導（6／8時間目）

（1）本時①の目標

印象に残った一文を選んだ理由について、登場人物の言動を手掛かりにはっきりさせ、想像を広げながら読むことができる。（読むことウ）

（2）本時①の展開

学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確かめる。</p>	<p>☆これまでの学習を振り返ることができるよう、学習計画表を掲示しておく。</p>
<p>「なでしこレオ＝レオニてん」をひらくために、一文をえらんだ理ゆうを書こう。</p>	
<p><b>指導のポイント③ 交流のイメージを示します。</b></p>	
<p>2. 共通学習材「アレクサンダとぜんまいねずみ」を読んで、前時に選んだ印象に残った一文の理由をワークシートに書き、交流する。</p> <div data-bbox="162 853 561 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント④</b> 一人一人が心に残った叙述を示す「心にのこったよマーク」により、個に応じた交流の目的を持てるようにしていきます。</p> </div>	<p>☆交流のイメージを全体で共有するために、前時に理由を見付けるのが難しそうだった児童を取り上げ、児童同士でどのように交流したらよいか交流のやり方を示す。</p> <p>☆早く書き終わった児童や理由が見付からない児童は、前時に貼った「心にのこったよマーク」（ハート型の付箋）を参考にしながら書いた理由を互いに交流する。そうすることによって、早く書き終わった児童は理由が様々あることに気付くことができ、理由が見付からない児童は友達の理由を参考にしながら自分にぴったりの理由を見付けることができる。交流の仕方としては、オープンスペースに書見台を置いておく。そこに交流したい相手とペアになって行き、順番に選んだ一文のページを開いて置き、理由を互いに話し合う。</p>
<p>3. 書いた理由を全体で発表し合い、理由の書き方を整理する。</p> <div data-bbox="162 1346 561 1592" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント⑤</b> 自分が選んだ本でも目的を持って交流できるよう読書の状況を一覧にした表を活用します。</p> </div>	<p>☆児童から出てきた理由を、前時までに蓄積しておいた以下の観点で整理し、様々な理由があることに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言動から好きな理由を書いている。（ウ）</li> <li>・言葉の響きから好きな理由を書いている。（ア既習）</li> <li>・自分の経験と照らし合わせて好きな理由を書いている。（オ既習）</li> <li>・他の本と比べながら好きな理由を書いている。（カ既習）</li> </ul> <p>※記号は対応する指導事項を示す。</p>
<p>4. 共通学習材で学んだ理由の書き方を参考にしながら、自分のお気に入りの作品から、前時に選んだ印象に残った一文の理由を「理由カード」に書き、交流する。</p>	<p>☆書き終わったら声に出しながら読むことでおかしいところがないかを考えさせる。</p> <p>☆共通学習材と同様のやり方で一文を選んだ理由の交流を行う。</p> <p>◇ [読む] 印象に残った一文を選んだ理由について、登場人物の言動を手掛かりにはっきりさせ、想像を広げながら読んでいる。（理由カード）</p>
<p>5. 本時の活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>☆次時は「なでしこレオ＝レオニ展」に展示する作品を清書して完成させることを確認する。</p>

8 本時②の指導（8／8時間目）

（1）本時②の目標

完成した「なでしこレオ＝レオニ展」の作品を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合おうとすることができる。  
（国語への関心・意欲・態度）

（2）本時②の展開

学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確かめる。</p>	<p>☆これまでの学習を振り返ることができるような掲示をしておく。 ☆完成した「なでしこレオ＝レオニ展」の作品は、自分が選んだ本を添えて事前に学校図書館に展示しておく。 ☆本時の学習も学校図書館で行う。</p>
<p>かんせいした「なでしこレオ＝レオニてん」を見て、友だちのいいなと思うところを「すてきカード」に書いてつたえよう。</p>	
<p>2. 「すてきカード」の書き方やいいなと思うところとはどんなところなのかを全体で話し合う。</p> <div data-bbox="162 958 561 1205" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p><b>指導のポイント⑥</b> 「すてきカード」を渡すことによって、学習の達成感を味わわせ、読書への興味・関心をより高めます。</p> </div>	<p>☆「すてきカード」（花型の付箋）にいいなと思うところを書いたら、その友達の作品のところに貼るようになる。 ☆いいなと思うところとは文字のきれいさや絵の上手さといった見た目のことではなく、内容に目が向けられるように助言する。 (例) ・その本を読んでなくてもだれが何をしてどうなったお話なのか、お話の概要が分かりやすく書いてあるから、どんなお話がよく分かる。 ・同じ本を選んでいても心に残った一文が違っていた。 ・心に残った理由を読んで、その本を読んでみたくなった。</p>
<p>3. 完成した「なでしこレオ＝レオニ展」を見て、感想を伝え合う。</p>	<p>☆完成した作品だけでなく、そこに添えてあるレオ＝レオニ作品も読んでよいことを伝える。 ☆「すてきカード」を全員が必ずもらえるように、最初に書く相手は教師が意図的に決めておく。その後は自由に見て回り、「すてきカード」に感想を書いて伝え合う。その際、読書の状況を一覧にした表を参考にしてもよいことを助言する。 ◇ [関] 完成した「なでしこレオ＝レオニ展」の作品を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合おうとしている。 （「すてきカード」・観察） ☆内容に目が向けられた感想を取り上げ、感想を書いた児童も感想をもらった児童も書いて表現することのよさを実感できるようにする。</p>
<p>4. 本単元の活動を振り返る。</p>	<p>☆今後、「なでしこレオ＝レオニ展」をしばらくの間開き、全校児童や保護者にも見てもらうことを確認する。 ☆本単元を学習して、「楽しかったな」、「レオ＝レオニの作品が好きになったな」と思えるように、児童のがんばりを認め、励まし、褒めていく。</p>

## 9 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 「0次」の学習 (ポイント①)

単元に入る前から児童の興味・関心や課題意識を豊かに醸成する時間「0次」を設けた。単元に入る前に児童が学習したいと思えるような土壌づくりをすると、児童が主体的に学習に臨めるようになるからである。図書館司書と連携し、レオ＝レオニ作品を学級文庫に置いておき、児童が自然と学習したくなるような環境を作った。いつでもレオ＝レオニ作品を手にとって読めるようにした。また、レオ＝レオニの関連グッズを教室に掲示しておき、興味・関心を高めておいた。



#### ② 児童の実態を踏まえた学習過程の工夫 (ポイント②)

低学年の児童たちが、学んだことを自ら使いこなして学習を進めることができるよう、特に第二次を工夫した。具体的には、共通学習材で学習したことを自分が選んだ本にもすぐに活用できるよう、「共通学習材→自分が選んだ本」というように、第二次の1単位時間の前段で共通学習材を、後段で自分が選んだ本を読み進めていく学習過程をとった。この第二次は、書誌情報→お話の概要→大好きな場面を見付ける→



…と、展示する作品をつくり上げながら学習を進めていった。図画工作科の学習とも関連させながら、お気に入りのレオ＝レオニ作品の好きな場面を背景にして、そこに印象に残った一文とその理由、お話の概要と好きな場面、書誌情報がつながるように紹介文を書いていった。

#### ③ 交流のイメージの共有 (ポイント③)

第二次の毎時間、児童同士の交流を取り入れた。先に交流したい児童もいれば、自分で考えてから交流したい児童もいることが予想されたので、授業の始めに全体で交流のイメージを共有できるようにした。誰と交流したらいいのか、どのような質問をしたり意見を言ったりしたらいいのかなどが明確になるように、2名の児童のやりとりを示すことで実際に交流の進め方を例示した。

#### ④ 「心にのこったよマーク」の活用 (ポイント④)

本単元の第二次の共通学習材を学習する際には、場面ごとに読み取りをするのではなく、作品全体から好きなどころを見付けられるようにした。共通学習材でお気に入りの一文を選ぶ際、誰がどの場面のどの一文が印象に残ったのかが視覚的に分かるように、本文の拡大掲示に「心にのこったよマーク」を貼った。そうすることによって、印象に残った一文は見付かったが理由が書けない児童は、同じ一文を選んだ友達に理由を聞いて、自分の好きな理由にぴったりの言葉を探そうとする。印象に残った一文もその理由も見付かった児童は、自分とは違う一文を選んだ友達の理由を読んでもっと「大好き」を広げたり、同じ一文でも違う理由があることに気付いたりすることができる。



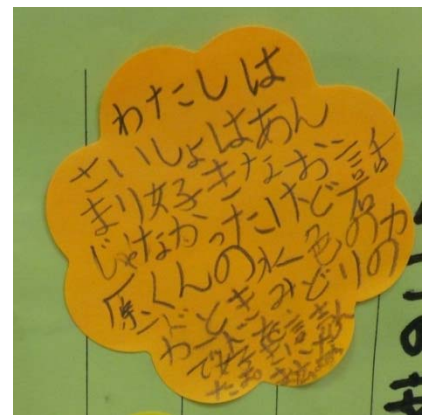
⑤ 一人一人の読書の状況を一覧する表の活用（ポイント⑤）

自分が選んだ本でも目的を持って交流することができるように、一人一人の読書の状況を一覧する表を活用した。この表には、横軸に児童名、縦軸にレオ＝レオニ作品が書かれており、その本を読んだら赤（すごくお気に入り）、橙（お気に入り）、黄（まあまあ）のシールを貼った。そうすることによって、自分が選んだ本での交流も、赤シールの友達と交流して自分と同じなのか違うのかを聞いたり、あえてその本を読んでいない友達と交流してどう思うかを尋ねたりすることができる。

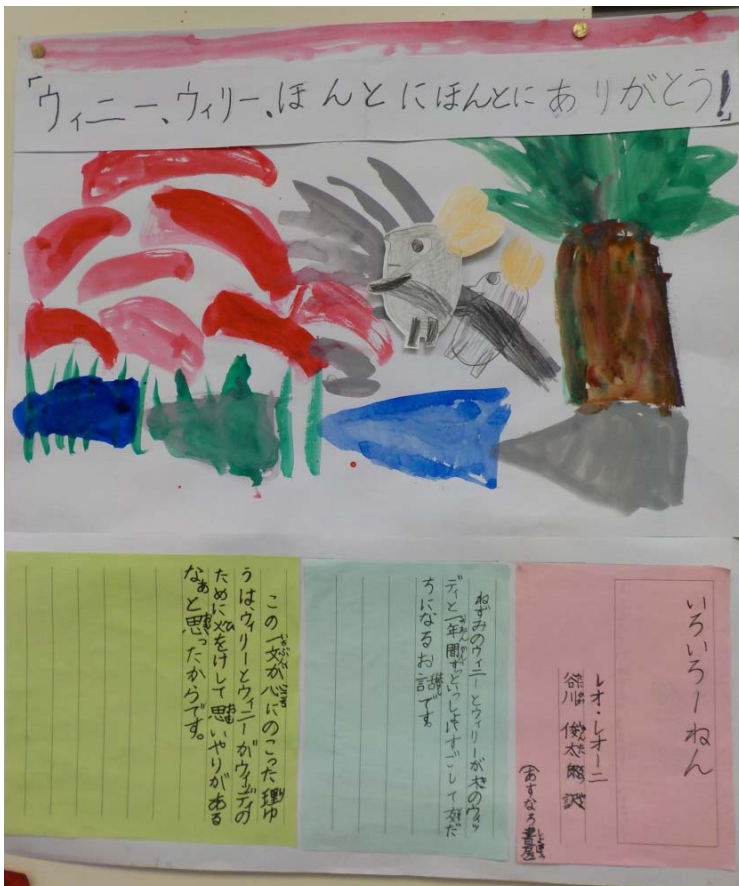


⑥ 「すてきカード」（ポイント⑥）

完成した「なでしこレオ＝レオニ展」の作品を読み合い、「すてきカード」に友達のいいなと思うところを書いて渡すことで、学習の達成感や成就感を味わわせる。この際にも読書の状況を表した一覧表を活用し、読んだことのない友達に「読んでみたくなった」と言ってもらえたり、もともとその本をお気に入りだった友達に「もっと好きになった」と言ってもらえたりして、学習の成果を実感できた。また、0次からレオ＝レオニ作品を数多く読んできたが、友達の「なでしこレオ＝レオニ展」の作品を見て、さらに読書への興味・関心が高まった。



(2) 児童の姿から



左の作品を作った児童は、『いろいろ1ねん』という本を選んだ。「ねずみのウニーとウイーが木のウッデイと1年間ずっと一緒に過ごして友達になるお話」とお話の概要をまとめた。大好きな場面はこの火を消している場面、その中でも「ウニー、ウイー、ほんとにほんとにありがとう!」という一文を印象に残った一文として選んだ。そして、この一文を選んだ理由として「ウイーとウニーがウッデイのために火を消して思いやりがあるなと思ったから」と書いている。

授業の前段に共通学習材で学んだことを生かして、後段で自分が選んだ本の紹介文をスモールステップで作成していったので、どの児童もこのように場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んだり、印象に残った一文を書き抜いたりすることができた。また、交流によって児童の考えがより深まったり、広がったりして、児童自身も交流のよさを実感できた。

### (3) 評価の実際

第6時における評価の具体例を取り上げ、児童の状況と教師の働き掛けを述べる。

#### ① 「おおむね満足できる」状況（B）及び「十分満足できる」状況（A）について

〔読む〕印象に残った一文を選んだ理由について、登場人物の言動を手掛かりにはっきりさせ、想像を広げながら読んでいる。

ここでは、この評価規準に照らして、自分にとって印象に残った一文は、誰が何をしたから印象に残っているのか登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができているならば「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。教師の支援や児童相互の交流を通してこのような状況が見られるようになった場合も「おおむね満足できる」（B）と判断するようにした。例えば以下のような児童の状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

#### 【Bの状況】

- ◇チョコが気持ちよさそうにうれしくとんでいるから。（『チョコときんいろのつばさ』）
- ◇ジェラルディンのふしがおもしろそうだから。（『おながくねずみジェラルディン』）
- ◇ティモシーとスピニーが金メダルをもらっていてすごいと思ったから。（『マックマウスさん』）

また、例えば以下のような児童の状況を「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### 【Aの状況】

- ◇チョコは金色のつばさをまほうの鳥からもらってこまっている人に金色のつばさをあげてたすけてるのがやさしいと思ったから。（『チョコときんいろのつばさ』）
- ◇なかまをうしなったスイミーがいろいろなおもしろいものを見ているうちに、元気をとりもどしてそのうちにもう一つのなかまを見つけて、「みんなであそぼうよ！」と言っているところがすごくたくましいと思ったから。（『スイミー』）
- ◇すごくたかいかべなのにティリーはあきらめないでほうほうをかんがえて、もぐったりもしていかっこいいと思ったから。（『どうする？ティリー』）

これらの児童は、登場人物の行動を中心に想像を豊かに広げて読んでいると判断した。なお、1単位時間の中で、前段に共通学習材による学習を行い、後段で自分が選んだ本による学習を行うことにより、1単位時間の中で指導→評価→指導（→評価）を繰り返し、共通学習材「アレクサンダとぜんまいねずみ」と自分が選んだ本とで確実な指導と評価ができるようにした。また、一文を選んだ理由として、「登場人物の行動」（ウ）だけでなく、既習の「言葉の響き」（ア）や「文章の内容と自分の経験とを結び付けて」（オ）、「本や文章を選んで読んで比べて」（カ）という観点から書いている児童もいるので、第6時だけではなく単元全体を通して登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいるかを判断する必要がある。

#### ② 「十分満足できる」状況（A）となるようにするための指導の手立て

毎時間の導入では、前時の振り返りをする際に、ねらいに沿っている児童の紹介をして本時のめあてに生かしたり、困っている児童を取り上げて交流の観点を示したりしていく。また、座席表を活用して児童の姿を具体的に把握できるようにし、個に応じた指導をしていく。

### (4) 学習指導を振り返って

「0次」を位置付け、単元前から学習意欲を高める環境をつくったことにより、最後まで児童が主体的に取り組むことができた。レオ＝レオニ作品のよさや本の紹介を行う楽しさを味わい、書いて知らせることができる、自分が書いたものを読んで相手が理解し、見てみたいと思ってくれるという喜びを体験し、自信へとつながった。本を自ら手にとって読む児童も増えた。また、一文が選ばなかったり理由が思い付かなかったりする児童も、友達との交流を参考にすることで自分なりに一文を選んだり、その理由を考えたりすることができた。

## 事例4 第2学年

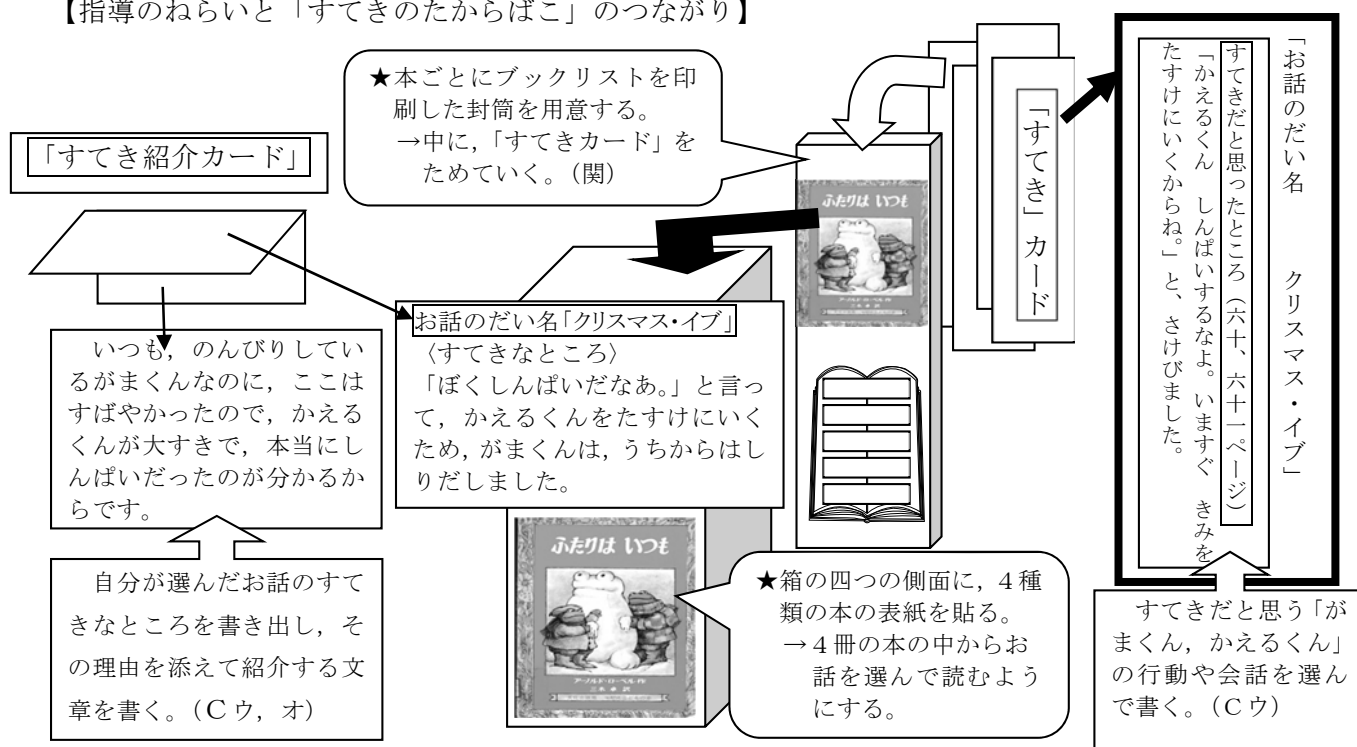
- 1 単元名 がまくん、かえるくんのシリーズを読んで、「すてき」を見つけて紹介しよう  
 教材名 「お手紙」他 がまくん、かえるくんのシリーズ (アーノルド＝ローベル作)

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。」に対応する言語活動として、がまくん、かえるくんのシリーズを読んで、自分が見つけた「すてき」を「すてき紹介カード」に書いて紹介する活動を行うこととした。ここでは、登場人物「がまくん、かえるくん」の行動や会話から、「いいなあ。」「すてきだなあ。」と思うものを見付け、「すてきカード」に書きためていくようにする。したがって、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を実現するのにふさわしい言語活動である。

さらに、シリーズの物語を楽しんで読むことを繰り返す中で、一つのお話だけではなく、他のお話の中での登場人物「がまくん、かえるくん」の行動や会話をつなげたり、比べたりしながら読むことになる。そこで、「C読むこと」の指導事項「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」を実現することにもなる。

【指導のねらいと「すてきのたからばこ」のつながり】



### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童は今までに登場人物に着目して本を選び、必要な事柄を集めて紹介文を書く学習を行っている。好きなところを紹介するための大事な言葉や文章を基に、経験や思いと関係付けて紹介文を書いた。ここでは、自分のお気に入りの場面の様子を、想像を膨らませて読むことができるようになってきたが、これまでの読書体験と関連付けて好きなわけを述べるまでには至らなかった。そこで本単元では、「C読むこと」オの力を付けることに重点を置きながら、「C読むこと」ウを取り上げて指導する。

## (2) 教材について

「お手紙」はシリーズ全 20 作品の一つである。本単元では、これに加えて三木卓訳（文化出版局）のシリーズ 4 冊を取り上げる。シリーズを通して読むと、登場人物の描かれ方や二人の主人公の関係性、挿絵の工夫など様々な事柄に気付くことができる。共通学習材「お手紙」だけでは捉えきれない二人の人物像や関係を、シリーズ作品に触れることを通してより広げながら読むことができるようにする。そして、見付けた「すてき」を紹介することを通して、改めてシリーズ作品を読む楽しさを味わうことができるようにしたい。

## (3) 指導について

シリーズの本をいつでも読むことができるように読書環境を整える。具体的には、「すてきカード」を常置し、いつでも自分が見付けた「すてき」をカードに書くことができるようにする。その際、「すてき」を見付ける視点を明らかにしたり、集めた「すてきカード」を交流したりする場を大切にする。

この場合の交流は、同じお話を読んだ児童同士での交流と、違うお話を読んだ児童との交流と二通りが考えられる。いずれの場合でも、シリーズ作品なので、同じ「がまくん、かえるくん」が登場する話であるという点で、共通する部分があると思われる。自分が見付けた「すてき」と友達が見付けた「すてき」を比べることにより、新たな発見につながることを期待したい。

## 4 単元の指導目標

- 物語に描かれている世界に浸りながらシリーズ作品を読み、その特徴に気付いたり、面白さを味わったりしようすることができる。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ シリーズに共通する登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読み、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分が見付けた「すてき」を紹介することができる。  
(読むことウ、オ)
- 言葉には、語句による意味のまとまりがあることに気付くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ))

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・シリーズ作品の本の楽しさを共有しながら、紹介しようとしている。	・見付けた「すてき」を紹介するために、登場人物の行動や会話に着目して想像を広げて読んでいる。 (ウ) ・自分が選んだお話の「すてき」を、シリーズ作品の他の作品と結び付けて紹介している。(オ)	・言葉には語句による意味のまとまりがあることに気付いている。(イ(ウ))

## 6 単元の指導計画（全 11 時間扱い）

次	時	主な学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
第一次	1	○シリーズ作品を読む楽しさについて話し合う。	☆シリーズ作品を数種類用意し、シリーズ作品を読むことの意識化を図るようにする。 ◇[関] 読んだことのあるシリーズ作品を紹介したり、自分の好きなシリーズ作品の面白さを伝えたりしようとしている。(発表の様子を観察)

	2	<p>○「がまくん、かえるくんのシリーズを読んで、自分の見つけたすてきを紹介しよう」という課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シリーズの読み方を話し合う。</li> <li>・「すてきのたからばこ」に読んだことをまとめるために、どのように学習していくか話し合う。</li> </ul>	<p>☆教科書に「お手紙」が載っていることを確認するとともに、シリーズの本をグループに1セット（4冊）置いておくことにより、読む意欲を高めるようにする。</p> <div data-bbox="726 280 1465 459" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p><b>指導のポイント①</b> 教師がつくった「すてきのたからばこ」を用意し、がまくん、かえるくんのシリーズを読んで見つけた「すてき」を紹介するイメージが持てるようにします。</p> </div> <p>☆がまくん、かえるくんのシリーズを意欲的に読むことができるように、読書カードを準備し、読んだ作品に印を付けていくようにする。</p> <p>◇[読オ] がまくん、かえるくんのシリーズを読んで紹介する学習計画について話し合っている。（発言）</p>
第二次	3 4 5 6	<p>※第3～7時の各時間、前半は「お手紙」、後半は自分が選んだお話を読むようにする。</p> <p>○シリーズから見つけた「すてき」を紹介するために、挿絵と本文を結び付けながら読み、出来事のつながりをつかむ。</p> <p>○シリーズから見つけた「すてき」を紹介するために、自分の好きなところを見付けながら読み、「すてきカード」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すてきだと思ふところ（言葉・文）を抜き出す。</li> </ul>	<p>☆すてきだと思ふところに「すてきカード」を挟みながら読むようにする。</p> <p>☆それぞれのお話の中の特徴的な挿絵を活用することで、「～が～するお話」だ、などと話し合うようにする。</p> <p>◇[読ウ] 登場人物の行動や会話に着目しながら読み、がまくん、かえるくんのシリーズのお話のあらすじを話している。（発表の様子）</p> <p>☆「お手紙」で見つけた「すてき」は、「すてきマーク」を貼って全員の分を一覧できるようにし、シリーズの「すてき」は、本に「すてきカード」を挟んでいくようにする。</p> <p>☆「すてきマーク」を貼ったところや「すてきカード」を挟んだところから、「すてき」の理由をはっきりさせていきたいものを選んで「すてきカード」に書きためていくようにする。</p> <p>◇[読ウ] 登場人物の行動や会話に着目しながら読み、自分の見つけた「すてき」が分かるところを抜き出して書いている。（「すてきカード」）</p> <p>◇[言イ(ウ)] 登場人物の行動や場面の様子に着目しながら読み、すてきだと思った言葉や文を見付けている。（「すてきカード」）</p> <p>☆「すてき」を見付けたり、その理由を考えたりする時の手掛かりとして、以下の点について意識できるように助言していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子が面白い。</li> <li>・登場人物の行動や会話が好き。</li> <li>・自分も似たような経験をしていて共感できる。</li> <li>・他のお話と比べて～だ。</li> </ul>
	7 (本時①)	<p>○シリーズから見つけた「すてき」を紹介するために、「すてきカード」を使って、お話の中で好きな場面や好きなところについて話し合い、すてきだと思ったわけを書く。</p>	<p>◇[読ウ] 登場人物の行動や会話に着目しながら読み、自分の見つけた「すてき」を、理由を付けて話している。（「すてきカード」・話し合う様子）</p>

**指導のポイント②**  
「すてき」が紹介できそうなお気に入りのお話を見つけたら、お話の題名を書いたカードにシールを貼り、友達と「すてき」が交流できるようにします。

**指導のポイント③**  
シリーズ作品のすてきだと思ふ理由を書くことに生かせるように、「お手紙」で見つけた「すてき」の理由を話し合うようにします。



	8 (本時②)	○シリーズから見付けた「すてき」を紹介するために、自分が選んだ作品の好きな場面や好きなところについて、他の作品とのつながりに気を付けて、話し合う。	☆シリーズから好きなお話を選び、自分が見付けた「すてき」を確かめながら、繰り返し本を読むことができるようにしておく。 ☆どうしても一つに決められず、二つのお話を重ねて「すてき」を紹介する児童がいたら認めるようにする。 ◇[読オ]「すてきカード」から一番紹介したい「すてき」を選んで、その理由を書いている。(紹介カードメモ)
	9	○シリーズから見付けた「すてき」を紹介するために、お気に入りの場面とその理由を紹介カードに清書し、作品を読み返しながらか紹介の準備をする。	☆たくさん集めてきた「すてきカード」を読み返すことにより、すてきだと思った理由の中で、他のお話とのつながりについても触れられるようにする。 ◇[読ウ, オ]自分が選んだお話のすてきだと思ったところを抜き出し、その理由を添えて紹介する文章を書いている。(「すてき紹介カード」)※
第三次	10	○シリーズ作品から見付けた「すてき」を紹介し合う。 ・作品を再読する。	☆お話ごとにコーナーを設け、紹介する人と聞く人を交代しながら紹介し合うようにする。 ☆自分が紹介しようと思うお話で見付けた「すてき」と比べながら聞くことにより、シリーズ作品の関連性について新たな発見を出し合ったり、感想を交流したりできるようにする。 ◇[読オ]物語の好きなところを、シリーズの他の作品の読書体験と結び付けて紹介している。(「すてき紹介カード」・発表内容)
	11	○友達が紹介するお話を読み、学習全体を振り返って、シリーズ読書の面白さを発表する。	☆友達の紹介した作品のうち、読んでみたい作品を読み、感想を述べるようにする。 ◇[関]シリーズ作品の特徴や面白さに気付き、進んで読もうとしている。(読書カードの記録・発言内容)

**指導のポイント④**  
**単元を通してシリーズを読んできて感じたシリーズのよさを話し合い、今後の読書生活に生かせるようにします。**

※「すてき」だと思った理由として、登場人物の言動を取り上げている場合は[読ウ]、シリーズの他の作品との関連を取り上げている場合は[読オ]を評価した。

## 7 本時①の指導 (7/11 時間目)

### (1) 本時①の目標

がまくん、かえるくんのシリーズから見付けた「すてき」を紹介するために、登場人物の言動を手掛かりにして、その様子を想像しながら読むことができる。(読むことウ)

### (2) 本時①の展開

学習活動	○指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
1. 本時のめあてを確認する。	
「すてき」をしようかいするために、一番お気に入りのお話をえらんで、すてきだと思ったわけを書こう。	
2. 「お手紙」で見付けた「すてき」とその理由を発表し合う。	○「お手紙」の本文に「すてきマーク」を貼っておくことで、友達同士が見付けた理由を比べながら交流できるようにする。 ○児童の発言した理由を分類することで、すてきだと思った理由を話す手掛かりに気付き、シリーズ作品の「すてき」を見付けた理由を書くときに生かせるようにする。

**指導のポイント⑤**

児童が発表した理由を分類しながら板書し、「すてき」の理由を書くときのヒントとなる視点が明らかになるようにします。

3. シリーズ作品から自分の「すてき」を選び、話し合ったことを基に、すてきだと思った理由を書く。

**指導のポイント⑥**

机間指導の中で、「すてき」の理由から、お話の関連に気付いている児童を見付け、次時の学習に生かすようにします。

4. 本時の学習を振り返る。

- ・場面の様子から、・・・が感じられるから。
- ・登場人物の行動や会話から、・・・が分かるから。
- ・自分も似たような経験をしていて・・・だと思うから。
- ・他のお話と比べて・・・だから。 等

- 「すてきカード」の裏に理由を書くスペースを用意しておき、話し合った中で、理由を書きおきたいカードを選んで、すてきだと思った理由を書くようにする。
- 「どのお話」の「どんなところ」がすてきだと思ったのか、常にお話の内容を確かめられるように、4冊の本を手元に置いて、本を開きながら考えられるようにする。
- 一番お気に入りのお話を選び、自分の見付けた「すてき」を紹介できるように、すてきだと思った理由を明確にすることができるようにする。
- ◇[読む] 登場人物の行動や会話に着目しながら読み、自分の見付けた「すてき」の理由を書いている。  
(「すてきカード」・話し合う様子)
- シリーズ作品の「すてき」がたくさん見付かったことを生かし、次の時間は紹介するためにお話を選んでいくことを確認する。

**8 本時②の指導（8／11 時間目）**

**(1) 本時②の目標**

選んだ作品の「すてき」を紹介するために、人物の言動を手掛かりに、他の作品ともつなげて、すてきだと思ったわけをはっきりさせることができる。 (読むことオ)

**(2) 本時②の展開**

学習活動	○指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
1. 本時のめあてを確認する。	
自分がえらんだおはなしの「すてき」をしょうかいするために、すてきだと思ったわけをくわしくして、自分の見つけた「すてき」をしょうかいする文しょうを書こう。	
2. 「すてきカード」の中から、自分が一番紹介したいお話を選び、そのわけを話し合い、紹介したいお話とその理由を明確にする。	○本ごとにコーナーを設け、自分が選んだお話のコーナーに行くと、同じお話を選んだ友達同士で、わけを話せるようにする。 ○「友達は、どんなところにすてきを見付けていたか。」「友達は、すてきだと思った理由をどのように話していたか。」という、交流の視点を示すことで、自分の見付けた「すてき」と比べながら交流できるようにする。
3. 友達と交流したことで、自分が選んだお話の「すてき」と比べて、発見したことを話し合う。	○グループの話し合いで発見したことを話し合うことにより、がまくん、かえるくんのシリーズには、関連した「すてき」があることに気づき、すてきだと思ったわけとして使えるようにする。 ・登場人物はどのような行動をしたのか。また、その特徴は何か。(その人物らしい、繰り返す、前とちょっと違う等) ・登場人物はどのような言葉を発しているか(会話)。また、その特徴は何か。 ・二人の関係が分かる場所はどこか。またそれは、どんな関
<b>指導のポイント⑦</b> 交流から発見したことを板書で整理することで、がまくん、かえるくんのシリーズのお話の関連を見付けられるようにします。	

<p>4. 自分が選んだお話の「すてき」について紹介する文章を書く。</p> <p>5. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>係か。(自分と比べてどうか, 他のお話と比べてどうか)</p> <p>○みんなが見つけた「すてき」を分類して板書しておくことで, 一つのお話だけでなく, 他のお話とのつながりも考えて, 自分が見つけた「すてき」を紹介する文章が書けるようにする。</p> <p>◇ [読オ]「すてきカード」から, 一番紹介したい「すてき」を選んで, 他のお話から見つけた「すてき」とつなげながらその理由を書いている。(メモ)</p> <p>○シリーズ作品から, 一番の「すてき」を一人一人が見つけたことを確認し, 次時に交流する楽しみにつなげるようにする。</p>
--	--

## 9 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 単元の学習の見通しを持つための導入の工夫 (ポイント①)

児童が主体的に学ぶために, 単元の導入時に, 単元の学習を見通すことが大切である。そこで, 児童がよく知っているシリーズ作品『ぐりとぐら』を使って「すてきのたからばこ」を示し, 学習の見通しを立てられるようにした。そして, 「がまくん, かえるくんのシリーズを読んで, すてきをしょうかいよう」という学習課題を設定し, 学習計画を立てるようにした。そこで, 「お手紙」とともに, がまくん, かえるくんのシリーズを読むことを確認した。さらに, 見つけた「すてき」を紹介するために, どのように学習を進めていけばよいか話し合い, 学習計画を作成した。見つけた「すてき」を紹介するという目的を明確にすることにより, 児童が主体的に学ぶことができることを目指した。



側面に掲示した学習計画表

#### ② 習得したことを活用できるようにする指導過程の工夫 (ポイント③⑤)

共通学習材「お手紙」で学んだことを自分が選んだ作品の読みに生かすことができるように, 指導過程を工夫した。「お手紙」で見つけた「すてき」は, 本文の掲示物に「すてきマーク」を貼っていき, シリーズの「すてき」は, 本に「すてきカード」を挟んでいくようにする。「すてきマーク」を貼ったところや「すてきカード」を挟んだところから, 「すてき」の理由をはっきりさせていきたいものを選んで「すてきカード」に書きためていくようにする。



第7時の学習では, 「お手紙」で見つけた「すてき」を, 理由を付けて交流しながら, 理由を書く際の視点を整理するようにした。その視点を, 自分が選んだお話の「すてき」の理由を書くときに活用できるようにした。



廊下の掲示の様子

#### ③ お話の関連に気付くための交流の工夫と教師の支援

(ポイント②⑥⑦)

廊下にお話の題名を書いたカードを貼っておき, 「すてき」が紹介できそうなお気に入りのお話を見つけたら, シールを貼るようにした。交流の際, 同じ作品にシールを貼っている友達を見付け, 声を掛け合う姿が見られた。

第8時には, 自分が選んだお話の「すてきなところ」と「そのわけ」を交流することを通して, がまくん, かえるくんのシリーズの「すてき」に気付くことができるようにした。「紹介カード」

には、他のお話と比べて感じた「すてき」についても書くことをねらった。そこで、机間指導において、作品の関連に気付き、理由を書いている児童や二つ以上の「すてきカード」に関連した記述をしている児童に意図的に声を掛け、気付きを促すように留意した。

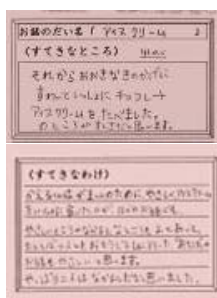
#### ④ 今後の読書生活に生かす工夫（ポイント④）

単元の最後には、シリーズ作品から見つけた自分の「すてき」を紹介し合う場を設けた。お話ごとにコーナーを設け、紹介する人と聞く人を交代しながら紹介し合うようにした。そこで、自分が紹介しようと思うお話で見つけた「すてき」と比べながら聞くことにより、シリーズ作品の関連性について新たな発見を出し合ったり、感想を交流したりできるようにした。こうした手立てを取ることで、単元を通してシリーズを読んできて感じたシリーズのよさを一層実感し合い、今後の読書生活に生かせるようにした。

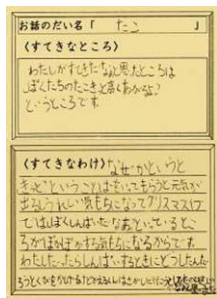


## （２）児童の姿から

### 【紹介カードの例】



**お話のだい名【アイスクリーム】**  
**〈すてきなところ〉**  
 「それから大きな木のかげにすわっていっしょにチョコレートアイスクリームをたべました。」のところがすてきだと思います。  
**〈すてきなわけ〉**  
 かえるくんは、がまくんのためにやさしくアイスクリームをいっしょに食べたのが、ほかのお話でも、やさしいところやなかよしなところもよくあって、たとえば二人ともおそうじをしに行った「おちば」のお話もやさしいと思います。やっぱり二人はなかよしだなと思いました。



**お話のだい名【たこ】**  
**〈すてきなところ〉**  
 わたしがすてきだと思ったところは「ぼくたちのたこ きっと高くあがるよ」というところです。  
**〈すてきなわけ〉**  
 なぜかという、「きっと」ということばを言ってもらえると元気が出るし、うれしい気もちになるからです。「クリスマス・イブ」では、「ぼくしんばいだなあ」と言っているところが、ぼかぼかする気もちになります。わたしだったら、しんばいするときに「どしたんだろう。」と首をかしげるけど、かえるくんはさがしにいこうとしました。

## （３）評価の実際

第8時における評価の具体例を取り上げる。ここでは、「C読むこと」の指導事項オに重点を置いて指導に当たった。評価規準は以下の通りである。

[読オ] 「すてきカード」から、一番紹介したい「すてき」を選んで、他のお話から見つけた「すてき」とつなげながらその理由を書いている。

「C読むこと」の指導事項「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」に示す「自分の経験」としては、自分が持っている知識や経験、読書体験などが挙げられる。本事例では、シリーズの作品を多読していることを生かし、その読書体験と結び付けて自分の思いをまとめて紹介できるようにする。具体的には、自分が選んだお話の「すてき」を、シリーズの他の作品と結び付けて紹介できるようにすることをねらう。例えば次のような児童の状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

### 【Bの状況】

- ・「おはなし」：さかだちしたらおはなしが思いつけるんじゃないかなと思ったもんだからと言っているところ→おはなしをつくってと言われただけで、さかだちしたりいろいろしているから、がまくんはかえるくんのことをいつも考えているんだなと思った。

- ・「はるがきた」：5月だって！→いんちきだけど、カレンダーをめくって、めくって、めくって、「5月だよ」って教えて、やさしいと思ったから。ほかのお話では「よていひょう」でもかえるくんがとってあげようというきもちがすきです。

さらに、自分の選んだお話の「すてき」について、シリーズを通した登場人物である「がまくん」「かえるくん」の行動や会話について、作品間の共通点や類似点を挙げて紹介しているものを、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### 【A の状況】

- ・「お手紙」「そりすべり」：「親愛なる～」というところ→親愛という言葉がすてきだなあと思ったからです。きるものをもってきてくれるのが、やさしいと思ったからです。「お手紙」で、手紙に親友と書いてあったので、かえるくんはいつもがまくんにやさしくしてるのだと思いました。「そりすべり」では、きるものをもってきてくれるのがやさしいと思ったからです。「お手紙」で手紙に親友と書いてあったので、かえるくんはがまくんにやさしくしてるのだと思いました。
- ・「クリスマス・イブ」：がまくんがかえるくんのために、クリスマスのばんごはんをつくっていたところ→がまくんが、クリスマスのばん、かえるくんのためにどっさりごちそうを作っていたのがやさしいと思ったからです。「おちば」だったらほんたいに、かえるくんががまくんのためにがまくんのおにわのおちばをひろってあげていて、二人ともやさしいと思ったからです。

#### （4）学習指導を振り返って

この単元の学習では、「すてきカード」をためることが、自然に多くのお話を読むことにつながった。そして、同じお話に「すてき」を見つけた友達が集まり、互いに見つけた「すてき」を伝え合う姿が見られた。自分の見つけた「すてき」と比べながら聞くことができ、似ていることで納得したり、異なることで新たな発見につながったりした。

お話を多読したことで、同時に二つのお話のページを開き、そこでのがまくん、かえるくんの様子を比べながら読む姿も見られた。また、自分の見つけた「すてき」を説明する際に、その根拠となるページを開き、みんなに見せながら話す姿も見られた。

単元の最後には、がまくん、かえるくんのシリーズ4冊を並べて、「～なお話もあったね。」「ここでは、がまくんは～だったね。」等、楽しそうにシリーズの世界を語っていた。シリーズの本を読んだ感想を以下のようにまとめることができた。



- 二人がけんかしても、さいごはなかなかおもしろい「いいよ。」と言ってあげたりして、二人は気もちがつうじあってるなかよしで、さいごはかいけつして楽しくしてととってもいいなかよしだと思いました。わたしは、まねしたくなる気もちになりました。がまくんとかえるくんはずっとなかよしでいてほしいです。
- がまくん、かえるくんのシリーズを読んで見つけたことは、二人は、いつも親友で、ときどきがまくんがすねて、あきらめたりもするけれど、かえるくんがゆうきづけたり、がまくんに楽しいことをしてあげたりして、ふたりは親友だということが、このお話でわかるから、かえるくんみたいなやさしい人になろうと思いました。
- がまくん、かえるくんシリーズを読んで、「こわくないやい」などの本の中のお話でけんかやいやなことがあってもなかなかおもしろい、毎日なかよしなのがいいと思いました。シリーズではいろいろあるけど、がまくんかえるくんは、シリーズからとび出てきてもらいたいぐらいすきになりました。

## 事例5 第3学年

### 1 単元名 食べ物の秘密を本で調べて、家の人に報告しよう

教材名 「すがたをかえる大豆」他 食べ物のことが書かれた図鑑や事典など

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、自分が興味を持ったことを図鑑や事典で調べて、分かったことを調査報告文に書く学習を行う。

調査報告文は、調べたきっかけ・調べ方・分かったこと・まとめなど、ある程度構成が決まっており、相手や目的をはっきりさせて、調べたことを分かりやすくまとめて書く文種である。

本単元の調査報告文も、調べたきっかけ・調べ方・分かったこと（事例）・まとめ（考えたこと）の構成とし、段落相互の関係を意識させたい。教科書教材「すがたをかえる大豆」は解説文であるが、言語活動としては、初めて知ったことを伝えたいという児童の思いを生かすことのできる調査報告文にまとめるようにする。書くことを中心にするのは、児童が驚いたことや追究したいことであり、その事例を図鑑や事典などから見付けて挙げていく。報告文を読んでもらう相手を家の人とし、普段の食卓にのることの多い食べ物の秘密を伝えようという目的を持って活動できるようにしていきたい。

牛乳からできる食品

牛乳は毎日給食に出ています。栄養士の沼田先生から、「バターは牛乳から作られているんですよ。」と聞いて、びっくりしました。そこで、ほかにもあるのかな、ときもんに思い、牛乳からどんな食品ができるのか、調べることにしました。

調べ方は、牛乳のことがのっている本や図かんなどを見ました。たくさんある中から、とくにびっくりした食品を書くことにしました。まず、バターです。バターは、集められた生乳から乳脂肪だけを、十三度から十八度の温度のとき、自由に形を変えられるので、パンやおかしにもたくさん使われています。次に、チーズです。チーズは、乳酸菌とこうそを入れてかためたものです。チーズにはナチュラルチーズとプロセスチーズという種類があります。そして、世界には千種類以上のチーズがあります。

また、キャラメルも牛乳から作られています。乳脂肪を取り出したものにさとうなどをくわえてにつめ、ひやしたものです。アメリカから日本に伝わり、一九二五年ごろから広く食べられるようになりました。

わたしは牛乳がいろいろな食品に変わっていることにびっくりしました。牛乳には、骨や歯を作るカルシウムがたくさん入っているから、給食にも出るんだなと思いました。

出典 『身近な食べもののひみつ⑦すがたをかえる牛乳・たまご』学研  
『食べものはかせになる③牛乳・肉・たまごからつくる食べもの』ポプラ社

出典

まとめ

分かったこと（事例） 3～4段落程度

調べ方

きっかけ

（教師自作の文例）

### 3 単元について

#### （1）児童について

児童は自分の選んだ科学読み物から、調べたい事柄の中心となる語や文を捉える学習を行ってきた。図鑑や事典などの目次や索引、見出しを利用して疑問に対する答えを見付けたり、見付からないうきに検索ワードや本を換えて調べたりする児童も増えている。

「書くこと」においては、社会科と関連させ、町探検で調べてきたことをカードに書いて分類・整理しながら、書きたい内容の中心をはっきりさせて調査報告文を書いている。本単元では、目的に応じて、段落相互の関係を意識しながら調査報告文を書く学習を行っていく。

#### （2）単元構想及び教材について

本単元では、課題や疑問を持ち、その答えを見付けるために図鑑や事典などを利用して言葉を見付けたり、新たな課題や疑問を発見しながら読んだりする力と、そのようにして調べたことから書くことを明確にし、事例を挙げて書く力の育成をねらった、「書くこと」と「読むこと」を複合させた単元である。その力を付けるために、食品に関する図鑑や事典などを利用して調べたことを、調査報告文にまとめる。

教科書教材「すがたをかえる大豆」を、課題や調べるための視点、調査報告文を書く際の参考となることを見付けるために読む。本教材は、加工の仕方という課題や、具体的な手の加え方など調

べるための視点、文章構成などが捉えやすく、調査報告文を書くときの参考となる。そして、本教材の学習を生かしながら、食べ物に関する図鑑や事典から必要な情報を収集する。

続いて調査報告文の構成・特徴を再度確認し、集めた材料を分類・整理する。そして再度調べることを考えたり、調べ直したりして書くことの中心を明確にし、調査報告文を書く。関連する図書資料としては、『食べものはかせになろう』（ポプラ社）や『身近な食べもののひみつ』（学研）、『調べてみようわたしたちの食べ物』（小峰書房）、『ポプラディア』（ポプラ社）など、目次や索引がある、食べ物についての図鑑や事典、百科事典を使用する。

### (3) 指導について

導入部では社会科の学習と関連を図ったり、栄養士からの話を聞いたりして、食品に対して様々な視点が持てるようにする。また、図鑑や事典からどのように情報を得て、どのように文章にしたのか、過程が分かる掲示物を用意する。そうすることで、児童が調査報告文を書く際、「何を書くか」だけでなく「集めてきた情報をどう書くのか」が分かり、スムーズに書けるようにする。さらに、グループでの活動の場を設定し、互いの疑問を共有したり、相談したりできるようにする。

## 4 単元の指導目標

- 疑問を持ちながらいろいろな本から調べようとしたり、調べて分かったことを報告する文章にまとめたいという思いを持って書こうとしたりする。 (国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 相手や目的をはっきりさせ、調査の結果など書こうとする中心が明確に伝わるように、事例を挙げて調査報告文を書くことができる。 (書くことウ)
- ◎ 課題に応じて必要となる図鑑や事典を選んで読んだり、目的に応じて中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら読んだりすることができる。 (読むことイ、カ)
- 接続語には、文と文との意味のつながりに果たす役割があることを理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ク))

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・疑問に思ったことについていろいろな本から調べたり、分かったことを報告文に書きたいという思いを持って書いたりしようとしている。	・調査の結果とそこから考えたことなどが明確に伝わるよう、理由や事例を挙げて調べたことを報告する文章を書いている。(ウ)	・自分が調べたいことの中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて読んでいる。(イ) ・自分の課題を解決するために必要な本や文章を選んで読んでいる。(カ)	・文や段落相互の関係を示す手掛かりとしての接続語の役割を理解し、読んだり書いたりする際に用いている。(イ(ク))

## 6 単元の指導計画 (全13時間扱い)

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
一	1	<p>*社会科の地域学習で、まちの和菓子屋さん和菓子(練り切り)作りを一緒に行う。</p> <p>・和菓子(練り切り)が、米から作られていることに気付き、栄養士から給食の原料や作り方などについて話を聞く。</p> <p>・身近な食べ物の秘密について知っていることを話し合い、食べ物の秘密を調べることに興味を持つ。</p>	<p>◇[関]食べ物に興味を持ち、栄養士の話を聞いたり、知っていることを話したりしようとしている。(発言内容・振り返りの記述)</p> <p>・児童の意欲につながるように、社会科の学習と関連させて導入する。</p> <p>・日々の食生活に目を向けられるように、栄養士から給食の献立や、牛乳や米、麦などの加工や栄養などにつ</p>

	<p>2 ・ 調査報告文を書く見通しを立て、</p> <p>3 「家の人に食べ物のひみつをほうこくしよう」という学習課題を決める。</p> <p>・ 学習計画を立て、関連図書を大まかに読む。</p>	<p>いて話をしてもらえよう依頼しておく。</p> <p>◇[関]食べ物について調べることに興味を持ち、調べて調査報告文に書くための計画を立てようとしている。(発言内容・振り返りの記述)</p> <p>・ 児童が言語活動のゴールをイメージできるように、調査報告文の文例を用意する。</p> <p>・ 既習の学習を想起し、調査報告文の構成(調べた理由・調べ方・分かったこと・まとめ等)を確認する。</p> <p>・ 児童一人一人が図鑑や事典を読めるように、地域の図書館と連携し、関連図書を複数冊用意しておく。</p>
<p>二</p>	<p>4 ・ 調査報告文を書くために、「すがたをかえる大豆」を読み、驚いたことや調べたいこと、知りたいこと(書いていないこと)を見付ける。</p> <p>* 驚いたこと…黄色の付箋 知りたいこと…ピンクの付箋</p> <p><b>指導のポイント②</b> 調べ学習を進めていく方法や書き方の工夫を教科書教材で学んでいくようにします。</p> <p>5 ・ 調査報告文を書くために、「すがたをかえる大豆」を読み、調べるための視点や、段落の関係、事例の叙述の仕方や順序性を見付ける。</p> <p>6 ・ 調べるための視点に沿って関連図書を読み、大まかな構成を捉えたり、調べる対象や課題を決めたりする。</p> <p>7 本時 ① ・ 調査報告文を書くために、自分が調べる食べ物の関連図書を選んで読み、疑問・課題の答えや、知りたいこと(書いていないこと)を見付けながら読む。</p> <p>8 * 見付けた答え…青色の付箋</p>	<p>◇[読イ]「すがたをかえる大豆」を読み、課題や疑問に思ったことを捉え、選んだ図鑑や事典を利用して課題や疑問を見付けながら読んでいる。(付箋・振り返りの記述)</p> <p><b>指導のポイント①</b> 付箋の活用を工夫することで、驚いたことやもっと知りたいことなどはっきりとさせます。</p> <p>・ 全体の構成を捉えやすいようにワークシートを用意する。</p> <p>・ 既習事項である、図鑑や事典の読み方を確認する。</p> <p>・ 関連図書で気になることを見付けたら付箋を貼るように指示する。</p> <p>◇[読イ]「すがたをかえる大豆」を読み、筆者の考えと事例など段落相互の関係を考えたり、中心となる語や文を捉えたり、工夫とその記述の仕方を考えたりしている。</p> <p>◇[読カ]自分の課題を決めたり、調べる視点を見付けたりするために、図鑑や事典を選んで読んでいる。(ワークシートの記述・振り返りの記述)</p> <p>・ 自分の調べたいことや課題などが書けるワークシートを用意する。</p> <p>・ 調べたいことをなかなか決められない児童は、友達に相談してもよいことを助言する。</p> <p>・ 図鑑や事典などの調べ方を思い出せるよう、掲示物を用意する。</p> <p>◇[読イ]図鑑や事典などから、自分の課題の答えとなる語や文を、目次や索引、見出しを利用して探したり、見付からないときは検索ワードや本を換えたりして、付箋を貼ったり、カードに短い言葉で書いたりしている。(付箋・カードの記述・振り返りの記述)</p>



		驚いたこと・・・黄色の付箋 知りたいこと・・・ピンクの付箋	
三	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文例を利用して、調査報告文の構成を確認する。</li> <li>・ 「すがたをかえる大豆」を読み、報告文に利用できる接続語や表現を見付ける。調査報告文の中心を明確にして、「きっかけ」「調べ方」を書く。</li> </ul>	<p>◇[書ウ]調査の結果とそこから考えたことなどを明確に伝えるために、接続語や表現に着目して「すがたをかえる大豆」を読み、書くことの手中心を決めて「きっかけ」「調べ方」を書いている。 (ワークシートの記述・振り返りの記述)</p> <p>・ 既習の学習や文例、「すがたをかえる大豆」などを基にして、構成の確認をする。</p>
<p><b>指導のポイント③</b> 調べたいことを広げた児童、深めた児童、それぞれにふさわしい文例を提示します。</p>			
本時②	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集してきた資料を分類・整理し、カードを並べながら構成を考え、足りない情報があったら図鑑や事典から調べ直し、調査報告文の「分かったこと」に書く内容と順序を決める。</li> <li>・ *調べ直したい児童に調べる時間を確保するために、次時までの時間を少し空ける。</li> </ul>	<p>◇[書ウ]伝えたいことの手中心の事例が明確に伝わるよう、調べたことを分類・整理して書くことを決めたり、調べ足りないことやもっと調べたいことに気付いたりして、調査報告文に書く内容(事例)を考えている。 (ワークシートの記述・振り返りの記述)</p> <p>・ 既習経験を生かし、分類・整理できるようにする。</p> <p>・ 家の人に伝えるために必要という視点で、分からなかったこと、もっと調べたいことを探すようにする。</p> <p>・ 違う食品を調べたグループで交流し、「分かったこと」に書く内容を決めるよう助言する。</p> <p>・ 「すがたをかえる大豆」の、中心となることと事例の叙述の仕方を参考にするようにする。</p> <p>・ 評価の視点を決めて、読み合うようにする。</p>
	11 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家の人に食べ物のひみつを伝える調査報告文の「分かったこと」「まとめ」を書く。</li> <li>・ 友達と読み合っ、相互評価し、必要なところは書き直す。</li> </ul>	<p>◇[書ウ]課題を明確にし、その事例を挙げながら、「すがたをかえる大豆」の構成や表現などを利用して調査報告文を書いている。</p> <p>◇[言イ(ク)]段落相互の関係が分かるように、接続語を使って調査報告文を書いている。 (調査報告文の記述・振り返りの記述)</p>
四	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (授業参観で)家の人に読んでもらい、感想を聞く。</li> <li>・ 単元の振り返りをする。</li> </ul>	<p>◇[関]単元の振り返りをして、身に付いた力を自覚し、他の学習への意欲を持とうとしている。 (発言の内容・振り返りの記述)</p> <p>・ 保護者をお願いして感想を話してもらい、児童の達成感につなげるようにする。</p> <p>・ 単元で身に付いた力を確認し、他の活動に生かす意欲につなげるようにする。</p>

7 本時①の指導（7/13）

（1）本時①の目標

調査報告文を書くために、図鑑や事典の目次や索引、見出しなどを利用して、自分が調べたいことを見付けたり、カードに短い言葉でまとめて書いたりすることができる。（読むことイ）

（2）本時①の指導過程

時間	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
0	1 本時の課題を確かめる。	◇[読イ]図鑑や事典などから、自分の課題の答えとなる語や文を、目次や索引、見出しを利用して探したり、見付からないときは検索ワードや本を換えたりして、付箋を貼ったり、カードに短い言葉で書いたりしている。 (付箋・カードの記述・振り返りの記述)
<p>家の人に食べ物のひみつをほうこくするために、自分の調べたいことを、図かんや事てんから見つけてふせんをはったり、カードに書いたりしよう。</p>		
3	2 調べたいこと（課題）と、図鑑や事典での調べ方を確認し、カードの書き方、付箋の色分けについて確かめる。	<p>・前時に書いたワークシートを確認するよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>指導のポイント④</b>  <b>関連図書を準備するとともに、その利用方法を掲示し、活用を促します。</b></p> </div>
10	<p>3 図鑑や事典から、自分の調べる食べ物の視点を見付け、付箋を貼ったり、カードに書いたりする。</p> <p>*見付けた答え・・・青色の付箋                  驚いたこと・・・黄色の付箋                  知りたいこと・・・ピンクの付箋</p> <p>*必要があれば、同じ食べ物を選んだグループで、情報交換をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>指導のポイント⑤</b>  <b>目次や見出し・索引を活用し、何度も検索しながら調べ学習を深めていくようにします。</b></p> </div>	<p>・スムーズに調べられるように、図鑑や事典の利用方法を掲示する。</p> <p>・うまく調べられない児童には、文例（調べた手順や過程が分かるもの）を示したり、同じ食べ物を調べている児童と情報交換したりするよう促す。</p> <p>・調べ学習が進んでいる児童には、新たな疑問がないか、声掛けをする。</p> <p>・同じ食品を選んでいる児童同士のグループで座るようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>調べ方</p> <p>①調べることを明確にする。                      ②検索ワードを決める。                      ③図鑑や事典の、目次や索引などから書いてあるページを見付ける。                      ④見出しを利用して、調べたいことの見付け方。                      ⑤見付からなかったら、本や検索ワードを換える。                      *それでも見付からなかったら、調べることを変える。</p> </div>		
40	4 めあてにそって振り返る。 ・どのように情報を見付けたのか。	

## 8 本時②の指導 (10/13)

### (1) 本時②の目標

調査報告文の事例を分かりやすく書くために、調べてきたカードを分類・整理して、中心に合った書く内容を決めたり、調べ足りないことを再度調べたりして、調査報告文に書くことを考えることができる。 (書くことウ)

### (2) 本時②の指導過程

時間	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準[評価方法]
	1 本時の課題を確かめる。	◇[書ウ]伝えたいことの中心の事例が明確に伝わるよう、調べたことを分類・整理して書くことを決めたり、調べ足りないことやもっと調べたいことに気付いたりして、調査報告文に書く内容(事例)を考えている。 (ワークシートの記述・振り返りの記述)
	<p>家の人に食べ物のひみつをほうこくするために、調べカードを、分るい・せいりして書くことを決めたり、調べ足りなかったことやもっと調べたいことを見つれたりして、調さほうこく文に書く内ようを決めよう。</p>	
3	2 収集してきた資料を分類・整理し、カードを並べながら書くことの候補を決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習経験を生かして、収集したカードを分類・整理するよう指示する。</li> <li>・すぐに調べられるように、図鑑や事典を用意しておく。</li> <li>・前時に学習した調査報告文の構成を思い出せるように、掲示物を貼っておく。</li> </ul>
10	3 他の食品を調べた友達と交流し、「分かったこと」に書く内容を決める。調べ足りないことがあったら再度調べる。 *交流の視点 ・家の人知らない内容か ・順序はよいか ・分かりやすく報告するために、もっと調べることはないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の人により分かりやすく伝えるものとなっているかという視点で、分かりづらいことやもっと調べたいことを探すよう指示する。</li> <li>・一人ずつ順番に分かったことについて説明し、友達からアドバイスをもらうよう指示する。</li> <li>・違う食品を調べた4～5人のグループをつくっておく。</li> <li>・交流の視点を掲示する。</li> </ul>
35	4 めあてにそって振り返る。 ・まとめたカードをどのように分類・整理して、書くことを決めたか。 ・どのように足りない情報を見つけたか、もっと調べたいことを探したりしたのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの視点を板書する。</li> </ul>

## 9 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 図鑑や事典を使って情報を検索するための方法 (ポイント⑤)

情報検索の力を付けるためには、図鑑や事典などの本の利用の仕方を身に付けることが大切である。図鑑や事典から知りたいことを調べるためには、調べることを明確にすることや目次・索引・見出しなどを利用することなどが必要となる。また、調べながらもっと知りたいことを見付けると

いう追究も大切である。さらに、調べたいことが見付からなかったときにどうすればよいかを判断することが重要になる。見付からなかったときは、検索ワードを換える（例「いつできたか」→「歴史」）、本を換える、友達・先生に聞く、という方法が考えられる。それでも見付からないこともある、ということも合わせて指導する。

以上の学習を年間を通して段階的に位置付けた。まず科学読み物で目次の使い方を学習し、次に図鑑や事典で索引と見出しの使い方を学んできた。

## ② ねらいを明確にした教科書教材の取り扱い（ポイント①，②）

単元の第4時では教科書教材を、「驚いたこと」や「知りたいこと（疑問）」を見付けながら読む。つまり、教科書教材から調べたい課題を見付けるという読み方である。「驚いたこと」をはっきりさせることは、調査報告文の「分かったこと」に書く内容を決めるときの判断材料の一つとなる。「知りたいこと」を見付けることは、その文章に書かれていないことに気付くため、疑問を持って本を読むという主体的な読書につながる。実際には、「驚いたこと」（黄色）と「知りたいこと」（ピンク色）の付箋（2色）を貼りながら教科書教材及び図鑑や事典を読んでいった。付箋には短い言葉でその驚きや知りたいことの内容を書くこととした（例「もやしも大豆だ。」「ナットウキンって何？」）。また、黒板に教材文を掲示し、付箋を貼っていくことで、友達の考えとの共通点や相違点にも気付くことができた。

第5時では、図鑑や事典から何を調べるのかという調べるための視点を見付けたり、調査報告文を書くために段落相互の関係や段落の順序性を見付けたりする。それぞれの段落にどんなことが書かれているのかを探り、それを図鑑や事典を読むときの視点として活用していく。図鑑や事典には様々なことが書かれているので、その視点が読むときの中心となり、関係する語や文を見付けてじっくり読む力が付くと考える。実際には、文章の拡大掲示を活用し、「手の加え方」や「種類」など視点となる言葉を、全体で確認しながら書き込んでいった。

第9時は、「書くこと」の学習となる。ここでは、調査報告文に書くために表現や接続語などを教材文から見付ける。手の加え方（いる・煮る・まぜ合わせるなど）や文末表現などを見付け、調査報告文を書くための材料とする。実際には、拡大掲示に色分けをしながらマーキングしていき、調査報告文を書いているときに見られるように教室に掲示した。

## ③ 個に応じた学びを促すための複数の文例の提示（ポイント③）

本単元では、事前に知りたいことを決めて調べながら広げていく姿と、事前に知りたいことは決めているが、調べながらもっと知りたいことが増えて深めていく姿が予想されたため、両パターンの文例を示すこととした。最初に示したのは前者の文例であるが、第5・6時で知りたいことがそれぞれにはっきりしてきたため、ワークシートの記述や発言内容から、課題を深めていく姿になりそうな児童には、後者の文例も提示した。

## ④ 関連する図書の準備（ポイント④）

学習に関連する図書は、地域の図書館から教員貸し出しのシステムを利用して複数冊用意しておく、全児童が触れられるようにしておいた。また、その図鑑や事典の活用の仕方が分かるように、どのように目次や索引を使ってページを開き、見出しを使って知りたい情報を得たらよいかをして見せたり、掲示物を用意したりして指導した。

## （2）児童の姿から

調べたいことを図鑑や事典から見付けるために、目次や索引をうまく利用して調べる児童が多くなった。必要な情報が見付からなかったときは、本を換えたり、検索する言葉を似ている他の言葉に換えたりして探すことができた。年間を通して、情報検索の学習を位置付けたため、最初の単元でなかなか見付けられなかった児童も、本単元では、索引を上手に利用して見付けたり、じっくり読んで調べたいことを見付けたりできるようになった。また、図鑑や事



典を読み、そこからさらに疑問を持つ児童もいて、より探究的な活動につながっていった。

### (3) 評価の実際

第7・8時は「C読むこと」の指導事項イに重点を置いて指導に当たった。評価規準は以下のとおりである。

[読イ] 図鑑や事典などから、自分の課題の答えとなる語や文を、目次や索引、見出しを利用して探したり、見付からないときは検索ワードや本を換えたりして、付箋を貼ったり、カードに短い言葉で書いたりしている。

この評価規準に照らして、次のような状況の児童を「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

#### 【Bの状況】

自分の課題の答えが書かれているページを、図鑑や事典の目次や索引を利用して時間をかけずに開き、見出しを利用して知りたいことが書かれている箇所を見付けたり、見付からなかったら調べたい言葉や本を換えたりして、付箋を貼ったり、まとめてカードに書いたりしている。

さらに、知りたいことについて図鑑や事典から複数の情報を見付け、「家の人より分かりやすい」「この情報はなくてもよい」などと判断し、必要や目的に応じて情報を選んだりまとめたりしている場合や、知りたいことを図鑑や事典から見付けながら、新たな疑問を持って調べたりしている場合には「十分満足できる」状況（A）と判断した。例えば次のような場合である。

#### 【Aの状況】

- ・「練乳の手の加え方」について調べていた児童は、図鑑や事典の複数のページに青の付箋（見付けた答えを表す付箋）を貼っていたが、カードは1枚だけ書かれていて、「れんにゆうは、牛にゆうやだっしふんにゆうの水分をじょう発させ、のうしゅくしたもの」とあった。さらに、「同じないようをちがう本から見つけたときは、分かりやすくするために二つを合体させて、一つにまとめました。」と振り返りにあったため、必要に応じて情報を整理したと判断し、「十分満足できる」状況とした。
- ・「納豆の種類」について調べていた児童は、世界の納豆料理について調べながら、「納豆にはビタミンK2がほうふにふくまれている」ことが分かり、青色の付箋（見付けた答えを表す付箋）を貼った。その後、「ビタミンK2とは何か」と新たな疑問を持って調べ始めた。見付けた答えから、さらに疑問を持って調べていたため「十分満足できる」状況と判断した。

### (4) 学習指導を振り返って

課題を見付けて、それを図鑑や事典を活用して調べるという学習を年間を通して位置付け、繰り返すことで、児童たちは目的に応じて必要な情報をうまく調べられるようになった。本単元でも、検索する言葉を換えたり、国語辞典の利用の仕方を学んだ経験を生かして事典の該当ページを素早く開いたり、索引を使ったりすることができる児童が多かった。うまく調べられるようになると、次々に調べ始める児童も多く、事前に想定していた図鑑や事典以外にも、図書室の本を手に取り、調べる姿も見られた。

また、調べるという学習はどうしても個人の学習になりがちであるが、児童は友達と驚きを共有したり、相談したりするなど、友達と学ぶという学習の側面も見られた。さらに、自分ができるようになったことを振り返って自覚することで次の学習につながり、より主体的な学習になることを実感した。

## 事例6 第3学年

- 1 単元名 大好きな登場人物を「イチおしフリップ」で紹介しよう  
 教材名 「モチモチの木」他 斎藤隆介作品（7冊）

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、言語活動として、大好きな登場人物を「イチおしフリップ」にまとめ、友達や4年生に紹介する学習活動を行う。これは、「C読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」に対応するものである。作品を読み、この「イチおしフリップ」にまとめていくことで、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」及び「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を身に付けさせることができると考える。

○イチおしフリップの特徴

- ① 大好きな登場人物を紹介するためには、どんな登場人物が出てくるのか、またどんな場面展開なのかを確認する必要がある、そのために「あらすじ」の部分で物語のおおよそを捉える。あらすじを捉えることは既習内容であるが、定着を図るためにこの単元でも繰り返し学習する。
- ② 「ここがイチおし」には、友達に紹介したいお薦めの叙述を書き抜き、理由や感想、自分と比べたことなどを書く。（読むことウ）
- ③④ 「大好きな〇〇はこんな性格」には、登場人物の会話や行動・様子を表す叙述から登場人物のことがよく表れている叙述を見付け（③）、複数の叙述を関係付けて登場人物の性格を捉えて書く（④）。（読むことウ）


読むことオについては、第二次、第三次の学習で適宜取り上げて指導する（「6 単元の指導計画」を参照）。

物語の一場面や大好きな登場人物の絵を描く。  
※絵本の挿絵をコピーしてもよい。

①「あらすじ」  
既習事項（読むことエ）

②「ここがイチおし」  
場面の移り変わりに注意しながら、性格や気持ちの変化、情景などに着目して「ここがイチおし」の理由を書く。（読むことウ）

ふ き 斎藤 隆介



～あらすじ～  
 小きのおとうは木こりの名人だ。小きは、明かい女の子で、いつも山の大木郎と楽しく遊んで、おとうが作るのをまてた。ある時、おとうは山をあらしにきたでんでる山の貴おににやられてしまう。小きは、おとうのかたきをうつために、一人で貴おににいど

～ここがイチおし～  
 「山をあらすやつ、人をころすやつ、どうちゃんのかたき、おらとしねえ！」

勇気をホリしほ、貴おにに向かいていく小きが太すぎ。貴おにに直ち向かう勇気は、どうちゃんが大すぎて、山が大すぎて村が大すぎて、大すぎをたらたい、かたがしみから生まれにんたと思ひます。さい、後に死んでしまったのがとてもかわいそうでした。

～大好きな小き、アこんな性格～  
 ・せ、せ、せにあるといつでもくましくおかし  
 のしろの話をした。…お話ずきの明かい女の子  
 ・おらほ、さよ、又ちゃんのかたきをうつ…  
 …強い気持ち  
 ・小きはころがる石のように、貴おにめがけて  
 のぼっていた。…勇気

③
↓
④

お話ずきの明かい女の子だけ、勇気と強い気持ちをもっている。

③④「大好きな〇〇はこんな性格」  
 登場人物の性格を表す根拠となる叙述を見付け、複数の叙述を関係付けて性格を捉える。（読むことウ）

交流を通して一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。（読むことオ）

### 3 単元について

#### (1) 児童について

これまでの「読むこと」の学習で、児童は登場人物の気持ちの変化について、「初めは○○だったけど～/○○したけど、後から～」など、場面の移り変わりを捉えて読むことができるようになってきた。また、登場人物の性格を捉える学習では会話や行動・様子を表す叙述に着目し、その人物の性格を表すのにふさわしい言葉を見付けて捉えることができるようになった。そこで本単元では、複数の叙述を関係付けると登場人物の性格がよりはっきりしてくることを、交流によって児童自らが気付くようにすることに重点を置いて指導を行うこととする。

#### (2) 教材について

本単元では「モチモチの木」に加えて、児童に人気のある作品や場面展開が捉えやすい7作品(『半日村』『かみなりむすめ』『ひばりの矢』『ふき』『火の鳥』『三コ』『八郎』)を取り上げることとする。これらの作品は、いずれも登場人物の性格を複数の叙述を基に捉えたり、友達のイチおしの理由を聞いて自分の考えを広げたりすることができ、さらに一人一人の感じ方について違いがあることに気付かせるような交流につなげることができる作品である。

#### (3) 指導について

単元に入る前の準備として、学校図書館や公立図書館から本を借り、廊下に斎藤隆介コーナーを設置し、朝の活動時間を活用して読めるようにする。読書傾向をつかむために、読み終わったら付箋に名前を書いて貼るようにする。登場人物や物語の展開を意識させるために教師の読み聞かせも行う。また、共通学習材「モチモチの木」の音読を家庭で行うように指導する。

第二次では、児童が目的を持って主体的に読むことができるように二つのことに留意した。

- ① 学習計画表を用いたり、本時の学習の目当てを確認したりすることで、単元や本時の学習の見通しを立てることができるようにする。
- ② 「モチモチの木」で学んだことを、自分が選んだ作品の読みに生かすことができるように、児童の実態を踏まえて学習過程を工夫する。

### 4 単元の指導目標

- 大好きな登場人物を紹介するために、本を繰り返し読むなどして改めて味わったり、新たな面白さに気付いたりしながら読もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 大好きな登場人物を紹介するために、会話や行動・様子を表す複数の叙述に着目して読み、登場人物の性格を捉えたり、交流を通して一人一人の感じ方について違いのあることに気付いたりすることができる。(読むことウ、オ)
- 登場人物の性格を表すために必要な語彙を増やしながら文章を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ))

### 5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・ 大好きな登場人物の性格や「イチおし」の叙述を紹介するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり新たな面白さに気付いたりしながら読もうとしている。	・ 大好きな登場人物を紹介するために会話や行動・様子に着目して「イチおし」の叙述を探したり、複数の叙述を関係付けて性格を捉えたりしている。(ウ) ・ 友達や4年生との交流を通して、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ)	・ 登場人物の性格を表すために必要な語彙を増やしている。(イ(ウ))

6 単元の指導計画（全10時間扱い）

次	時	主な学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
第一次	1	・朝の活動時間に斎藤隆介作品の読書を行う。 (多読)	☆教師による読み聞かせも行う。
	2	・学習計画について話し合い、学習の目的と単元のゴールを確認する。 ・7作品から紹介したい1冊を選ぶ。 ・大好きな登場人物を探したり、場面の展開を確かめたりしながら斎藤隆介作品を読む。	<b>指導のポイント①</b> <b>同じ作品を選んだ児童同士の交流ができるようにするため、7作品に絞り込んで提示するとともに、同じ本を複数冊そろえておきます。</b> ☆学習の見通しや興味が湧くようにする。 ◇ [関] 斎藤隆介作品に興味を持ち、登場人物に着目しながら読もうとしている。(観察)
第二次	3	○「モチモチの木」 ・共通学習材のあらすじを書きながら、登場人物の性格を表す言葉について話し合う。	☆学習シートに線を引いたり本の該当箇所に付箋紙を貼ったりさせる。
	4	○選んだ作品 ・物語のあらすじを書きながら、登場人物の性格を表す言葉を増やし、フリップにまとめる。	◇ [言] 人物の性格を表す言葉を考え、まとめている。(学習シート、フリップ)
	5	○「モチモチの木」 ・友達に紹介したい「ここがイチおし」の叙述を書き抜く。 ・本文を拡大した掲示物に自分の名前を書いた付箋紙を貼る。 ・「ここがイチおし」の理由を確かめたり、広げたりするために、貼った付箋紙を手掛かりに自分と同じ叙述を選んだ友達を探し、ペアになって交流する。 ・場面の移り変わりを捉えて「ここがイチおし」の理由を学習シートに書く。	<b>指導のポイント②</b> <b>学習シートの項目は指導事項に合わせて決めます。児童はシートを持ち、どの叙述を選んだか相手に分かるように指で示しながら交流します。</b> ☆同じ学習材を読んでも「ここがイチおし」の叙述や理由が異なることがあることに気付かせる。
	6	○選んだ作品 ・友達に紹介したい「ここがイチおし」の叙述を書き抜く。 ・「ここがイチおし」の理由を確かめたり、広げたりするために同じ作品を選んだ友達とペアになって交流する。 ・場面の移り変わりを捉えて「ここがイチおし」の理由をフリップに書く。	<b>指導のポイント③</b> <b>「ここがイチおし」の理由を確かめるために同じ叙述を選んだ友達と交流したり、考えを広げるために異なる叙述を選んだ友達と交流したりします。</b> ◇ [読む] 場面の移り変わりを捉えて「ここがイチおし」の理由を書いている。(学習シート、フリップ) ◇ [読オ] 一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(交流)
	7	○「モチモチの木」 ・大好きな登場人物のことがよく表れている叙述を探し、学習シートに線を引く。 ・本文を拡大した掲示物に自分の名前を書いた付箋紙を貼る。 ・選んだ叙述にどんな性格が表れているか確かめたりその考えを広げたりするために、付箋紙を手掛かりに、自分と同じ叙述を選んだ友	<b>指導のポイント④</b> <b>2回の交流を通して、児童自らが登場人物の性格を捉えるための読みのポイントに気付いていくようにします。</b>
	本時		



	8	<p>達を探して交流する。 (1回目の交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の性格を表す叙述は物語全体に広がっていることに気付く。</li> <li>自分と異なる叙述を選んだ友達と性格の捉え方を交流する。 (2回目の交流)</li> <li>複数の叙述を関係付けると登場人物の性格がよりはっきり分かることに気付く。</li> </ul> <p>○選んだ作品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大好きな登場人物の会話や行動・様子を表す叙述に着目し、大好きな登場人物のことがよく表れている叙述を選ぶ。</li> <li>同じ作品を選んだ児童同士で交流しその叙述にどんな性格が表れているか明らかにする。</li> <li>複数の叙述を関係付けて登場人物の性格をはっきりさせる。</li> </ul>	<p>☆登場人物の性格が表れている叙述は一つだけではないことを確認し、複数の叙述を関係付けると性格がよりはっきり分かることに気付くようにする。</p> <p><b>ポイント⑤</b> 言葉を豊かにするために性格を表す言葉を集めて掲示します。</p> <p>◇ [読オ] 一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(交流)</p> <p>◇ [読ウ] 複数の叙述を関係付けて大好きな登場人物の性格を捉えている。 (学習シート, フリップ)</p>
第三次	9	<p>○4年生との交流に向け、同じ作品を選んだ児童でグループになり、ポスターをつくったり発表の準備をしたりする。</p> <p>・朝の活動時間に体育館で行う。(20分程度)</p> <p>・作品ごとにコーナーをつくる。</p> <p>・4年生は興味のあるコーナーに集まる。</p> <p>①紹介したい作品のあらすじを発表する。(代表者)</p> <p>②イチおしの叙述や大好きな登場人物の性格について発表する。(全員)</p> <p>③4年生から感想や意見をもらう。</p> <p>・1回目の交流が終了したら、4年生は別のコーナーに移動して2回目の交流を行う。</p>	<p><b>ポイント⑥</b> 一つ上の学年と交流することで新たな気づきを促すとともに、児童に意欲や緊張感を持たせるようにします。</p> <p>☆4年生との交流を振り返り、感想や新たに気付いたことを交流する。</p> <p>◇ [読オ] 4年生との交流を振り返り、一人一人の感じ方について違いがあることや新たに気付いたことについて発表している。(発表, シート)</p>
	10	<p>○4年生との交流を振り返る。</p>	

## 7 本時の指導 (7/10時間目)

### (1) 本時の目標

複数の叙述を関係付けて大好きな登場人物の性格を捉えることができる。(読むことウ)

### (2) 展開

分	主な学習活動	主な発問 (○) と指示 (△)	指導上の留意点 (・) 評価 (◇)
2	1. 本時の学習を確認する。	△学習計画表を見て今日の学習を確認しましょう。今日は、「モチモチの木」で「性格」の書き表し方を確かめます。	・学習計画表や「イチおしフリップ」を使って本時の学習の目的を確認できるようにする。
9	2. 大好きな登場人物のことがよく表れている叙述を見つけて線を引く。	△「モチモチの木」の中で大好きな登場人物のことがよく表れている文を見つけて線を引きましょう。 △線を引いたら黒板に掲示した本文に付箋紙を貼りましょう。 ○選んだ文を基に、性格をすぐに書けますか。	・単元の導入から前時まで意識させておき、すぐに線が引けるようにする。 ・付箋紙の位置を確認する。 ・性格がすぐに書けるか挙手で確認する。
5	3. 選んだ叙述に	△まだ考えがまとまっていない人もいる	・3～4分程度の交流

9	<p>どんな性格が表れているかを確認するために交流する。</p> <p>4. 選んだ叙述にどんな性格が表れているか全体で確認する。</p>	<p>そうですね。自信のない人は同じ文を選んだ友達と交流してヒントをもらいましょう。自信のある人も交流で自分の考えを更に広げ、シートに書き加えましょう。</p> <p>○選んだ文にどんな性格が表れているかみんなの考えを聞きます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙の位置を手掛かりにして相手を確認する。</li> <li>・学習シートの本文の該当箇所を指で示して、どの叙述を選んでいるか相手に示すようにする。</li> <li>・全体交流</li> <li>・(同一の登場人物でも) 捉えた叙述によって性格の押さえ方が異なることが際立つように板書したり発言を取り上げたりする。</li> </ul>
<p>(児童の発言例：一つの文に一つの性格を当てはめている状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜中には、じさまについてってもらわないと、一人じゃしょんべんもできないのだ。⇒弱虫、臆病</li> <li>・「やい、木い、モチモチの木い、実い落とせえ！」⇒夜はモチモチの木が怖くて弱虫、昼間は空威張り</li> <li>・豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふっとばして走り出した。⇒大好きなじさまのために真夜中、医者呼びに行く豆太は優しい ⇒たった一人で真夜中の道走る豆太は勇気がある ⇒じさまのためという豆太の強い気持ちが表れている</li> <li>・豆太はなきなき走った。⇒怖いのがまんしてるからがんばり屋、強い気持ち</li> <li>・モチモチの木に灯がついている。⇒勇気のある子供にしか見られないから勇気がある</li> <li>・そのばんから、「じさまあ。」と、しょんべんにじさまを起こしたとき。⇒弱虫、甘えん坊</li> </ul>			
5	<p>5. 全員の付箋紙の位置を概観し、選んだ叙述は物語全体に広がっていることに気付く。</p>	<p>△大好きな登場人物のことが表れている文はいろいろなところに散らばっていて、その文から分かる性格も臆病、優しい、勇気があるなど、いろいろ分かれていました。では、登場人物の性格をどのように表したらよいのでしょうか。今度はそこを確認するために自分と違う文を選んだ友達と交流します。きっと大好きな登場人物のことがもっと広がって見えてくると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙の位置を手掛かりに、交流相手を確認する。</li> <li>・学習シートの本文の該当箇所を指で示して、どの叙述を選んでいるか相手に分かるようにする。</li> </ul>
7	<p>6. 複数の叙述を関係付けると登場人物の性格をうまく捉えられることに気付く。</p>	<p>△(2～3人の児童の発言を取り上げて)「臆病だけど勇気がある」というように一つだけではなく二つ以上の文を関係付けると、大好きな登場人物の性格がはっきりしてきますね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の叙述を捉えていて、それをまとめた言葉で表しているか(○○だけど△△なところがある、など)児童の発言を基に整理し、確認する。</li> </ul>
<p>(児童の発言例：二つ以上の文を関係付けている状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人じゃしょんべんにも行けない臆病なところもあるけど、じさまのために医者呼びに行く勇気を持っている。⇒臆病だけど勇気がある。</li> <li>○じさまのために医者呼びに行く優しさと足が痛いのがまんして半道もある道走る強い気持ちを持っている。⇒優しさと強い気持ちを持っている。</li> <li>○一人で医者呼びに行ける勇気のある子供だけど、やっぱり一人じゃしょんべんに行けないので弱虫。⇒勇気があるけどやっぱり弱虫。</li> </ul>			
8	<p>7. 大好きな登場人物の性格を学習シートに書く。</p>	<p>△大好きな登場人物の性格を学習シートに書きましょう。</p>	<p>◇ [読む] 複数の叙述を関係付けて大好きな登場人物の性格を捉えている。(学習シート)</p>

	<p>8. 今日の学習を選んでいる本の読みに活用する。</p>	<p>△書き上げた人は、残りの時間、選んでいる本を出して、大好きな登場人物のことがよく表れている文を探しながら読みましょう。探したら付箋紙を貼りましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行い、複数の叙述を関係付けているか、それをまとめた言葉で表しているか（〇〇だけど△△などところがある、など）を観点にアドバイスする。</li> <li>・本はすぐに取り出せるように机の中に入れておく。</li> <li>・大好きな登場人物のことがよく表れている叙述を見付いたら付箋紙を貼るようにする。</li> </ul>
--	---------------------------------	---	--

## 8 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 一人一人の感じ方に違いのあることに気付かせるための手立て（ポイント①）

本単元では「教材について」で述べたように、斎藤隆介作品から7作品を選んで提示した。これらはいずれも、登場人物の性格を把握する上で適した作品である。7作品に絞り込んだのは、同じ作品を選んだ児童同士で交流ができるようにするためである。このことによって、同じ作品を読んでも感じ方には一人一人違いのあることに気付くことができるようにしている。

#### ② 学習シートについて（ポイント②）

「モチモチの木」本文

① あらすじ 百五十文字程度

② 「ここがイチおし」の叙述を書き抜き、その理由を書く

③ 好きな登場人物の性格を表す複数の叙述を書き抜く

④ 好きな登場人物の性格を書く

「モチモチの木」の学習では学習計画表や文章全体を見通すことができる掲示物や学習シートを活用する。これは、作品全体に描かれた複数の叙述を関係付けて登場人物の性格を捉えるという指導のねらいを実現するための手立てとして取り入れているものである。

学習計画表は本時の学習内容を確認したり、「イチおしフリップ」の作成に向け、本時の学習がどのような位置付けなのかを確認したりするために活用する。学習シートの内容構成は指導事項に合わせて決めている。本単元では、①あらすじ、②「ここがイチおし」とその理由、③好きな登場人物の性格を表す叙述、④好きな登場人物の性格、などを書き込むようになっている。

#### ③ 交流について（ポイント③④⑤）

本時では、2回の交流で好きな登場人物の性格を捉えられるようにする。

1回目の交流では、自分が選んだ叙述に登場人物のどんな性格が表れているかを明らかにする。始めに好きな登場人物のことがよく表れている叙述を見付ける。この段階ではまだその叙述にどんな性格が表れているか、自信のある児童もいればまだ理由がはっきりしていない児童もいる。そ

ここで、同じ叙述を選んだ児童同士で交流し、ヒントをもらったり自分の考えを広げたりする。この段階では、大好きな登場人物を表す叙述が物語全体に広がり、「弱虫」「優しい」「勇気」など登場人物の性格を捉えていくことが想定される。

2回目の交流は、自分と異なる叙述を選んだ児童と行う。友達が選んだ叙述にも大好きな登場人物の性格が表れているので、複数の叙述を関係付けると登場人物の性格がよりはっきりしてくることに気付く。こうした交流を通して、性格を表す言葉を広げることができると思う。

#### ④ 4年生との交流について (ポイント⑥)

学級で交流したあと4年生と交流する。4年生を交流相手に設定したのは、4年生は昨年この単元で登場人物の性格を読む学習をしており、大好きな場面や登場人物の性格について自分なりの考えを持っているからである。そのため、登場人物の性格について3年生の発表に付け加えたり、共感的な意見を言ったりするなど学習を広げることができると考えた。それにより、児童は改めてあらすじを確認し、自分の考えをしっかりと持とうとするなど意欲を持って取り組むと考えた。



(交流後の児童の感想)

- 4年生がうなずきながら聞いてくれたのがうれしかった。
- 前の学習で大好きな昔話を1年生に紹介する時よりも緊張したけど、フリップを使ってうまく発表することができた。
- ぼくが八郎の性格を発表した時、4年生がぼくの考えと同じだと言ってくれたので自信になった。
- ふきの発表をした時、私はふきの性格しか考えていなかったけど大太郎にも性格があるとわかってなるほどなあとと思った。

## (2) 児童の姿から

本時(第7時)は、登場人物の性格の捉え方を教師が教え込むのではなく、友達との交流によって児童自らが性格の捉え方に気付いていくことを大事にした。この学習では自分の読みを表す付箋



紙や学習シート、目的を持った交流が児童の主體的な活動を支えている。児童は貼られている付箋紙を見て、付箋紙が物語全体に貼られていることや友達がどの叙述を選んだかを自ら確認することができる。また、学習シートを持って交流することで、自分が選んだ叙述やその前後の叙述を指で示し、関係付けながら自分の考えをしっかりと相手に伝えることができた。交流では1回目自分が選んだ叙述に表れている性格をはっきりさせ、2回目では、複数の叙述を関係付けると登場人物の性格をはっきりしてくることに気付くなど、2回の交流を通して児童が自ら性格の捉え方に気付く姿が見られた。

第8時では、本時の学習を生かし、自分が選んだ作品の大好きな登場人物の性格を次のようにまとめることができた。

～大好きなあさはこんな性格～

登場人物のことがよく表れている文

- あさは糸線にしゃがんで前にたいたそでにしょんべんをさせた。やさしい性格
- しんでもちつけこやんはない。勇気がある性格
- 妹のそでを考えると心が日吉な。思いやりがある性格

↓

大好きな登場人物の性格

夜はそでにしょんべんをさせるやさしさもあるし妹にたいして思いやりもあるし父の鳥をやっつけに行く勇気があるだからあさはやさしくて思いやりがあり勇気のある性格

作品名 『火の鳥』

～大好きなうきはこんな性格～

登場人物のことがよく表れている文

- せせせにあきると、いつでもくし返しをしるの話をした。明るい性格
- 「父ちゃんの敵は、わが一人で打つ」勇敢
- 「父ちゃんの敵、おりと死ぬっ」勇敢

↓

大好きな登場人物の性格

いつもは、明るい多だけど父ちゃんの敵打ちかできるほど勇敢な戸もある女の子

作品名 『ふき』

### (3) 評価の実際

第7時の「C読むこと」の指導事項ウについての評価規準は次の通りである。

【読む】複数の叙述を関係付けて大好きな登場人物の性格を捉えている。

この評価規準に照らして次のような状況の児童は「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

#### 【Bの状況】

○じさまがはらいたになったとき医者様をよびに行こうとして、と中でもしが足にかみついてもたえたのががまん強いし、ゆう気のあるせいかわかだと思います。

さらに、複数の叙述を関係付け、それを根拠にしなが、豆太の性格を二つ以上の側面から捉えている児童を「十分満足できる」状況（A）と判断した。例えば、学習シートに次のようにまとめている児童である。

#### 【Aの状況】

- じさまが病気の時は、ゆう気を出して夜道を走って行けるけど、じさまが元気になるととのこわがりになる弱虫なせいかわかです。だから、豆太はやる時はできるゆう気のある子どもだけどこわがり弱虫な子どもです。
- 一人で夜中にトイレに行けないほどおく病だったのに、じさまがはらいたをおこすと急にゆう気を出そうとしているので、おく病だけどゆう気のある子どもだと思います。
- 夜に一人でしょんべんに行けないほどおく病で、モチモチの木にひがともるのを見たのにすぐにあきらめるせいかわかけど、じさまがはらいたをおこしたらゆう気をふりしぼって医者様をよびに行けるほどのゆう気をもった子どもだと思います。

### (4) 学習指導を振り返って

普段書くことが苦手な児童も、大好きな場面を探してその理由を書いたり、登場人物の性格を関係付けて書いたりすることができた。また、いつもは自信がなく声が小さい児童も、交流では目的をしっかりと相手に伝え、ヒントをもらい自分の考えを持つことができた。このような児童の姿の実現は児童同士の交流によるところが大きいと感じる。それは、友達にヒントをもらいながらも自力で課題を解決することで自信や喜び・楽しさが生まれるからではないだろうか。また、「イチおしフリップ」の作成がゴールではなく、その先にある交流に向けて児童は意欲的に取り組んでいた。4年生が3年生の発表を共感的に聞いてくれたので、自信を持って発表することができた。さらに、友達との交流では得られないような感想をもらうことができ、学習がさらに広がったと感じている。

## 事例7 第4学年

- 1 単元名 『車のいろは空のいろ』シリーズの不思議を解き明かそう  
 教材名 「白いぼうし」他 『車のいろは空のいろ』シリーズ作品

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、言語活動として、「C読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」に対応する言語活動として、ファンタジー作品の不思議な面白さを「ふしぎのとびら」で説明する活動を行うこととした。「ふしぎのとびら」とは、本シリーズの中から自分が選んだお話の魅力について、不思議の仕掛けを説明することで友達と交流するためのものである。主に以下の内容で構成する。

- ① いちばんのふしぎ…自分が選んだお話の面白さを説明するために最もふさわしい不思議を取り上げる。
- ② ふしぎ解き明かし…不思議な出来事が起きる仕掛けを説明し、不思議を解き明かす。「いちばんのふしぎ」の場面とのつながりを考えて叙述を引用したり説明したりすることで、場面の移り変わりを捉えることができるようにする。
- ③ 松井さんのひとりごと…不思議な出来事に遭遇した主人公「松井さん」の思いを想像して書く。松井さんの言動や気持ちについての叙述を根拠に書くことで、性格や気持ちの変化をつかめるようにする。

シリーズ作品を読み、この「ふしぎのとびら」にまとめていくことで、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」及び「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」の実現に迫ることができる。

お話の題名・作者  
ふしぎのタイトル

③松井さんのひとりごと  
お客さんを降ろした後の松井さんの思いを想像して書く。

①いちばんのふしぎ  
お話の面白さを説明するために最もふさわしい不思議を取り上げる。

扉の裏側

扉の中

②ふしぎ解き明かし  
「いちばんのふしぎ」の場面とのつながりを捉え、不思議な出来事が起きる仕掛けを説明する。※扉の中は、叙述を引用して書き、裏側はその叙述について、不思議の仕掛けを説明する。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

前単元では「お気に入りの人物をキャラクターシートで紹介しよう」という言語活動を行った。その際、「C読むこと」の指導事項ウの「登場人物の性格や気持ちの変化」に重点を置いて学習した。そこで本単元では既習事項を基に、複数場面における人物の言動や情景の叙述を関連付け、場面の移り変わりを捉えられるようにした。また、前単元では指導事項エの、目的に応じて要約することを学習したため、本単元では、自分の読みの根拠となる叙述を引用することを重点的に指導した。

#### (2) 教材について

本単元では、「白いぼうし」を含むシリーズ全 22 作品を提示する。このうち、「ふしぎのとびら」にまとめていく対象として、複数の場面を関連付けて不思議な面白さを読み解くことができる 7 作品（「すずかけ通り三丁目」「山ねこおことわり」「きりの村」「やさしいてんき雨」「星のタクシー」「しらないどうし」「ほたるのゆめ」）を選定した。様々に起こる不思議の解き明かしを、巧みなストーリー展開を基に楽しんだり、松井さんの人柄を味わったりするためには、一作品を読むことにとどまらず、シリーズの複数作品を重ねて読むことが有効である。

#### (3) 指導について

単元の導入で「ふしぎのとびらで面白さを説明する」という課題を明らかにし、「白いぼうし」の読みを、選んだお話の読みでも活用しながら学習を進める。また、場面と場面を関連付けて読むことができるよう文章全体を一覧できるようにした学習シートを活用し、不思議に思うところや不思議を解き明かす根拠となるところを明確にしながらいち読み交流したりできるようにする。さらに、全体での交流や同じ作品を選んだ友達との交流を設定することで、様々な不思議の捉え方や不思議の解き明かし方があることに気づき、児童一人一人の読みを明らかにしたり広げたりすることができるようにする。

### 4 単元の指導目標

- ファンタジー作品をシリーズで読んで面白さを説明することに関心を持ち、叙述を基に考えたことを友達と交流し、読んだことを「ふしぎのとびら」にまとめようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ ファンタジー作品の不思議な面白さを説明するために、場面の移り変わりに注意して、叙述と叙述を関連付けながら想像して読み、面白さを伝える上で根拠となる叙述を引用することができる。  
(読むことウ、エ)
- 指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解することができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ク))

### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ファンタジー作品をシリーズで読むことに関心を持ち、叙述を基に考えたことを友達と交流し、自分の感じた不思議な面白さを説明するために、読んだことを「ふしぎのとびら」にまとめようとしている。	・自分の選んだファンタジー作品の面白さを伝えるために、場面の移り変わりに注意しながら、場面と場面を関連付け、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読み、不思議な出来事の仕掛けを説明している。(ウ) ・自分の選んだファンタジー作品の面白さを伝える上で、その根拠となる叙述を引用している。(エ)	・指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解している。 (イ(ク))

6 単元の指導計画（全 11 時間扱い）

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
一	1	○『車のいろは空のいろ』シリーズの紹介を聞いたり、「白いぼうし」「春のお客さん」等の読み聞かせを聞いたりする。	<p>・読み聞かせた作品の面白いところを話し合うよう促すことで、松井さんをめぐって不思議な出来事が起きる共通性に気づき、「不思議な面白さ」を観点にシリーズを読んでいくことに興味を持つことができるようにする。</p> <p><b>指導のポイント①</b> 見付けたお話の不思議を解き明かして面白さを伝えるという課題を設定することで、主体的な読みができるようにします。</p> <p>・シリーズ作品を読むことができるよう本を教室に常備し、本の扉の地図を使った掲示物にどの話を読んだかを記入して共有させることで、交流のよりどころにできるようにする。</p> <p><b>指導のポイント②</b> 活動のイメージを明確にし、学習の見通しを立てることができるようになります。</p> <p>◇ [関]『車のいろは空のいろ』シリーズに関心を持ち、楽しんで読もうとしたり、自分が面白いと思ったお話について話そうとしたりしている。（発表の様子）</p>
	2	○シリーズを読み始める。 ○面白いと思った作品や面白さのわけについて話し合う。 ○「ふしぎのとびら」で作品の面白さを説明するという単元の課題を設定する。 ○学習計画を立てる。 ○自分が紹介したいお話を選ぶ。	
	3	<p><b>【白いぼうし】</b></p> <p>○「白いぼうし」を読み、自分が不思議に思うところを探す。</p> <p>○不思議に思うところを友達と交流し、そのわけを話し合う。</p> <p>○「白いぼうし」の面白さを伝えるために最もふさわしい不思議を選び、「いちばんのふしぎ」に書く。</p> <p>○不思議を解き明かす叙述を見付けて線を引く。</p>	<p>・「白いぼうし」の、各自が不思議だと思ったところに付箋を貼るよう促すことで、互いの読みを交流できるようにするとともに、場面と場面を関連付けて考えることができるようにする。</p> <p>・各自の手元にも文章全体を一覧にした学習シートを準備し、叙述を基に気付いたことなどを書き込めるようにする。</p> <p><b>指導のポイント③</b> 文章全体を見通しやすくする手立てを取ることで、場面と場面を関連付けて捉えることができるようになります。</p> <p>・友達との交流を通して、場面の移り変わりに注意して不思議の仕掛けを捉え、面白さを伝えるために最もふさわしい不思議を選ぶことができるようにする。</p> <p>・「ふしぎのとびら」と同形式のワークシートに記入させることで、自分が選んだお話の「ふしぎのとびら」を書く際の参考にできるようにする。</p> <p>◇ [読む]「白いぼうし」を読み、自分が面白いと思った不思議な部分を見付け、そのわけを叙述に沿って話したり書いたりしている。（話合いの様子、ワークシート）</p> <p>・前時に「白いぼうし」で学んだことを生かし、場面の移り変わりに着目して不思議なところを見付けることができるようにする。</p> <p><b>指導のポイント④</b> 「白いぼうし」での学びを、次時の学習で、選んだお話の読みに活用することができるようになります。</p>
	4	<p><b>【自分で選んだお話】</b></p> <p>○選んだお話を「ふしぎのとびら」で説明するために、自分が不思議に思うところを探す。</p>	



- 不思議に思うところを友達と交流し、そのわけを話し合う。
- お話の面白さを伝えるために最もふさわしい不思議を選ぶ。
- 不思議を解き明かす叙述を見付けて線を引く。

- ・各自が選んだお話のシートを準備し、不思議だと思いうわけを叙述に沿って考えることができるようにする。
- ・同じお話を選んだ友達と話し合う場を設け、不思議なところを叙述に沿って明確にできるようにする。
- ・話合いを通して、様々な不思議の捉え方があることに気づき、友達の考えを自分の読みに生かすことができるようにする。
- ◇ [関] 選んだお話を、場面の移り変わりに注意して何度も繰り返し読もうとしている。(活動の様子)
- ◇ [読ウ] 選んだお話について、自分が面白いと思った不思議の部分を見付け、そのわけを叙述に沿って話したり書いたりしている。(話合いの様子、学習シート)

5  
本  
時  
①

**【白いぼうし】**

- 不思議を解き明かす叙述について友達と交流し、「ふしぎのとびら」に記載する叙述を決める。

**【自分が選んだお話】**

- 選んだお話を「ふしぎのとびら」で説明するために、不思議を解き明かす叙述について友達と交流する。

- ・「白いぼうし」の文章全体を見通す掲示物を活用し、場面と場面を関連付けながら不思議を解き明かす叙述を指摘し、仕掛けを説明することができるようにする。
- ・「白いぼうし」で交流したことを生かして、同じお話を選んだ友達と交流ができるようにする。
- ・交流の際は、互いの考えの違いに着目したり、不確かな考えについて意見を求めたりするよう助言し、友達との交流を生かして自分の読みを明らかにしたり広げたりできるようにする。
- ◇ [読ウ] お話の面白さを説明するために、複数場面を関連付けて場面の移り変わりを捉え、不思議を解き明かす根拠となる叙述を指摘している。(学習シート、話合いの様子)

6  
7

**【白いぼうし】**

- 前時に話し合ったことを基に、「ふしぎ解き明かし」の引用と説明部分を書く。

**【自分が選んだお話】**

- 選んだお話を「ふしぎのとびら」で説明するために、前時に話し合ったことを基に引用する叙述を決め、「いちばんのふしぎ」と「ふしぎ解き明かし」の引用部分を書く。
- 必要に応じて友達と交流しながら、「ふしぎ解き明かし」の説明部分を書く。

- ・前時に友達と交流しながら学習シートに書き込んだことを基に説明が書けるようにする。
- ・教師の作品をコピーして各自の手元に置いておくようにし、必要に応じて参考にするよう促すことで、場面と場面を関連付けて書けるようにする。
- ◇ [読ウ] お話の面白さを説明するため、複数場面を関連付けて場面の移り変わりを捉え、不思議を解き明かす根拠となる叙述の意味を説明している。(「ふしぎのとびら」)
- ◇ [読エ] お話の面白さを説明するために、不思議だと思いう叙述や、不思議を解き明かす根拠となる叙述を引用している。(「ふしぎのとびら」)
- ◇ [言イ(ク)] 「その」「あの」などの指示語が示す語を正確に捉えたり、「すると」「しかし」などの接続語でつながる文や段落の関係を適切に捉えたりして読んでいる。(「ふしぎのとびら」)

8

**【白いぼうし】**

- 「松井さんのひとりごと」の根拠となる叙述について友達と交流する。
- 交流したことを基に、「ふしぎのとびら」の「松井さんのひとりごと」の部分を書く。

- ・交流の際は、互いの考えの違いに着目したり、不確かな考えについて意見を求めたりするよう助言し、松井さんの人柄をつかむことができるようにする。
- ◇ [読ウ] お話の面白さを説明するために、松井さんの言動についての叙述を根拠に人柄を捉え、松井さんの思いを想像して書いている。(話合いの様子、「ふしぎのとびら」)
- ◇ [言イ(ク)] 「その」「あの」などの指示語が示す語を正確に捉えたり、「すると」「しかし」などの接続語でつながる文や段落の関係を適切に捉えたりして読んでいる。(話合い

	<p>9 【自分が選んだお話】</p> <p>○選んだお話を「ふしぎのとびら」で説明するために、「松井さんのひとりごと」の根拠となる叙述について友達と交流する。</p> <p>○交流したことを基に、「ふしぎのとびら」の「松井さんのひとりごと」の部分を書く。</p>	<p>の様子、「ふしぎのとびら」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に「白いぼうし」で学んだことを生かし、言動に着目して松井さんの思いを想像できるようにする。</li> <li>・同じお話を選んだ友達と交流する場を設定し、互いの考えの違いに気付いたり、不確かな考えについて意見を求めたりできるようにする。</li> </ul> <p>◇ [読む] お話の面白さを説明するために、松井さんの言動についての叙述を根拠に人柄を捉え、松井さんの思いを想像して書いている。(話合いの様子、「ふしぎのとびら」)</p> <p>◇ [言い(き)] 「その」「あの」などの指示語が示す語を正確に捉えたり、「すると」「しかし」などの接続語でつながる文や段落の関係を適切に捉えたりして読んでいる。(話合いの様子、「ふしぎのとびら」)</p>
三	<p>10 11 本時 ②</p> <p>○自分が選んだお話の「ふしぎのとびら」を読み返し、書き加えたりペン書きしたり色を塗ったりして仕上げる。</p> <p>○「ふしぎのとびら」を使って、各自が選んだお話を説明し合う。</p> <p>○シリーズを通したお話の魅力や松井さんの人柄などについて話し合う。</p> <p>○改めて読んでみたくなったお話を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までに教師が選んだ7作品を全員が読むよう促し、異なるお話を紹介する作品として選んだ児童同士で説明し合うようにする。</li> <li>・教師が選んだ作品以外も含めたシリーズのお話の共通点や、複数の作品から読み解けること等を話し合うよう促し、シリーズ作品の面白さを味わうことができるようにする。</li> </ul> <p>◇ [関] 自分が選んだお話や他の作品を改めて読み返そうとしている。(活動の様子)</p> <p>◇ [読む] 自分が選んだお話の不思議な面白さを説明したり、友達が選んだお話の不思議な面白さの説明を聞いたりして、場面の移り変わりを捉えながらファンタジー作品の面白さを味わっている。(話合いの様子、発表の様子)</p>

## 7 本時①の指導 (5/11時)

### (1) 目標

お話の面白さを説明するために、複数場面を関連付けて場面の移り変わりを捉え、不思議を解き明かす根拠となる叙述を指摘することができる。 (読むことウ)

### (2) 指導過程

主な学習活動 予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) 評価 (◇)
<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ふしぎのとびら」でおもしろさを説明するために、ふしぎを解き明かす証拠の文を見付けよう</p> </div> <p>2 「白いぼうし」について、前時に各自が線を引いた根拠となる叙述を基に、なぜその文が証拠になるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早く、おじちゃん。早く行ってちょうだい。」という文が証拠になる。わけは、女の子は実はチョウで、男の子につかまりそうなので、そう言っているから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表を基に、本時で学ぶ内容を児童が自ら確認し、「ふしぎのとびら」で面白さを説明するという目的意識を持って取り組むことができるようにする。</li> <li>・作品全体を読むよう意識付けることで、不思議を説明するためには、場面と場面を関連付け、複数の文を結び付けて読まなければならないことに気付くことができるようにする。</li> <li>・学習シートの下段余白に話合いで気付いたこと等をメモしておくよう助言し、交流した読みを次時の「ふしぎ解き明かし」の説明部分を書く際に生かすことができるようにする。</li> <li>・はっきり分からないところや、友達と意見が分かれるところは隣席の友達と話し合う機会を設け、読みの交流ができるようにする。</li> <li>・前時までに各児童が根拠として線を引いた叙</li> </ul>

**ポイント⑤**

本時では「白いぼうし」による学習を行った後、自分が選んだお話による学習を行うことで、「白いぼうし」で話し合ったことを生かして、選んだお話の証拠の文を見付けることができるようにします。

- 3 選んだお話について、根拠になる文とその理由を考えたり話し合ったりする。
  - (1) 個人で考える。
  - (2) 同じ作品を選んだ友達と話し合う。
    - ・「わかりきったことを……、えっ。」というところが証拠になるような気がするんだけど、どう思う？
    - ・ぼくも証拠になると思う。後の場面で、「そうか、わかっているのと、まちがえたんだな。」という文が出てくるから、ここで松井さんも気が付いたんだね。
- 4 本時を振り返り、次時の学習内容を確認する。

述を確認して実態を把握し、それぞれの進度や考え方に応じた支援ができるようにする。

- ・「白いぼうし」での話し合いを基に、個人で考えた後に同じお話を選んだ友達と話し合うようにすることで、互いの考えの違いに着目したり、不確かな考えについて意見を求めたりするよう促し、友達との交流を生かして自分の読みを明らかにできるようにする。

**ポイント⑥**

同じお話を選んだ友達とグループで話し合う機会を設けることで、個々の読みを深めることができるようにします。

- ◇ [読む] お話の面白さを説明するために、複数場面を関連付けて場面の移り変わりを捉え、不思議を解き明かす根拠となる叙述を指摘している。(学習シートの書き込み、話し合いの様子)
- ・本時の学習の成果を賞賛し、学習計画表を基に、児童が次時の内容を自ら確認できるようにする。

**8 本時②の指導 (11/11 時)**

**(1) 目標**

互いの選んだお話について説明し合い、場面の移り変わりを捉えてファンタジー作品の面白さを味わうことができる。  
(読むことウ)

**(2) 指導過程**

主な学習活動 予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) 評価 (◇)
<p>1 自分がつくった「ふしぎのとびら」を見返し、本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ふしぎのとびら」を使って、選んだお話のふしぎなおもしろさを伝え合おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表を基に、本時に学ぶ内容を児童が自ら確認し、「ふしぎのとびら」で面白さを説明するという目的意識を持って取り組むことができるようにする。</li> </ul>
<p>2 異なるお話を選んだ友達と「ふしぎのとびら」を使って伝え合う。</p> <p>(1) それぞれが選んだお話について説明し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この文が、後の場面の文とつながっているなんて面白いね。</li> <li>・私が選んだお話でも、同じように、松井さんがお客さんの秘密を気遣う様子があったよ。</li> </ul> <p>(2) 他の作品と比べ、シリーズの面白さを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議な道に迷い込んだことが、不思議の解き明かしにつながっている作品がいくつかあるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなことを伝え合えばよいか投げ掛け、「～と考えたところが面白い、すごい、なるほど」「～という考えは私と同じ、違う。なぜなら～」という例文を示すことで、互いの読みを交流できるようにする。</li> <li>・教師が選んだ7作品は全員が読んでおくようにすることで、自分の読みと比べながら説明を聞くことができるようにする。</li> <li>・それぞれの「ふしぎのとびら」や本文を手元に置いて交流させることで、互いの読みを比べながら説明を聞き合うことができるようにする。</li> <li>・各グループの机の上に本を用意しておき、必要に応じて、本を開いて確認したり、他の作品の叙述を指摘したりできるようにする。</li> </ul>
<p>3 学習活動2の交流で気付いたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動2で、複数の作品を関連付けて感想を話していた児童を取り上げ、全体に紹介すること</li> </ul>

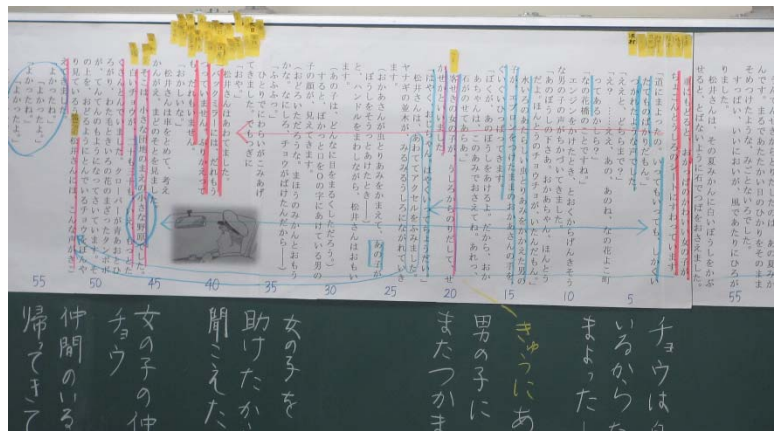
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなお話について伝え合ったら、不思議の仕掛けがよく分かった。似ている仕掛けもあった。</li> <li>・不思議の仕掛けや松井さんの優しさが、このシリーズ作品の魅力だと思う。</li> </ul> <p>4 改めて読んでみたくなったお話を読む。</p>	<p>とで、シリーズを通した作品の面白さに着目して考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が選んだ7作品以外の作品についても触れることで、シリーズを通して、ストーリー展開の巧みさや伏線、松井さんの人柄などについて気付くことができるようにする。</li> </ul> <p>◇ [読む] 自分が選んだお話の不思議な面白さを説明したり、友達が選んだお話の不思議な面白さの説明を聞いたりして、場面の移り変わりを捉えながらファンタジー作品の面白さを味わっている。(話合いや発表の様子)</p>
---	--

## 9 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

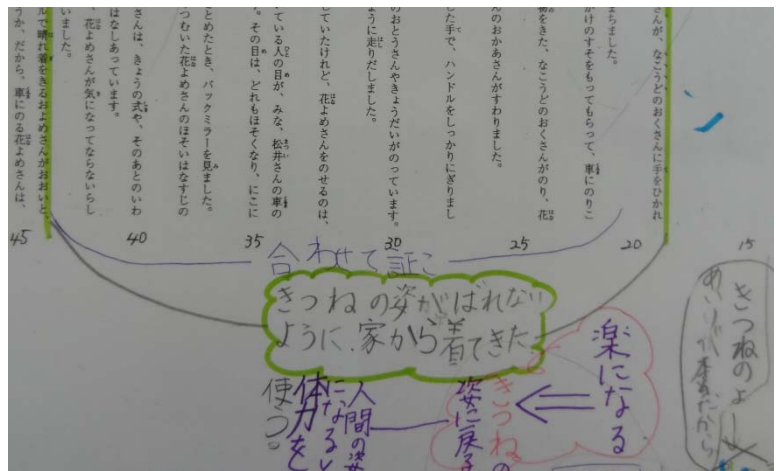
#### ① 主体的な思考を促す工夫 (ポイント①②③)

「自分自身が見付けたお話の不思議を解き明かす」という課題を設定することで、目的意識を持って主体的に読み進める単元展開を図った。単元の導入時には、教師の参考作品を示しながら説明の演示をすることで、「やってみたい」という意欲を高めるとともに学習の見通しを立てることができるようにした。教師の作品はコピーして各自の手元にも置かせ、随時書き方を真似たり参考にしたりできるようにし、ねらいに応じた活動を促した。また、作品全体を見通せるような学習シートを活用することで、場面と場面の関連性を明示的に把握できるようにし、複数の叙述を矢印で結んだり、余白に書き込みをしたりするよう促した。



#### ② 交流の工夫 (ポイント③⑥)

作品全体を見通す学習シート等は、個々の思考を促すことに加えて、互いの考えを交流する際にも活用した。共通学習材「白いぼうし」について全体で学ぶときには、黒板に作品を拡大して掲示したものを基に話し合わせることで、互いの不思議に思うことやその根拠を共有できるようにした。グループでの交流時には、各自の手元に学習シートを用意して考えを書き込ませ、それを基に話し合えるようにした。また、不思議解き明かしのために読み進める段階では、同じお話を選んだ友達と交流する場を設定し、「自分の考えたことについて皆の意見を聞きたい」「よく分からないので友達の考えを参考にしたい」「自分とは違う考えを知りたい」などの目的意識を持って交流できるようにした。完成した「ふしぎのとびら」を使って伝え合う段階では、違うお話を選んだ友達と交流し、それぞれのお話の面白さからシリーズ作品の魅力に迫ることができるようにした。



### ③ 学んだ読みを生かす学習場面の設定（ポイント④⑤）

共通学習材「白いぼうし」での学習活動を自分の選んだ作品の読みに生かすことで、指導のねらいの実現を図った。児童の実態を踏まえ、スモールステップで自分の選んだお話に活用できるようにするため、「白いぼうし」の活動と自分の選んだお話の活動を交互に行った。その際、指導のねらいや学習に必要な時間に配慮し、ある程度まとまった活動を行う際には1単位時間ずつ交互に学習活動を行い、本時（第5時）のように、より小刻みに活用させることで定着を図ろうとする際は、1単位時間の中で共通学習材と選んだお話の両方を扱うこととした。

#### （2）児童の姿から

ファンタジー作品の不思議を解き明かす活動は、児童の「何度も繰り返し読みたい」「友達と交流したい」という意欲を高めるために効果的であった。授業を通して、作品の中の複数の叙述を線で結び付けながら繰り返し読む姿や、他の作品との共通点や相違点について話す姿が見られた。また、「白いぼうし」で学んだことを自分の選んだ作品に生かして考える場面では、児童から「同じお話を選んだ友達と話したい」という声が挙がり、学習シートや本の叙述を指さしながら活発に考えを交流する姿が見られた。

#### （3）評価の実際

第5時における評価について述べる。評価規準は以下の通りである。

[読む] お話の面白さを説明するために、複数場面を関連付けて場面の移り変わりを捉え、不思議を解き明かす根拠となる叙述を指摘している。

この評価規準に照らして、「不思議だと思った叙述と解き明かしの根拠となる叙述を関連付けて指摘している」姿を「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

さらに、「不思議解き明かしの根拠となる複数の叙述を指摘し、それらの叙述が関連する理由について自分の読みを基に述べている」姿を「十分満足できる」状況（A）と判断した。例えば以下のような姿が見られた場合である。

##### 【本時の学習シートへの書き込み】

（「こほんとせきばらい」、「わかりきったことを」、「松井さんの耳にもちゃんと聞こえてきました」、「おなかまの車にのった」等の叙述を指摘し関連付けて）

- ・松井さんがきつねのよめ入りと気付いているとお母さんは思った。
- ・松井さんと心を打ちとけ合ったかも！
- ・松井さんがきつねの仲間と思われたかも。

##### 【完成した「ふしぎのとびら」の記述】

- ・松井さんがてんき雨のことを「きつねのよめいり」と言ったのに、本当に知っているとかんちがいされた。「こほん。」というのが、きつねの鳴き声に間ちがえられた。
- ・松井さんがおよめさんのことをきつねだと分かっているときつね側に思われたので、きつねの姿にもどった。
- ・松井さんまできつねの仲間だと思われた。

この児童は、「松井さんがバックミラーをのぞいたときにお嫁さんがきつねの姿になっていた不思議」を解き明かすために、複数の叙述の関連性を指摘し、「松井さんのことをきつねの仲間だと思ったからこそ打ち解け（心をゆるし）、本当の姿にもどったのかもしれない」という自分の読みを基に学習シートへの書き込みをしていた。

#### （4）学習指導を振り返って

単元を通して児童が主体的に学ぶ姿が多く見られた。それは、「自分が見付けたお話の不思議を解き明かして面白さを伝える」という課題を設定し、共通学習材「白いぼうし」とシリーズ作品を重ね読みしながら課題解決を図る単元展開を行ったことが大きな要因であろう。課題解決の過程では、友達との交流を意図的に設定したことも効果的であった。「ふしぎのとびら」にまとめる際には、「『いちばんのふしぎ』の位置を変えたい」「とびらの枚数を増やしたい」など、教師の想定以上に児童が主体的に思考し、判断しながら表現しようとする姿も見られた。今後も、児童が自ら本に手を伸ばし、楽しみながら読む力を付ける単元づくりを目指したい。

## 事例8 第4学年

### 1 単元名 心に残った物語の面白さを伝え合おう

教材名 「プラタナスの木」

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。」に対応する言語活動として、物語の心に残る面白さについて、感想を伝え合うという活動を行うこととした。この言語活動を通して、「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を指導する。

この指導のねらいの実現に向けて、感想を伝え合う言語活動を行うに当たっては、読んだ感想を交流したり、感想の根拠となる叙述について説明し合ったりすることによって、同じ作品を読んでも、感じ方には一人一人違いがあることに気付くことができるようにする。また、根拠となる叙述については、前単元までに学習してきた場面の移り変わり、登場人物の性格、気持ちの変化などを手掛かりにしていくことができるようにする。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

1学期には、登場人物の人柄を捉え、説明し合う言語活動を行った。この言語活動を通して「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」のうち、特に場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格について、叙述を基に想像して読むことを学習した。そこで本単元では、身に付けた力を生かしながら、登場人物の言動を手掛かりに、気持ちの変化に着目して「プラタナスの木」を読み、自分が考えたことや疑問に思ったことについて根拠を示しながら読んだ感想を述べ合う。この学習を通して、同じ作品を読んでも、着目する叙述や読み手の経験によって、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くとともに、自分が持っていなかった新たな読みを発見することによって、物語を読む面白さに改めて気付くことができるようにしたい。

#### (2) 単元構想及び教材について

本単元では、同じ物語を読んでもその感想には違いがあること、感想の違いには着目する叙述や読者の経験が関係していることに、友達との交流を通して気付くことができるようにする。

作品「プラタナスの木」の登場人物は、児童と同じ4年生であることから、人物に共感したり、同じ目線で想像を広げて読んだりできる作品である。

第一次では、これまでに国語の学習などで読んできた作品について、感想を述べ合うことで、同じ場面が心に残る場合、異なる場面が心に残る場合があることに気付かせていく。

第二次では、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などに着目し、物語の面白さを見付けられるようにする。場面と場面とを関係付けて読んだり、登場人物のプラタナスの木に対する思いの変化を考えながら読んだりすることで、自分の心に残った場面や、その場面についての感想を明確にしていく。その際、友達の感想を知りたいといった思いをはっきりさせたり、みんなと読み合ったらもっと面白さを味わえると感じられるところを見付けたり、友達がどのような叙述に着目してどのような感じ方をしているのか、どの場面にどのような疑問を持っているのかを発見したりする活動を設定する。

第三次では、同じ場面を選んだ友達と感想を交流しながら、それ以外の場面についても児童自身の目的をはっきり持たせて交流し、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができるようにする。また、こうした違いからくる物語を読む面白さを実感できるようにする。

さらに、友達との感じ方の違いや互いの感じ方のよさをまとめ、学習の振り返りとする。

### (3) 指導について

物語の中で特に心に残った場面や、その根拠として自分が着目した叙述をまとめるために、ノートを工夫して活用していく。見開きのページに物語の展開が一目で分かるようにし、自分がどの場面にどのような感想を持ったのか、それはどの叙述や経験からくるものなのかを記入させ、自分の読みや友達と交流する際の伝えたい、知りたいといった思いを確かめることができるようにする。また、付箋紙に書かれた友達の感想を貼れるようにし、交流した話題を振り返ることができるようにする。

交流に当たっては、黒板に「伝えたい・知りたいコーナー」を設け、児童がどのような目的で誰と交流すればよいのかを判断する手掛かりとし、目的や必然性のある交流を実現させる支援とする。

児童が交流する場面では、発見したことや疑問に思っていることを伝えるための具体的な言葉、それらを伝えられたときに返す具体的な言葉を、交流の手掛かりとして提示し、日常的に使えるように言語環境を整えておく。

ノート指導については、見開きを使って自分や友達の読みを記録したり、読んだ感想を交流したりするために活用できるよう工夫する。

場面5	場面4	場面3	場面2	場面1
ぼくたちがみきや枝や葉っぱの代わりだ。	プラタナスの切りかぶの上に立ってみた。 心に残る場面、感想	しだいにぼんやりしていく。	ある日、おじいさんは不思議なことを言った。 根拠となる叙述	展開
友達からの感想スペース (付箋紙)				

- ノートの見開きには、
  - ・物語全体の展開
  - ・自分の心に強く残ったこと
  - ・根拠となる叙述や経験
  - ・伝えたい、知りたい等の思いを書く。
- 場面の移り変わりや気持ちの変化を矢印で表す。交流では、互いのノートを見せ合い、叙述を指し示しながら伝えたい、知りたいといった思いを伝え合うようにする。

### 4 単元の指導目標

- 物語の心に残ったところについて、感じたことや考えたことを、根拠となる叙述を基に交流しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。(読むことウ)
- ◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。(読むことオ)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア))

### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語を読み、心に残ったところに着目しながら、互いの感想を伝え合おうとしている。	・自分の感想の根拠を明らかにするために、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化に着目して読んでいる。(ウ) ・物語を読んだ感想がどの叙述に基づいているか、自分の経験とどう関連しているかを明らかにしながら交流し、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ)	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(イ(ア))

6 単元の指導計画（全7時間扱い）

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
一	1	<p>○これまでに国語の学習で読んだ物語について振り返り、感想を述べ合い、以下のような点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残った場面が異なる。</li> <li>・心に残った場面は同じであるが、その理由が異なる。</li> </ul>	<p>・ここで取り上げる作品は、これまでの教材文や、児童が広く知っている作品の中から選ぶ。</p> <p>・同じ作品を読んでも、読んだ人それぞれに感じるものが異なったり、その理由が異なったりすることに対して関心を抱かせるような声かけをする。</p> <p>・感じ方の違いについては、心に残った場面が違う場合と、心に残った場面は同じであるが、その理由が違う場合とに整理していく。</p> <p>◇ [関] 心に残ったことを相手に伝えることに関心を持ち、自分も物語を読んで感想を伝えてみたいという意欲を高めている。（聞く様子や本時の感想）</p>
		<p><b>指導のポイント①</b> 感想は一人一人違っていいのだという実感を持てるようにします。</p>	
二	2	<p>○同年代の人物が主人公の「プラタナスの木」を次の点に注意して読み、感想を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残った場面やその移り変わり、出来事</li> <li>・登場人物の言動</li> <li>・プラタナスの木に対する登場人物の思いやその変化</li> </ul>	<p>・既習事項を振り返り、場面の移り変わりや出来事に着目して物語の筋を捉えて読むことで、感想をより明確にすることができることを確認する。</p> <p>◇ [読ウ] 感想を明確にするために、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化に着目して読んでいる。（発言・ノート）</p>
	3	<p>○「プラタナスの木」の中で疑問に思うことや気になる叙述を見付けたり、友達と一緒に読んで感想を交流してみたいところをはっきりさせたりする。</p> <p>○疑問や気になる叙述、友達と一緒に考えてみたいところを交流する。</p>	<p>・交流する上で発展性のありそうな疑問について、いくつか例示してイメージをつかませる。</p> <p>・細かな叙述から見付けた、小さな疑問でもよいことを伝え、自分の考えを明確にしながら読めるようにする。</p> <p>・本文を繰り返し読み、物語の展開や叙述に着目しながら疑問や交流したい感想を見付けられるように支援する。</p> <p>◇ [読オ] 疑問に思うことや、友達と交流してみたい感想をはっきりさせている。（発言・ノート）</p> <p>◇ [言イ(ア)] 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（ノート）</p>
		<p><b>指導のポイント②</b> 第5時・第6時の交流が目的を明確にした活動となるよう、どのようなところが気になっているかについて交流しておきます。</p>	
	4	<p>○前時で明らかにした疑問について、教科書の叙述や自身の経験を根拠に自分の考えを明らかにしていく。</p> <p>○疑問に対する自分の考えや、まだ疑問として残っていることをノートにまとめる。</p>	<p>・疑問に対する自分の考えは、教科書の叙述を根拠にしながら、あるいは自身の経験と重ねながら書かせるようにする。</p> <p>・自分がどこに着目してどのような感想を持ったのか、本文に立ち返ってノートにまとめることで、根拠をはっきりさせる。</p> <p>・次の時間に何をどのように話したいのか、交流したい疑問は何なのかをはっきりさせる。</p> <p>◇ [読オ] 叙述を根拠にしたり、自身の経験をもとにしたりして自分の考えを書いている。（ノート）</p>



**指導のポイント③**

伝えたい発見、一緒に考えてみたい疑問について、「伝えたい・知りたいコーナー」に付箋紙で貼ることで、交流の目的をはっきりさせるとともに、交流したい相手を確認しておきます。

5 本時	<p>○前時までに自分が発見した読みや、明らかにしたい疑問などをペアや小グループで友達と交流し、一人一人の感じ方や叙述への着目の仕方の違いに気付くとともに、自分では着目していなかった叙述の意味を見いだしたり、疑問に感じていた部分をはっきりさせたりする。</p> <p>○交流したことを振り返り、次時の感想交流で伝えたいことや、明らかにしたい疑問についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝えたい・知りたいコーナー」を活用し、「この場面に着目した友達と交流したい」などといった目的に応じて相手を見つけて交流させ、自分の考えを伝えたり、友達が感じている疑問を知ったりすることができるようにする。</li> <li>・交流する相手の見付け方や交流の進め方などをいくつか具体的に例示しておき、どの児童もスムーズに交流ができるようにする。</li> <li>・交流に当たっては、常に本文を引用しながら、どの叙述についてどのように感じたのかを明らかにするとともに、お互いにじっくりと本文を読んでから感想を述べ合うようにする。</li> <li>・教科書やノートを活用し、着目した叙述を指し示して根拠を明らかにしながら交流させる。</li> <li>・着目する叙述や読み手の経験によって、心に残る場面は一人一人違ってくことに気付かせる。</li> <li>・自分が持っていなかった読みを知ることで、物語の新たな面白さを発見できるようにする。</li> </ul> <p>◇ [読オ] 一人一人の感じ方やその根拠の違いに気付いている。(交流の様子・ノート・付箋紙)</p>
三 6	<p>○心に残った場面が同じ友達とグループを組んで感想の交流を行い、新たな感想を持ったり、一人一人の感想の理由に違いが生まれることを実感したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの交流の時間を十分確保し、じっくりと感想を交流できるようにする。</li> <li>・心に残った場面が同じでも、経験によってその理由は一人一人異なることに気付かせる。</li> <li>・感想には根拠があることを確かめさせる。</li> <li>・共通に選んだ場面以外でも感想を交流させ、感じ方の違いによりはっきり気付くことができるようにする。</li> </ul> <p>◇ [読オ] 一人一人の感じ方の違いやそのよさについて、誰のどのような読みと交流して実感したかなどをはっきりさせている。(交流の様子・ノート)</p>
7	<p>○改めて本文を読み返し、新たに気付いた解釈や友達の読みの面白さなどを確かめる。</p> <p>○学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返り、物語の捉え方や感想は様々であることや、その面白さに気付かせる。</li> </ul> <p>◇ [読オ] 一人一人の叙述への着目の仕方には違いがあり、それによって感じ方に違いが出てくることや、その面白さに気付いている。(発言・ノート)</p>

7 本時の指導（5／7時）

(1) 目標

「プラタナスの木」に対する各自の感想を伝え合う活動を通して、一人一人の感じ方の違いに気づき、自分が持っていなかった読みの面白さを新たに発見することができる。（読むことオ）

(2) 指導過程

主な学習活動 予想される児童の反応	指導上の留意点（・） 評価（◇）
<p>1 前時の学習活動を振り返りながら、本時の学習活動とめあてを確認する。</p> <div data-bbox="167 533 782 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達に伝えたい発見や疑問に思っていることを交流し、自分が持っていなかった新たな読みの面白さを見付けよう。</p> </div> <p>2 前時までに自分が発見したことやその根拠となる叙述、本時で明らかにしたい疑問などを確認する。</p> <p>友達との交流で伝えたい発見やはっきりさせたい疑問を、本文を読みながら、ノートや「伝えたい・知りたいコーナー」も使って確認しておく。</p> <div data-bbox="209 1016 742 1267" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>指導のポイント④</b> ノートの記述や「伝えたい・知りたいコーナー」を見ながら、目的に応じて自分で交流相手を決められるようにします。</p> </div> <p>【ノートの活用】 前時にノートに記録した自分の読みを、教科書本文を読み返しながら確認したり、必要に応じて追記したりする。</p> <p>3 目的を持って友達と交流し、発見を伝え合ったり、疑問について友達と一緒に考えたりして、自分が持っていなかった新たな読みを発見したり、友達がどのような疑問を持っているのかを知ったりする。</p> <div data-bbox="209 1760 742 2047" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>指導のポイント⑤</b> ノートは単元を通して見開きで使用し、物語全体から自分が印象に残った場面やその根拠、感想や交流の記録が見て取れるようにしておきます。</p> </div> <p>【ノートの活用】 ノートの見開き面の記述を用いながら、自分の感想や根拠となる叙述、疑問等の概略を説明した上で、教科書の叙述を指し示して交流する。</p> <p>「この場面が心に残ったんだけど、これって前の（後の）この部分と関係してると思うん</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの自分の読みや友達との交流で気付いたこと（心に残る場面や感想は、読み手の経験や着目した叙述が根拠になっていること）を振り返らせ、こんな発見を聞いてもらいたい、疑問に思っている部分をもっとはっきりさせたいという気持ちを高める。</li> <li>・物語の展開を押さえながら本文を再読し、物語の全体から根拠を探るように伝える。</li> <li>・物語の展開や気になる箇所について、教科書を読み返しながら自分の読みやその根拠、疑問点などを確かめ、交流活動につなげる。</li> <li>・前時までに黒板の「伝えたい・知りたいコーナー」に付箋紙を貼らせておき、交流したい内容を具体的に把握させるとともに、交流の時間に誰とどのような話をしてみたいか、見通しを持たせておく。</li> <li>・互いのノートの記述や黒板の「伝えたい・知りたいコーナー」を参考に、同じところに着目した友達や、違うところに着目した友達と交流させる。</li> <li>・本時では、交流で一つの解釈にまとめなければいけないのではなく、各自が感じたことを素直に伝え合い、それに対する感想や意見も様々であってよいことを伝える。</li> <li>・疑問は何なのかを明らかにし、疑問の意味やその疑問がどの叙述からきているのかをよく確かめながら交流するよう伝える。</li> <li>・交流中にも該当する箇所を読んでみる時間を大切にし、本文を引用して説明させる。</li> <li>・疑問について友達と一緒に考えさせながら、</li> </ul>

<p>だ。」</p> <p>「そんな読みもできるんだね。自分は気付かなかったけれど、面白い読みだね。」</p> <p>「自分もそこに注目したけど、ここも関係していると思うよ。」</p> <p>「この場面で、どうしてこんなことしたのかがよく分からないんだけど。」</p> <p>「それって、こういうことが疑問ということ？」</p> <p>「自分もまだよく分からないけど、もしかしたらここが関係しているんじゃないかな。」</p> <p>「自分も迷っているんだけど、ここどう思う？」</p> <p>「〇〇さんにも聞いてみようか。」</p> <p><b>【ノートを活用】</b></p> <p>交流の際に、自分の感想や相手の感じ方の面白さについて付箋紙に書き、ノートの「友達からの感想スペース」に貼る。</p> <p>4 今の時点で「みんなにこれだけは考えてほしい」ということを出し合う。</p> <p>5 友達からもらった付箋紙の記述と照らし合わせながら再度本文を読み、本時を振り返り、次時に行うグループでの感想交流ではどの部分に着目して発見を伝えたいか、どのような疑問をはっきりさせたいかを明確にする。</p>	<p>次の時間にはこんなことを聞いてみよう、答えてみようという見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 同じ場面が心に残っても、その理由は読み手の経験や着目する叙述によって異なることに気付かせる。</li> <li>• 交流後には、友達との交流により自分が持っていなかった新たな読みを発見して、さらに詳しく考えてみたくなったところやまだはっきりしない疑問を付箋紙に書き、交流相手に渡す。</li> </ul> <p>◇ [読オ] 一人一人の感じ方やその根拠の違いに気付いている。(交流の様子・ノート・付箋紙への書き込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 二人程度に発言させ、それをきっかけに全員に教科書を読ませる。答えられそうな児童がいれば発言を次時につなげ、いなければ次時の交流の話題とするよう伝える。</li> <li>• 友達からもらった付箋紙の記述を確かめながら本文を読み返すことで、次時の見通しを持たせる。</li> </ul>
---	--

## 8 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ①物語の感想は一人一人違っていいのだという実感を持たせる手立て (ポイント①)

第1時にこれまでに国語の学習で読んだ物語について振り返り、感想を述べ合う活動を通して、物語の感想は一人一人違っていいのだという安心感を与えるとともに、感想や印象に残る場面が違ってくるのは着目するところや読み手の経験が違っているからであることを確認し、物語を読む面白さに改めて気付かせるようにする。

#### ②感想交流に向けて、目的を明確にした交流をするための手立て (ポイント②)

第5時で伝えたいことや知りたいこと、第6時で物語の感想を交流するために、まずは自分の持った感想について、その根拠を自分で見付け出し、発見したことをノートに記録させておく。その過程において、疑問として残っていることやまだはっきりとは分からないこと、友達の考えも聞いてみたいことについても記録させておき、どこに着目して読んだのかを交流させておくことで、誰と、どのような目的で交流したいかについて見通しが持てるようにする。

### ③「伝えたい・知りたいコーナー」の活用（ポイント③）

交流の目的をはっきりさせたり、交流したい相手を見付けたりする手立てとして、「伝えたい・知りたいコーナー」を作った。自分の感想をよりはっきりさせるために、第3時で気になる叙述を見付け出し、第4時で自分なりの考え（根拠）を見付け出す活動を通して、友達に伝えたい自分の読み（発見）や、はっきりせずにもやもやしているところ（疑問）を明確にして付箋紙に記入する。その際、発見したことは青の付箋紙、疑問に思ったことは赤の付箋紙に書き分けるようにする。付箋紙は「伝えたい・知りたいコーナー」の当該場面に貼り付けておく。そうすることで、第5時の交流を行う前に、友達がどのようなところに着目し、どのような疑問を持っているのか、自分の疑問に答えてくれそうな友達はあるかといったことを把握する機会となり、交流の見通しを持たせることができる。「伝えたい・知りたいコーナー」は、第5時、第6時の交流中にも自由に見られるようにし、発見や疑問を確認したり、新たな交流相手を見付けたりする手立てとする。

### ④目的に応じて交流相手を自分で決める手立て（ポイント③④）

発見や疑問、感想を交流するに当たっては、交流の目的をより明確にして行わせるために、交流相手を自分で選ぶことができるようにした。そのために、自分が印象に残った場面やそこから持った感想、気になった叙述や疑問に思ったことなどを、毎時間追記していったノートや教科書を使って確認する時間を十分に確保した。そうすることで、交流したい場面や叙述をはっきりさせるとともに、自分と同じところに着目している友達を「伝えたい・知りたいコーナー」で確認して交流相手を決められるようにした。



交流を通して新しい発見や疑問が見付かることも「伝えたい・知りたいコーナー」が見られるようにしたり、交流相手と情報交換しながら交流したい相手を見付けたりすることができるようにする。

### ⑤ノート指導の工夫（ポイント⑤）

ノートは、単元を通して見開き1ページに書き込んだり追記したりする使い方することで、場面の展開や自分が印象に残った場面、その根拠、疑問に思ったことなどを、物語全体を見ながら確認することができるようにした。ノート下段には友達との交流の記録を残せるようにし、誰がどのような読みをしていたか、交流を通してどのような発見があったかを振り返ることができるようにする。

#### （2）児童の姿から

自分で交流相手を決めたり、途中で交流相手を変えたりする自由な交流の形をとることで、児童は交流の目的や必然性をよりはっきりさせて、生き生きと交流することができた。交流の途中で教科書をじっくり読み直している姿や、「伝えたい・知りたいコーナー」に行き、次の交流相手を探す姿、ノートの記述や教科書の叙述を指でなぞり、一緒に読みながら意見を出し合う姿が多く見られ、新しい読みを発見することで物語の面白さに改めて気付くことができていた。着目する場所だけでなく、読み手の経験を踏まえた読み方の交流ができたことも、新たな読みの面白さに気付くよいきっかけとなった。

#### （3）評価の実際

第5時の「C読むこと」の指導事項オについての評価の実際を紹介する。

◇ [読オ] 一人一人の感じ方やその根拠の違いに気付いている。

この評価規準に照らして、次のような状況の児童は「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

#### 【Bの状況】

自分の疑問の解決を目指して交流することを通して、自分とは異なる叙述への着目の仕方や感想の持ち方があることに気づき、そのことについて付箋紙に書いたりノートに追記したりしている。

- (例)・マーちゃんたちがどうしてプラタナスの切りかぶの上に立ったのか分からずにもやもやしていたけれど、〇〇さんと交流して、おじいさんに対する気持ちに着目して読むとその理由が分かることに気付くことができた。
- ・プラタナスの木とおじいさんが同じ存在であるという読み方をする友達がいることに気付いて驚いた。

さらに、新たに発見した読みの面白さを自分の読みに関連付けたり、疑問が解決したことで自分の感想をよりはっきりさせたりした児童については、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

#### 【Aの状況】

- (例)・初めは「みんなによろしく。」というおじいさんの言葉の意味がよく分からなかったけれど、おじいさんが木の精だという読みに気付いて読み直してみたら、マーちゃんたちのプラタナスの木に対する考えの変化と、おじいさんに会いたいと思う気持ちとがつながって、感想のはっきりしなかった部分がくわしく説明できるようになった。
- ・「春になったら新しい芽を出す」という叙述について〇〇さんの考えを聞いて、マーちゃんたちはまたおじいさんに会えるといいなと思っていた感想が、きっとまた会えると思うという感想に変わった。自分の経験を入れて物語を読むのも面白いなと思った。

Bの状況については、ノートの追記の様子や交流後に交換する付箋紙を基に判断した。特に着目している叙述や疑問を把握するために、交流中の発言や「伝えたい・知りたいコーナー」に貼り付けた付箋紙も評価の参考として活用した。見開きの次のページに書かれた初発の感想や交流の感想を基に、交流を自分の読みに関連付けることができている場合はAと判断し、他の児童に紹介して広めていった。Bの状況に達していない児童については、一緒に「伝えたい・知りたいコーナー」に行き目的に合った交流相手を探したり、交流の輪に入って一緒に疑問を解決したりするなど個に応じた指導を行った。

#### (4) 学習指導を振り返って

自分で交流相手を見付け、次々と相手を変えて話をしていく活動は難しいかと思われたが、児童は大変楽しみ、交流内容も充実したものとなっていた。それは、交流に向けて自分の考えを確かめる時間を段階的に十分に設定し、交流の目的や必然性が明確になっていたからだと考える。交流を通して新たな疑問を見付け出したり、同じ疑問について複数の友達と意見交換したりすることで自分の読みを深めたり、物語の新たな面白さを発見したりすることができていたことは成果と言える。自分で課題を設定し、解決の手立てを見付け出す経験を今後も積み重ねていくことが重要であると感じている。

評価については、見開きページの記述と付箋紙のみで判断することは必ずしも十分とは言えない。教師は、必要に応じて交流の輪に入ったり、「伝えたい・知りたいコーナー」と感想を照らし合わせて思考の変遷を把握したりするなど、単元全体を通して評価することが大切になる。

## 事例9 第5学年

- 1 単元名 伝記を読んで自分の生き方を考えよう  
教材名 「百年後のふるさとを守る」

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。」に対応する言語活動として、今の自分や、最上級学年に進むこれからの自分を支える一文（言葉）を見付ける活動を行うこととする。

自分の生き方を考える上で手掛かりとなる一文を探して伝記を読むためには、伝記で取り上げられている人物の行動、言葉、業績、筆者が見いだした業績の意味など本文全体の叙述を関係付けながら、文章全体について自分の考えを明確にして読むことが必要となる。こうしたことによって、本単元でねらう「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」及び「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」の実現を図ることができる。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童はこれまでに、説明的な文章の構成を捉えて要旨をまとめたり、筆者の考えに対する自分の考えをまとめたりする言語活動を行ってきた。また文学的な文章の学習では、優れた表現によって、直接書かれていない人物の深い心情や性格について想像しながら読むことを経験してきている。日常の読書活動では、朝の読書タイムや休み時間に学校図書館を利用し、興味を持った伝記を手にとって読み進めている児童もいる。

#### (2) 教材について

「百年後のふるさとを守る」は、「稲むらの火」という物語の一部や「安政聞録」という歴史的資料を引用し、「浜口儀兵衛」という人物の一生を描いた伝記である。心情などを基軸に物語る文学的な描写と、時間軸に沿った事実の記述や説明の表現の両方が用いられている。人物の生き方や考え、その偉業がどのように意味付けられているのかを捉え、自分の考えを明確にしながらかくむことに適した教材である。そこで本単元では、伝記で取り上げられている人物の行動や業績から生き方や考え方を捉え、自分の生き方について考えられるようにした。

#### (3) 指導について

自分の生き方を考えるという言語活動を行うためには、自分を見つめ直し、伝記に描かれた人物と自分を重ねながら読むことができるようにする必要がある。普段の自分の生活や行動、できることや課題と感じていることなどの経験を掘り起こし、伝記に描かれている人物の生き方や考え方を自分に生かしたい、つなげていきたいという必要性を感じさせて学習課題を設定することや、常に自分と比べながら読み進めること、交流を目的を持って行うために、疑問や共感、納得など文章と対話しながら読み進めることなどの指導が必要となる。

### 4 単元の指導目標

- 人物の生き方を描いた伝記を読み、感銘を受けたり、あこがれを抱いて自分を見つめ直し、自分の生き方について考えたりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 人物の描写と書き手の評価を区別して読むなど効果的な読み方を工夫して読み、描かれた人物の行動や生き方から、読み手である自分に強く伝わってきたことを明確にし、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、自分の考えをまとめることができる。(読むことイ、オ)

○ 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ (キ))

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<p>・人物の生き方を描いた伝記を読み、感銘を受けたり、あこがれを抱いて自分を見つめ直し、自分の生き方について考えたりしようとしている。</p>	<p>・伝記に描かれた人物の描写なのか、書き手の人物に対する評価なのかを区別して読むなど、効果的な読み方を工夫している。(イ)</p> <p>・描かれた人物の行動や生き方から、読み手である自分に強く伝わってきたことを明確にしたり、自分の経験や考え方などとの共通点や相違点を見付けたりして、自分の考えをまとめている。(オ)</p>	<p>・文章にはいろいろな構成があることについて理解している。(イ (キ))</p>

## 6 単元の指導計画 (全6時間扱い)

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
一	1	<p>○最高学年へ向かう自分たちの生活を振り返り、今の自分が向き合っていること、頑張ろうとしていることを話し合う。</p> <p>○伝記を読んだ経験や感想を発表したり、その特色や意義について話し合ったりする。</p>	<p>・普段の学校生活を振り返り、自分の課題や願いを交流することで、自分の生き方に引き付けた読みができるようにする。</p> <p>・伝記を読むよさとして、目標が見付かる、励まされる、自分の生き方や考え方の参考にできる等を引き出していく。</p>
	2	<p>○伝記を読んで自分の生き方について考え、今の自分や、最上級学年に進むこれからの自分を支える一文(言葉)を見付けるという単元の課題を設定する。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <p>○「百年後のふるさとを守る」を読み、心に残ったことを発表し合う。</p> <p>○大体の内容と文章構成を捉え、伝記の特色をまとめる。</p>	<p>・心に残ったところは「物語のように書かれている部分」なのか「事実の説明や筆者の考えの部分」なのかを考え、伝記の特色をまとめられるようにする。</p> <p>◇ [関] 伝記に関心を持ち、進んで読もうとしたり、自分の生き方について考えたりしようとしている。(発表の様子)</p> <p>◇ [言イ (キ)] 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。(ワークシートの記述)</p>
二	3	<p>○心に残る叙述を見付けながら「百年後のふるさとを守る」を読み、自分が気になる叙述や、疑問に思う浜口儀兵衛の行動を探す。</p> <p>○自分が気になる叙述がどのような業績に裏付けられているのかをはっきりさせるために、伝記に描かれた人物の描写なのか、書き手の人物に対する評価なのかを区別して読み、伝記全体に描かれた浜口儀兵衛の行動や業績を関係付けな</p>	<p>・浜口儀兵衛の行動や業績、それを評価する筆者の言葉を書き抜いたり、それに対して自分はどうか考えるかをワークシートにまとめたりすることで、叙述をもとに考えられるようにする。</p> <p>・伝記全体に描かれた浜口儀兵衛の行動や業績を関係付けてワークシートに記入させることで、人物の生き方を多面的に捉えることができるようにする。</p>

### 指導のポイント①

「自分を支える一文を見付ける」という課題を設定することで、自分の考えを明確にする、主体的な読みができるようにします。

### 指導のポイント②

伝記の特徴を意識し、事実の記述と筆者の評価を区別しながら読み進められるようにします。

		<p>がら見付け、ワークシートにまとめる。</p> <p>○筆者が儀兵衛の業績に見いだしている価値や意味についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文に書かれている筆者が考える儀兵衛の業績の意味を儀兵衛の言動と関連させて確認する。</li> <li>◇ [読イ] 伝記に描かれた人物の描写なのか、書き手の人物に対する評価なのかを区別して読むなど、効果的な読み方を工夫している。(ワークシートの記述)</li> </ul>
4	<p>○浜口儀兵衛の生き方について、自分の体験や考えと関連付けて読めるところを見付ける。</p> <p>○浜口儀兵衛の生き方や、筆者が考える儀兵衛の業績の意味について、自分はどうか考えるのかをワークシートにまとめる。</p> <p>○「百年後のふるさとを守る」の中から「今の自分やこれからの自分を支える一文」の候補として、いくつか文を選び、ワークシートに書き抜く。</p> <p>○次時の学習で、グループでの話合いに際し、問題提起したいことをはっきりさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の今の思いや考えと重ねながら本文を繰り返し読み、伝記全体に描かれた浜口儀兵衛の行動や業績を裏付けとして、自分の心に残る一文を選ぶことができるようにする。</li> <li>一文に絞り切れない児童は、ワークシートに複数の候補を書いておき、次時での友達との交流の中で決定できるようにする。</li> <li>◇ [読オ] 「百年後のふるさとを守る」を読み、「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績を叙述に沿って見付け、自分の経験や考え方などとの共通点や相違点に気付いて自分の考えをまとめている。(ワークシートの記述)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>指導のポイント③</b>  <b>ワークシートを活用し、叙述を基に自分の考えを形成できるようにします。</b></p> </div>
5 本 時	<p>○浜口儀兵衛の生き方や、筆者が考える儀兵衛の業績の意味について、自分はどうか考えるのかをワークシートにまとめる。</p> <p>○浜口儀兵衛の生き方と自分とを比べ、納得するところや疑問に思うところを友達と交流し、そのわけを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いを通して様々な評価があることに気付き、友達の考えを自分の読みに生かすことができるようにする。</li> <li>友達との交流を通して、浜口儀兵衛の行動や業績を裏付けとして自分の心に残る一文を選ぶことができるようにする。</li> <li>◇ [読オ] 「百年後のふるさとを守る」を読み、「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績を叙述に沿って見付け、自分の経験や考え方などとの共通点や相違点に気付いて自分の考えをまとめている。(ワークシートの記述、話合いの様子)</li> </ul>	
三	6	<p>○前時をもとに、「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その理由を書きまとめる。</p> <p>○互いの選んだ一文を交流し合うとともに、本文を読み返して友達が文章のどのような叙述に着目したかを確かめたり、自分の思いを振り返ったりする。</p> <p>○単元の学習を振り返り、自己評価する。</p> <p>○次単元の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に見付けた「今の自分やこれからの自分を支える一文」を短冊にペン書きし、学習のまとめとなるようにする。</li> <li>再度本文を読み返し、友達の気付きのよさを味わったり、「自分はこんなことを目指しているからこの言葉に惹かれたのだ」といった自分らしい読みを実感したりできるようにする。</li> <li>◇ [関] 伝記を読み、感銘を受けたり、あこがれを抱いて自分を見つめ直し、自分の生き方について考えたりしようとしている。(振り返りの記述)</li> </ul>



## 7 本時の指導（5／6時）

### （1）目標

「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績を文章全体から見付け、友達との交流を通してそれらに関係付けたり、自分の経験や考え方などの共通点や相違点に気付いたりして自分の考えをまとめることができる。（読むことオ）

### （2）指導過程

主な学習活動 予想される児童の反応	指導上の留意点（・） 評価（◇）
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績、自分の生き方と重ねてどう考えるかを友達と交流し、自分の考えをまとめよう。</p> </div> <p>2 自分の考えをはっきりさせるための学習の進め方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習活動を確認し、「今の自分やこれからの自分を支える一文」を選び、自分の生き方を考えるという目的意識を持って取り組むことができるようにする。</li> <li>・学習の進め方を自ら考えることで、学習の見通しを明確に持ち、目的を意識して学習できるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>（例）○本時のめあてに基づき「自分のめあて」をはっきりさせる。          ○交流前の時点での「自分が選んだ一文とその根拠」を確かめる。          ○交流に向けて「自分が解決したい疑問」をはっきりさせる。          ○交流を通して「自分にはなかった新たな読み」を見付ける。          ○「自分のめあて」に即して、本時の振り返りをワークシートに書く。</p> </div>	
<p>3 本時の自分のめあてが一文を選ぶところにあるか、考えをまとめるところにあるか、はっきりさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をはっきりさせたい。</li> <li>・迷っている。</li> <li>・自分の経験と結び付けて書きたい。</li> </ul> <p>4 「百年後のふるさとを守る」について、前時に各自が見付けた「今の自分やこれからの自分を支える一文」の候補をもとに、儀兵衛の生き方について自分がどのように考えるかを明確にするために話し合う。</p> <p>（1）それぞれが選んだ一文や、その根拠として現時点で考えている叙述や、自分が迷っている点などについて説明する。</p> <p>（2）各自で、提案された点について深く関わると考えられる叙述を読み込み、友達の疑問や考えについて、自分はどのように考えるのかをはっきりさせる。</p> <p>（3）叙述を引用しながら、友達の問題提起や読みに対して自分はどのように考えたのかを述べ合い、それぞれの考えを広げたり深めたりする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>指導のポイント④</b>  <b>学習の進め方や本時のめあてを自分で考え、学習の見通しや目的を意識して学習できるようにします。</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の該当箇所を再読し、友達との交流の中で明確にしたいこと、解決したい疑問点などをまとめておき、交流の中で話題にできるようにしておく。</li> <li>・各グループの交流は、「児童の問題提起」→「問題提起に答えるため各自が本文を読み、考えをまとめる」→「考えを交流する」という順で、グループを構成する児童一人一人の課題を解決できるようにする。</li> <li>・交流に際しても、常に本文を読み返したり引用したりしながら、互いの読みの根拠を明確にしていくことができるようにする。</li> </ul> <p>◇ [読オ]「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績を文章全体から見付け、友達との交流を通してそれらに関係付けたり、自分の経験や考え方などの共通点や相違点に気付いたりして自分の考えをまとめている。（ワークシートの記述、話し合いの様子）</p>
<p>5 本時を振り返り、次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習活動を価値付け、学習計画表をもとに児童が次時の内容を自ら確認できるようにする。</li> </ul>

## 8 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ①自分の考えを明確にする主体的な読みができるような課題設定（ポイント①）

最高学年へ向かう5年生の今の時期を考え、「今の自分やこれからの自分を支える一文を見付ける」という課題を設定することで、目的意識を持って主体的に読み進める単元展開を図った。単元の導入時には、自分の普段の生活や行動を見つめ直し、自分ができていることや課題と感じていることなどの経験の掘り起こしを行い、自分が目指したいと思う最高学年の姿を明確にした。そうすることで、伝記に描かれた人物の考えや生き方を自分に生かしたいという意欲を高め、「今の自分やこれからの自分を支える一文を見付ける」という目的を全体で共通理解した。

#### ②伝記の特徴を意識した読み（ポイント②）

本学級では、この単元で初めて伝記を扱った。そのため、文章構成を全体で確認し、物語や詩のような行動や会話、心情などを基軸に物語る文学的な描写と、人物の生き方や考え方、その偉業などを意味付ける事実の記述や説明の表現の両方が用いられているという伝記の特徴を意識しながら読み進められるようにした。

#### ③叙述を基に自分の考えをまとめるワークシート（ポイント③）

文章を読んで人物の生き方に対する自分の考えをまとめる活動では、文章の一部だけから人物の生き方や考え方を捉えてしまうことが予想された。そこで、浜口儀兵衛の一生を年譜にまとめるワークシートを用意した。誕生から死までの間に浜口儀兵衛がどのような行動や決断をしたのかを年号や年齢とともに書き込み、さらに、自分はその行動や決断に対してどのように考えるかを書き込んでいくことで、人物の生き方や考え方を多くの面から捉えることができるようにした。また、人物が大切にしていたことは何だったのか、自分を支える一文となり得る候補の文や文章、その文や文章から伝わってくる人物の思い、自分の生き方につなげていきたい人物の考え方などを書き込めるようにしたワークシートも用意した。伝記に描かれた人物の考え方や自分を重ねながら、どのように自分の考えを形作っていけばよいのかという手順を示し、個人の読みを進められるようにした。また、自分で考えをまとめていく中で感じた疑問や、友達の考えを聞いてみたいと考えた事柄については、付箋に書き溜めるようにし、グループ交流の中で話題にできるようにした。

#### ④学習の見通しや目的を意識して学習を進める力の育成（ポイント④）

この時間の学習課題を達成するために、自分はどのように学習を進めていきたいのかを確認する時間を設定した。教師の指示に従って活動するのではなく、自ら課題を設定し、活動内容を考えていくことが主体的な学びにつながると考える。また、読みながら感じた疑問を話題にしたり、複数の候補で迷っている一文を相談したりするなど、グループ交流の時間をどのように使いたいのかを明確にすることで、意欲的で活発な交流の時間になると考えた。

### (2) 児童の姿から

本時までの自分の読みをワークシートに書き込んで蓄積することで、湧き上がった疑問や自分の考えについて意欲的に交流する姿が見られた。また、教科書の叙述を引用しながら話す児童に対して、関わりのある文章を見付けながら、相互に関連付けて自分の考えを話す姿も見られた。伝記から人物の生き方をどのように捉えたか、自分にどのように生かしたいのかを友達と交流することで、自分はどのようにしてこの一文に惹かれたのかが明確になったり、自分らしい読みを実感したりすることができた。

### (3) 評価の実際

第5時の「C読むこと」の指導事項オについての評価の実際を紹介する。

[読オ]「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績を文章全体から見付け、友達との交流を通してそれらと関係付けたり、自分の経験や考え方などとの共通点や相違点に気付いたりして自分の考えをまとめている。

この評価規準に照らして、次のような児童の状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

#### 【Bの状況】

「今の自分やこれからの自分を支える一文」と、その根拠となる行動や業績を文章全体から見付け、人物の生き方について自分はどのように考えるかをワークシートに書いている。

さらに、複数の叙述を根拠として人物の生き方や考え方を捉えている場合は、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

#### 【Aの状況】

・「村と村人を思う儀兵衛の固い決意に働く者たちが心を動かされたのである。」

（前時）この文には、儀兵衛の決意の固さがあらわれている。儀兵衛の思いがなければ、働く人にもその思いは伝わっていなかったと思うし、それが前の文の最後の「なんととしても堤防を完成させる」などの行動にも出ている。自分もそのように決断ができればなと思った。

↓

（本時）浜口儀兵衛の一番のターニングポイントは、1854年の大地震だったと思う。「自分の生まれた村と村人を守る」ということを儀兵衛は思っていたから、稲村に火を付けるなどの決断ができたと思う。それが、この文にもつながっている。この文は儀兵衛の決意の固さのあらわれだと思った。前の文の最後の「なんととしても堤防を完成させる」という決断など行動にもあらわれている。儀兵衛のその思いが働く人に伝わったのだと思う。自分は難しいことを後回しにしていまいがちだけれど、あきらめずにやり抜く姿勢をつくっていききたい。

この児童は前時まで一文を決定し、それに対する自分の考えをまとめることができていた。一方で、「浜口儀兵衛はなぜ大地震の際に逃げずに村人を救ったのか」という疑問を持っていた。本時のグループ交流で疑問を話し合う中で、「ふるさとを思う儀兵衛の気持ちが、そのような行動へとつながったのではないか。選んだ一文にも、その思いがつながっているのではないか。」と考え、伝記全体から複数の叙述を根拠に自分の考えを上のように書きまとめていた。

Bの状況については、全ての児童について、ワークシートを基に判断した。児童の実態を丁寧に把握する中で、Bの状況に達していない児童については、浜口儀兵衛のある行動や一つの決断を取り上げ、それに対して自分はどのように考えるかを書き出したり、高学年での自分の目指す姿や普段の自分の行動や考えと比較しながら読んだりするなど、個に応じた指導を行った。そして、最終的に書きまとめたワークシートにおいて、決定した一文と、それに対する自分の考えがまとめられているかを確認し、評価した。

#### （4）学習指導を振り返って

伝記を読むことは、多くの児童にとって興味深く、意欲を持って教材と向き合うことができた。また、最高学年に向かう今の自分を見つめ直し、普段の自分の行動や考え方と、浜口儀兵衛の考え方を比べながら読むことで、自分に取り入れたい考え方を見付けようと何度も文章と向き合う姿が見られた。課題を設定する際に、児童の経験を掘り起こすことや必要性を持たせて学習を進めることの大切さを感じた。

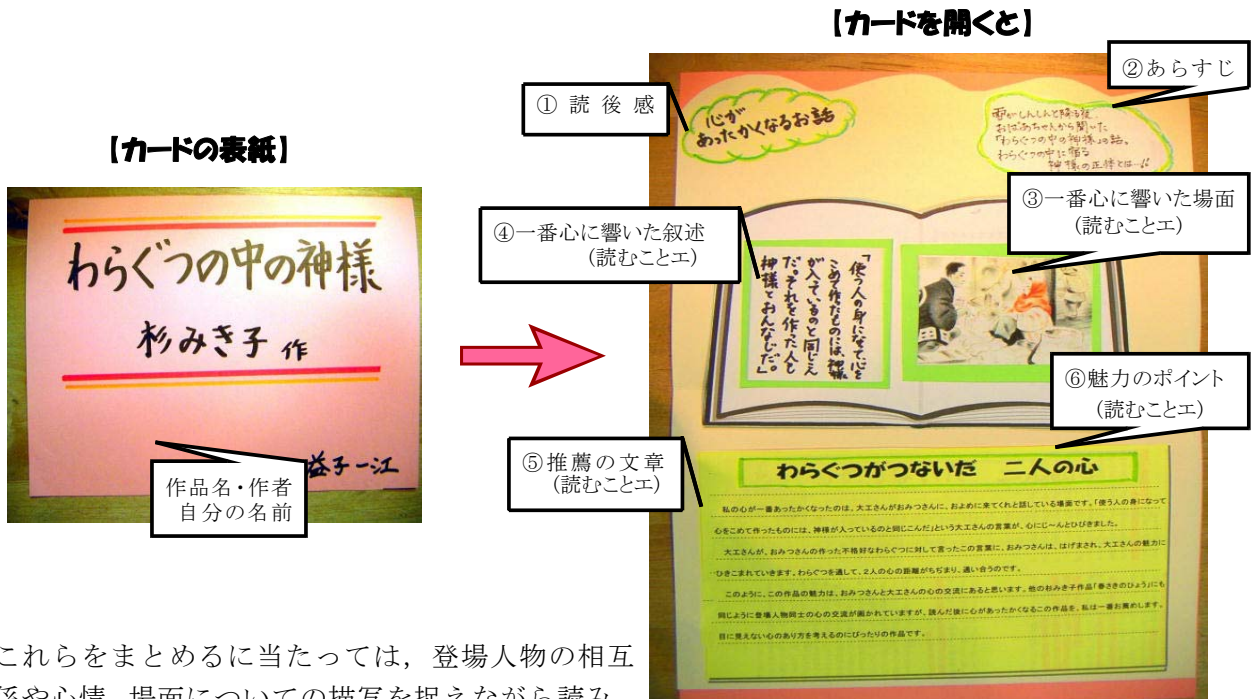
## 事例10 第5学年

- 1 単元名 お薦めします 私の心に響いたお話  
 ～「おすすめカード」で杉みき子作品をすいせんしよう～  
 教材名 「わらくつの中の神様」他 杉みき子作『かくまきの歌』

### 2 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと」に対応する言語活動として、おすすめカードで杉みき子作品の魅力を推薦する活動を行うこととした。推薦とは、他と比べてより強くひかれる魅力を伝えることである。本単元では、杉みき子作品を友達や図書館に来館する人に推薦するために、作品の魅力を「おすすめカード」にまとめる。このカードは以下の内容で構成している。

- ①「読後感」
- ②「あらすじ」
  - ・読み手を引き付けるように、話の大体をまとめる。
- ③「一番心に響いた場面」
  - ・作品の中で一番心に響いた場面の挿絵を貼ったり、描いたりする。
- ④「一番心に響いた叙述」
  - ・作品の中で一番心に響いた叙述を引用する。
- ⑤「推薦の文章」
  - ・推薦理由として、登場人物の描かれ方、物語の構成や表現の特色などの視点から魅力と考えること、他の作品と比較したよさなどについても触れ、3段落構成で書く。  
 (1段落目)…一番心に響いた場面・叙述を短くまとめる  
 (2段落目)…心に響いた理由(選んだ叙述や場面について読み解いたこと)  
 (3段落目)…魅力の視点、他の作品と比較したよさ、お薦めの文
- ⑥「魅力のポイント」
  - ・推薦文の題名のようなもの。作品の魅力を一言で表す。



これらをまとめるに当たっては、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えながら読み、優れた叙述について自分の考えをまとめる必要がある。また、完成したカードを通して同一作者の作品の魅力を紹介し合うことで、友達の考えと比べる、よいところは取り入れるというように、自分の読みを見直したり広げたりすることができる。よって、本単元で育成を目指す読む能力を身に付けさせることができると考える。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

これまで、文学的な文章を読むことの学習として、場面についての描写、登場人物の相互関係や心情を捉え、優れた叙述について考えたことを交流することを通して、作品の魅力をまとめたり、自分の経験などに関わらせて感想を書いて紹介し合ったりしている。そこで本単元では、作品の魅力を推薦する言語活動を通して、さらに自分の考えを明確にして読むことができるようにしたい。

#### (2) 教材について

本単元は、杉みき子作品を推薦するために、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること、まとめたものを基に魅力について交流することをねらいとしている。

そこで、共通学習材「わらぐつの中の神様」と共に『かくまきの歌』所収の10作品を扱う。雪国を舞台に描かれたこれらの作品は、まっすぐな心、純粋な心や深い思いやりの心など、目に見えない心の在り方が複数の人物を通して描かれている。それらに価値を見出し、人として忘れてはいけない大切なものを感じさせる作品である。また、優れた叙述に着目することで、人物の心情や情景を豊かに想像しながら読むことができる作品である。また、同一作者の作品を扱うことで、同じ視点で作品を比較しながら読み進めやすく、それぞれの作品が持つ特色やよさ、作者らしさに気付くことができ、他と比べて強くひかれる魅力を捉えるためにふさわしいと考える。

#### (3) 指導について

主体的な読みを引き出すために、導入では単元の課題とゴールを明確にする。「推薦する」ことを捉えることができるようにするとともに、これまでの学習を振り返ったり、教師の推薦を参考にしたりすることで、魅力の視点も見付けられるようにする。第二次は、共通学習材と自分の選んだ作品を交互に読んでいく。1単位時間を有効に活用できるよう、共通学習材についても「おすすめカード」と同じ形式のシートにまとめさせる。また、互いに関わり合いながら課題解決ができるように、毎時間、交流の場を設定する。目的に応じてグループの編成を意図的に変えるなど、効果的に交流を進めることができるようにする。そして、単元の後半には、児童自らが交流の目的に応じて交流の仕方を判断して進めることができるようになることを期待している。

### 4 単元の目標

- 杉みき子作品を読んで作品の魅力をまとめ、それについて交流することを通して自分の考えを広げたり深めたりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめるとともに、それを交流して、広げたり深めたりすることができる。(読むことエ、オ)
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ))

### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・杉みき子作品を推薦するために、登場人物の相互関係や心情、物語の情景等を考えながら読もうとしている。	・心に響いた杉みき子作品の魅力を推薦するために、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、魅力的だと考えた理由をまとめている。(エ) ・杉みき子作品の魅力を紹介し合い、自分の読みを見直したり広げたりしている。(オ)	・比喩や反復、擬声語・擬態語、省略、倒置などの文章に表れる表現の工夫に気付きながら、杉みき子作品を読んでいる。(イ(ケ))

6 単元の指導計画（全9時間扱い）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点(・)と評価(◇)
一	1 2	<p>○ 学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者や作品の紹介を聞く。</li> <li>・ 推薦の特徴をつかむ。</li> </ul> <p>これまでの学習を振り返り、作品の魅力を見付けるための視点を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の提示した「おすすめカード」を基に学習計画を立てる。</li> <li>・ 『かくまきの歌』の中から自分の推薦したい作品を決め、「おすすめカード」の表紙を書く。</li> </ul>	<p>・ 推薦の目的や対象、作品の推薦理由を明らかにするために、作品の魅力を見付けることが必要であることに気付くことができるようにする。</p> <p>・ これまでの学習を振り返らせたり、教師の推薦例を参考にしたりすることで、魅力を見付けるための視点を捉えることができるようにする。</p> <p>◇ [関] 自分の推薦したい作品を決め、これまでの学習を振り返ったり、教師の推薦例を参考にしたりして学習の見通しを持つようとしている。</p> <p>(観察・発表)</p>
二	3	<p>【わらぐつの中の神様】</p> <p>○ 物語のあらすじを捉え、一番心に響いた場面を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読後感について交流し、登場人物や場面設定を捉える。</li> <li>・ 一番心に響いた場面に付箋を付け、全体で交流する。</li> <li>・ 「読後感」、「あらすじ」、「一番心に響いた場面」をシートにまとめる。</li> </ul>	<p>【自分で選んだ作品】</p> <p>・ 読後感の元をたどったり、挿絵を基に「いつ・どこで・誰が・どうした」を話させることで、登場人物、場面設定などを大まかに捉えたりすることができるようにする。</p> <p>・ 「わらぐつの中の神様」の本文の一番心に響いた場面に付箋を付けさせ、その理由を話させることで互いの読みを交流できるようにする。</p> <p>◇ [読エ] 「わらぐつの中の神様」を読み、場面設定、登場人物の相互関係や心情の変化に着目して物語のあらすじを捉え、一番心に響いた場面を選んでいく。</p> <p>(発表、学習シート)</p>
	4	<p>○ 物語のあらすじを捉え、一番心に響いた場面を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読後感について交流し、登場人物や場面設定を捉える。</li> <li>・ 自分の選んだ作品の一番心に響いた場面について、同じ作品を選んだ児童同士で交流する。</li> <li>・ 「読後感」、「あらすじ」、「一番心に響いた場面」を「おすすめカード」に書く。</li> </ul>	<p>・ 前時の学習を振り返らせることで、前時の学習を生かして学習を進められるようにする。</p> <p>・ 同じ作品を選んだ児童同士で一番心に響いた場面とその理由を話させ、互いの読みを交流できるようにする。</p> <p>・ それぞれの考えの共通点や相違点などを適宜メモさせ、次時に推薦の文章を書く際、参考にできるようにする。</p> <p>◇ [読エ] 杉みき子作品を読み、場面設定、登場人物の相互関係や心情の変化に着目して話の大体を捉え、一番心に響いた場面を選んでいく。</p> <p>(メモ、「おすすめカード」)</p>

**ポイント①**  
導入前から『かくまきの歌』を読み、推薦作品を決められるようにします。

**ポイント②**  
課題意識を持たせるために導入を工夫します。

**ポイント③**  
共通学習材で学んだことを活用し、選んだ本を読み進められるようにします。

**ポイント④**  
1単位時間を有効に使うとともに、次時において児童がスムーズに学習できるように、「おすすめカード」と同形式の学習シートにまとめます。

**ポイント⑤**  
それぞれの考えの共通点や相違点などを見付け、自分の考えをより確かなものにするために、同じ作品を選んだ児童同士のグループで交流します。

5	<p>○ 心に響いた叙述について交流し、一番心に響いた叙述を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響いた叙述を見付け、心に響く理由をメモする。</li> <li>・心に響いた叙述について、グループや全体で交流する。</li> <li>・「一番心に響いた叙述」「推薦の文章」の1, 2段落目をシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由を類型化したりキーワード化したりして板書し、いろいろな考えや感じ方があることに気付かせるとともに、一番心に響いた叙述を見付けるヒントになるようにする。</li> <li>◇ [言イ(ケ)] 比喩や反復、擬声語・擬態語、省略、倒置などの文章に表れる表現の工夫に気付き、「わらぐつの中の神様」を読んでいる。(付箋, 発表)</li> <li>◇ [読エ] 「わらぐつの中の神様」を推薦するために、人物の相互関係や心情、情景描写などの感動や安らぎを生み出す優れた叙述を見付けながら読んでいる。(付箋, 発表, 学習シート)</li> </ul>
6	<p>○ 心に響いた叙述について交流し、一番心に響いた叙述を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響いた叙述を見付け、心に響く理由をメモする。</li> <li>・心に響いた叙述について、同じ作品を選んだ児童同士で交流する。</li> <li>・「一番心に響いた叙述」「推薦の文章」の1, 2段落目を「おすすめカード」に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ作品を選んだ児童同士で交流させることで、同じ作品でもいろいろな考えや感じ方があることに気付かせ、一番心に響いた叙述を見付けることができるようにする。</li> <li>◇ [言イ(ケ)] 比喩や反復、擬声語・擬態語、省略、倒置などの文章に表れる表現の工夫に気付き、杉みき子作品を読んでいる。(付箋, 発表)</li> <li>◇ [読エ] 杉みき子作品を推薦するために、人物の相互関係や心情、情景描写などの感動や安らぎを生み出す優れた叙述を見付けながら読んでいる。(メモ, 「おすすめカード」)</li> </ul>
7	<p>○ 一番心に響いた場面や叙述を基に作品の推薦理由をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番心に響いた場面や叙述が、魅力の視点のどれにあてはまるか考える。</li> <li>・自分が考える魅力を基に、推薦理由をグループで検討する。</li> <li>・「推薦の文章」の3段落目や「魅力のポイント」をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦理由を明らかにするために、魅力の視点を再確認し、自分が選んだ一番心に響いた場面や叙述が、どの魅力に関連するのか整理できるようにする。</li> <li>・グループの交流は、それぞれが考える魅力が視点からそれていないか吟味することや、他の作品と比較しながら検討することを確認し、推薦理由をまとめる際、作品の関連性や作者らしさなどについての記述もできるようにする。</li> <li>◇ [読エ] 「わらぐつの中の神様」を推薦するために、感動や安らぎを生み出す優れた叙述に着目し、登場人物の描かれ方、構成の工夫や表現の特色などの視点から作品の魅力を捉え、他の作品との比較から捉えられるよさに触れながら推薦理由をまとめている。</li> </ul>

8 (本時)	<p><b>ポイント⑥</b> 前時までの学習を基に、選んだ作品と他の作品を比較しながら推薦理由を検討するためには、どのような交流をしたらよいか児童が判断できるようにします。</p> <p><b>ポイント⑦</b> 自分の考えや交流したことを学習シートにメモさせることで、考えの変容の足跡を残し、まとめる際、活用できるようにします。</p>	<p>○ 一番心に響いた場面や叙述を基に作品の推薦理由をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番心に響いた場面や叙述が、魅力の視点のどれにあてはまるか考える。</li> <li>・ 違う作品を選んだ児童同士で、自分の選んだ作品から捉えられた魅力を基に、推薦理由を検討する。</li> <li>・ 「推薦の文章」の3段落目や「魅力のポイント」をまとめる。</li> </ul>	<p>(学習シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの交流は、違う作品を選んだ児童同士で行わせる。それぞれが考える魅力が視点からそれていないか吟味することや、自分が選んだ作品と他の作品と比較しながら検討することを確認し、推薦理由をまとめる際、他の作品と比較したよさなどについての記述ができるようにする。</li> <li>◇ [読エ] 心に響いた杉みき子作品を推薦するために、感動や安らぎを生み出す優れた叙述に着目し、登場人物の描かれ方、構成の工夫や表現の特色などの作品の魅力を捉え、他の作品との比較から捉えられるよさに触れながら推薦理由をまとめている。</li> </ul> <p>(メモ、「おすすめカード」)</p>
三 9	<p>○ 「おすすめカード」を読み合い、感想を交流したりもう一度作品を読み返したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「おすすめカード」を読み合い、感想カードに記入したり、作品をもう一度読み返したりする。</li> <li>・ 単元の振り返りをする。</li> </ul> <p>※学校図書館や公立図書館に展示する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想カードを準備し、友達の「おすすめカード」を読んで気付いた共通点や相違点、よさなどを記入させ、自分の考えを広げることができるようにする。</li> <li>◇ [読オ] 「おすすめカード」を読み合い、考えの共通点や相違点に気づき、自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul> <p>(感想カード、振り返り)</p>

## 7 本時の指導 (本時 8 / 9)

### (1) 目標

登場人物の相互関係や心情、場面の描写について読み解いたことを基に、自分が選んだ作品の推薦理由をまとめることができる。 (読むこと エ)

### (2) 指導過程

主な学習活動	指導上の留意点(・)と評価(◇)
<p>1 本時のめあてとゴールを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>一番心に響いた場面や叙述を基に、作品の魅力を明らかにして、すいせん理由をまとめよう。</p> </div> <p>2 一番心に響いた場面や叙述が魅力の視点のどれにあてはまるか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>【魅力の視点＝推薦理由の視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の描かれ方 人物像、相互関係、心情の変化</li> <li>・ 構成の工夫 場面設定、ストーリー展開、アイテム</li> <li>・ 表現の特色 方言、色彩語、比喩、擬態語・擬声語、情景表現</li> </ul> </div>	<p>○ 前時までの学習を基に、本時のめあてとゴールに向けてどのように学習を進めるとよいか考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦理由を明らかにするために魅力の視点を再確認し、自分が選んだ一番心に響いた場面や叙述が、どの魅力に関連するのか整理できるようにする。</li> </ul>



3 違う作品を選んだ児童同士で、自分の選んだ作品から捉えられた魅力を基に、推薦理由を検討する。

(予想される児童の考え)

【かくまきの歌】

- ・町で出会ったおばあさんと  
かくまきについて話す場面  
→構成の工夫 (アイテム)

【春先のひょう】

- ・お母さんが村田さんに助けられた場面  
→登場人物の描かれ方  
(相互関係, 心情の変化)
- ・村田さんがお父さんと分かる場面  
→構成の工夫  
(ストーリー展開)

【とべ白鳥】

- ・5人で雪下ろしをする場面  
→登場人物の描かれ方  
(相互関係, 心情の変化)
- ・白鳥が飛び去っていく場面  
→構成の工夫  
(ストーリー展開, アイテム)

4 「推薦の文章」の3段落目や「魅力のポイント」をまとめる。

【「推薦の文章」に使いたい文】

- ・このように、この作品の魅力は〇〇にあります。
- ・〇〇から目が離せません。
- ・他の作品にも同じように〇〇な作品がありますが、この作品が一番です。
- ・〇〇にぴったりの作品です。 など

5 学習の振り返りをする。

- ・グループの交流は、違う作品を選んだ児童同士で行うこととし、それぞれが考える魅力が視点からそれていないか吟味することや、自分が選んだ作品と他の作品とを比較しながら検討することを確認し、推薦理由をまとめる際、他の作品と比較したよさなどについての記述ができるようにする。
- ・前時までの学習を基に、一番心に響いた場面や叙述について読み解いたことを根拠として話させ、魅力の視点だけを羅列して終わることのないようにする。
- ・それぞれが選んだ作品の魅力は、「おすすめカード」を見せたり、『かくまきの歌』を手元に置いて叙述を指し示したりしながら説明させ、友達と考えを共有できるようにする。また、検討の際には、読書記録も参考にさせ、複数の作品を比較できるようにする。
- ・交流したことを適宜メモさせ、自分の考えの変化の記録を残し、推薦理由をまとめる際、活用できるようにする。

- ・「推薦の文章」や「魅力のポイント」をまとめる際には、前時にまとめた推薦の文章を読み返させたり、グループで適宜吟味させたりし、よりよいものになるようにする。
  - ・「魅力のポイント」は、推薦文の題名のようなもので、作品の魅力を一言で表し、読み手を引き付けるようにまとめるとよいことを再確認する。
- ◇ [読エ] 心に響いた杉みき子作品を推薦するために、感動や安らぎを生み出す優れた叙述に着目し、登場人物の描かれ方、構成の工夫や表現の特色などの作品の魅力をつまみ、他の作品との比較から捉えられるよさに触れながら推薦理由をまとめている。

(メモ、「おすすめカード」)

- ・交流を通して作品の推薦理由が明らかになり、それをまとめることができたかを確認し、次時に交流する意欲につなげるようにする。

## 8 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 主体的な読みを育むための導入 (ポイント①②)

単元の導入に先立って、『かくまきの歌』にある10作品を、朝の読書や家庭で先行的に読書させた。その際、簡単な読書記録をとらせ、それを基に、導入において自分の推薦したい作品を決めることができるようにした。また、導入においては、作者や作品の紹介、読後感の交流を通して、杉みき子作品を友達や図書館に来館する人に推薦するために、作品の魅力を「おすすめカード」にまとめるという単元の課題とゴールを設定した。その中で、推薦とは自分が考える作品の魅力を相手に



### (3) 評価の実際

第8時における評価の具体例を取り上げる。ここでは、「C読むこと」の指導事項エを重点的に指導した。児童は、前時の学習で、「わらぐつの中の神様」の一番心に響いた場面や叙述を基に魅力を明らかにし、推薦理由をまとめた。その学習を生かして、自分の選んだ作品の推薦理由をまとめていった。評価規準は次の通りである。

#### [読エ]

心に響いた杉みき子作品を推薦するために、感動や安らぎを生み出す優れた叙述に着目し、登場人物の描かれ方、構成の工夫や表現の特色などの作品の魅力を捉え、他の作品との比較から捉えられるよさに触れながら推薦理由をまとめている。

この評価規準を基に、自分が選んだ作品の一番心に響いた場面と叙述を基にして読み解き、「魅力の視点、他の作品と比較したこと、お薦めの文」の記述があれば、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。さらに、「十分満足できる」状況(A)と判断できる児童の具体的な姿を示す。

(交流メモ：交流前)

(交流メモ：交流後)

The image shows two handwritten notes side-by-side, with a red arrow pointing from the left one to the right one. Both notes are on lined paper and contain text from a book review. The left note is titled '(交流メモ：交流前)' and the right one is '(交流メモ：交流後)'. Both notes have a table-like structure with columns for '魅力の視点' (Point of attraction), '登場人物' (Characters), '構成' (Structure), 'ストーリー展開' (Story development), '場面設定' (Scene setting), and '表現' (Expression). The left note has handwritten notes around it, including '2人の(環) 山崎さんとお母さん' and '仲(関)のそう(関)係'. The right note has handwritten notes including '2人の(環) 山崎さんとお母さん' and '仲(関)のそう(関)係'. A red arrow points from the left note to the right note, indicating a shift in focus from 'relationship' to 'change in mood'.

(「おすすめカード」の推薦の文章、魅力のポイント)

「目がはなせない 二人の行く末」  
 このように、この作品の魅力は、山崎さんに対するお母さんの心情の変化にあると思います。山崎さんの行動とお母さんの心情から目がはなせません。空しゅうの日の夜、お母さんを助けてくれた人物、その人物が山崎さんだと分かったしゅん間、お母さんの山崎さんに対する思いが大きく変化します。これは、杉みき子さんの書いた「わらぐつの中の神様」に出てくるおみつさんと大工さんの心情の変化ととても似ています。でも、やっぱり私は、この「春先のひょう」が好きです。読んでいて心がとても温かくなるし、心地よいからです。心を温かくしたい時にぴったりな作品です。

この児童は、交流前のメモに、魅力の視点を「相互関係」と「心情の変化」のどちらにしようか迷っていると記している。その後のメモには、視点を「心情の変化」にしたことや、一人で読み解いたことに付け加え、他の作品との比較によって見つけた共通点が記されている。そして、それらを踏まえて「推薦の文章」や「魅力のポイント」をまとめている。このように、完成した「推薦の文章」や「魅力のポイント」とともに交流メモも評価の対象とし、交流によって自分の考えが深まり、それを基にまとめられているものを「十分満足できる」状況(A)であると判断した。

### (4) 学習指導を振り返って

児童は、「前の自分より、物語の魅力を自然に見付けられるようになった」「グループの話合いをすることで、新たな魅力に気付くことができた」「杉さんの作品をもっと読みたくなった」という単元の振り返りを行っている。この学習を通して、児童は物語を読むことの楽しさを味わうとともに、読書の世界を広げることができた。今後の国語の学習はもちろんのこと、日常の読書生活がより一層豊かなものになることを願っている。

# 事例 11 第 6 学年

- 1 単元名 「持続可能な社会」の実現について調べたことや考えたことを解説しよう  
 教材名 「未来に生かす自然のエネルギー」他 エネルギー問題等について書かれた図書資料

## 2 言語活動とその特徴

本単元では、課題について情報収集し、解説文にまとめる言語活動を行う。児童は、エネルギー問題や再生可能エネルギー源の利用について書かれた文章を読んで、「持続可能な社会」の実現について調べたことや考えたことを解説文にまとめていく。児童の実態を踏まえ、エネルギー問題についての意見を中心的に述べる意見文ではなく、課題について調べたことを論理的に説明する解説文として書くことを位置付けたものである。この言語活動を通して、必要な情報を収集し、それらを関係付けることで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。したがって、単元でねらう「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」や「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」を実現するのにふさわしい言語活動である。また、情報を収集していく過程で、「C読むこと」の指導事項ウも効果的に指導できる言語活動である。

自分が主張したいことのもとになる情報  
 (例) ①現状 ②具体的な取り組み  
 ③課題 ④解決策 等  
 ※資料(図やグラフ等)を組み合わせる

日本にぴったり！  
 浮体式洋上風力発電  
 石山 裕美

資料の出典

【裏表紙】自分の感想や考え

【表紙】題名・名前

### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童は、前単元において、日本語の特色やよさについて調べたことや考えたことを報告文にまとめるという活動を行っている。これを通して、複数の本や文章を参照しながら課題についての情報を集め、自分の考えを明確にしていくことができるようになってきている。しかし、自分の考えを根拠付けたり具体的な例を示したりするために適切な情報を選び出す力や、複数の資料から分かることを関係付けながら自分の考えを深めていく力は十分に身に付いているとは言えない。また、「書くこと」においては、これまでに意見文や調査報告文を書いた経験がある。

#### (2) 教材について

共通学習材「未来に生かす自然のエネルギー」は、エネルギー問題を取り上げ、「持続可能な社会」を築く必要性を述べている論説文である。文章構成が明確で、意見と事実との関係を捉えさせやすい。また、文章に図やグラフ等の資料が組み合わさっており、その効果について考えさせるのにも適している。この他に児童が選んで読むことができるよう、エネルギー問題や再生可能エネルギーについて書かれた図書を数多く準備する。科学読み物の他、年鑑や統計資料等にも触れさせたい。

- ・『見学！自然エネルギー大図鑑 1～3』（偕成社）
- ・『今こそ考えよう！エネルギーの危機 1～5』（文溪堂）
- ・『エネルギー あなたはどれを選ぶ？ 1～3』（さ・え・ら書房）
- ・『よくわかる再生可能エネルギー』（学研教育出版）
- ・『地図で読む 日本の再生可能エネルギー』（旬報社）
- ・『京都議定書がわかる絵事典』（PHP研究所）

ここに載せたものは一部であるが、これらはエネルギー問題の現状や再生可能エネルギーの特徴について考えることのできる図書である。

#### (3) 指導について

第二次の7～9時において、児童は解説文で主張したいことのもとになる情報を集めていく。ここで、1単位時間内に、自分たちの解説文に生かせそうな「活用のポイント」を共有する時間と、「活用のポイント」を生かして解説文を書くための情報を収集する時間を設定する。まず、説得力を高めるための論の進め方の工夫について共通学習材を参考にしながら考えられるようにする。次に、そこで学んだことを「活用のポイント」として提示する。その後、その「活用のポイント」を生かしながら、自分に必要な情報を集められるようにする。

解説文の準備シートには、「一番主張したいこと」を記入する欄を設ける。このことで、説得力を高めるためには、「一番主張したいこと」を根拠付ける材料やより詳しく説明する材料を集めることが大切であると改めて意識することができる。また、解説文作成の目的を見失うことなく学習を進め、伝えたいという思いを持続していくであろう。

第二次においては、児童が互いに相談したり助言したりできるように、目的を明確にしたペア・グループ学習を設定する。児童は悩みや迷いを共有し、「活用のポイント」と照らし合わせたり、「一番主張したいこと」を再確認したりしながら助言し合うことで、自分一人では気付かないような新しい視点で学習を深めたり振り返ったりすることができる。と考える。

#### 4 単元の指導目標

- 自分の思いを伝えたいという願いを持ち、「持続可能な社会」の実現について調べたことや考えたことを解説するために、複数の資料を比べたり関係付けたりしながら情報を多面的に収集しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 自分の主張を展開する上で必要な情報を選ぶために、効果的な読み方を選択して複数の本や文章などを比べて読んだり、文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。(読むことイ, ウ, カ)
- 文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ))

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を解決したいという願いを持ち、その課題解決のために、複数の本や文章を比べて読み、情報を多面的に収集しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を解決するために、比べ読み、速読、摘読、多読などの多様な読み方の中から効果的な読み方を選択して読んでいる。(イ)</li> <li>・意見を述べた文章や解説の文章などに対する自分の考えを持つために、必要な内容を押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりして読んでいる。(ウ)</li> <li>・自分の課題を解決するために、複数の本や文章などを比べて読み、必要な情報を選んでいる。(カ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。(イ(キ))</li> </ul>

#### 6 単元の指導計画 (全 12 時間扱い)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
一	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞記事の紹介やブックトークを聞いたり、共通学習材を読んだりして、エネルギー問題や再生可能エネルギーについて関心を持つ。</li> <li>○ 解説文の文例を読み、学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の学習に入る前に、関連する図書の読書を勧める。</li> <li>・エネルギー問題に関連する新聞記事を紹介し、課題意識を高められるようにする。</li> <li>・学校司書によるブックトークを行い、関連する図書を読むことへの興味・関心を高められるようにする。</li> <li>・「知りたい」「調べたい」「伝えたい」といった学習意欲を引き出せるように、エネルギー問題について感じたことや考えたこと、もっと知りたいことや調べたいこと等を振り返りシートに記入するよう指示する。</li> <li>・目的を明確にするために、調べたことや考えたことを、誰に、どのような形で伝えるのが最適か話し合う時間を設ける。</li> <li>・言語活動の見通しを立てられるように、解説文の文例を提示する。</li> <li>・既習事項や学習のゴールを意識しながら、調べたことや考えたことを解説するための学習計画を立てられるようにする。</li> </ul> <p>◇ [関] エネルギー問題に関心を持ち、「持続可能な社会」の実現について調べたことや考えたことを解説してみたいという思いを持とうとしている。(振り返りシート)</p>

**ポイント①**  
**児童の学習意欲を引き出すために、導入を工夫します。**

<p>二 4 ・ 5 ・ 6</p>	<p>○ エネルギー問題について自分なりの考えを持ったり、解説文で「一番主張したいこと」を考えたりして、今後の情報収集の見通しを立てる。</p> <p><b>ポイント②</b> 明確な目的を持って学習を進めることができるように、ワークシートを工夫します。</p> <p>○ 自分の解説文に取り入れてみたい述べ方の工夫を見付けるために、共通学習材を参考にしながら読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連図書や共通学習材の内容をもとに、エネルギー問題について自分なりの考えを持てるようにする。</li> <li>・再生可能エネルギー源の利用（風力発電・太陽光発電・地熱発電等）の中でも特に何を中心に情報を集めていくかについて決められるようにする。</li> <li>・明確な目的を持って学習を進めていくために、解説文で「一番主張したいこと」について考えられるようにする。</li> <li>・自分の解説文に取り入れてみたい述べ方の工夫を付箋に記入し、文章全体を拡大した掲示物に貼ることで共有化を図る。</li> <li>・述べ方の工夫は自分の考えを論証したり読み手を説得したりするためのものであることに気付けるように、付箋には「○○するために○○している。」「○○している。（○○のため）」のような形で記入するよう指示する。</li> <li>・述べ方の工夫として、特に「主張のもとになる事実を挙げている」「図やグラフ等の資料を効果的に使っている」「課題を示し、その解決策を述べている」ことについて確認しておく。</li> </ul> <p>◇ [関] 前時までの学習や関連図書を読むことを通じて感じたことや考えたことを踏まえて、自分が何について調べたいのか明らかにしようとしている。（ノート、振り返りシート）</p> <p>◇ [読イ] エネルギー問題について自分の課題を見いだしたり、自分の解説文に取り入れてみたい述べ方の工夫を見付けたりするために、比べ読み、速読、摘読、多読などの多様な読み方の中から効果的な読み方を選択して読んでいる。（ノート、振り返りシート）</p> <p>◇ [言イ(キ)] 文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。（付箋）</p>
<p>7 ・ 8 ・ 9 本時</p>	<p>○ 説得力を高めるための論の進め方の工夫について、共通学習材を参考にしながら考え、「活用のポイント」として共有する。</p> <p>○ 「活用のポイント」を生かして、複数の資料を参照しながら、自分の解説文に必要な情報を選んでいく。</p> <p><b>ポイント③</b> 共通学習材で学んできたことから必要なものを選び、自分の情報収集に生かすことができるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間の始めの15分程度は、自分たちの解説文に生かせそうな「活用のポイント」を全員で共有し、残りの時間は、「活用のポイント」を生かして自分の解説文に必要な情報を収集・整理する時間とする。</li> <li>・第6時に挙げていた「自分の解説文に取り入れてみたい述べ方の工夫」について、共通学習材を参考にしながらより深く考えていけるようにする。</li> <li>・筆者が主張の根拠としてどのような事実を挙げているかについて考えて読めるようにする。（第7時前段）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;活用のポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の主張のもとになる事実を複数示すことで、説得力を高めることができる。</li> <li>・読み手を納得させるような事実を選ぶことが必要。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が資料を示して事実を述べることで、読み手をより納得させようとしていることに気付くことができるようにする。（第8時前段）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;活用のポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を示して事実を述べることで、より説得力を高めることができる。</li> </ul> </div>

		<p>・自分の主張のもとになるものや読み手を納得させるものを選ぶことが必要。</p> <p>・筆者が風力発電の課題を示し、その解決策を述べていることを取り上げ、その意図について考えて読めるようにする。(第9時前段)</p> <p>&lt;活用のポイント&gt;</p> <p>・自分が選んだ再生可能エネルギーの課題を示し、その解決策を述べることで、さらに説得力を高めることができる。</p> <p>・情報を偏りなく示すことで、信頼度が高まる。</p> <p>・解説文の構成を考えるために、必要な情報と出典を記入できる付箋とそれらを貼って整理できる準備シートを用意する。</p> <p>・児童一人一人の実態を把握し、資料の選び方や情報検索の方法等について適宜助言していく。</p> <p>・情報の収集・整理、解説文の構成・記述においては、順番にクリアしていなくてもよいこと、並行して行ったり立ち返ったり試行錯誤をしながら進めてよいことを伝える。</p> <p>・自らの活動の現段階での成果と課題を明確にしたり、互いに質問や助言をしたりできるように、ペア・グループ学習の時間を設ける。</p> <p>◇ [関] 「持続可能な社会」の実現について調べたことや考えたことを解説するために、複数の資料を比べたり関係付けたりしながら情報を多面的に収集しようとしている。(準備シート、振り返りシート)</p> <p>◇ [読カ] 自分の主張に必要な情報を集めるために、複数の本や文章などを比べて読んでいる。(準備シート、振り返りシート)</p> <p>◇ [読ウ] 自分の主張をより明確にするために、必要な内容を押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりして読んでいる。(準備シート)</p> <p>◇ [読イ] 自分の主張に必要な情報を集めるために、比べ読み、速読、摘読、多読などの多様な読み方の中から効果的な読み方を選択して読んでいる。(準備シート、振り返りシート)</p> <p>◇ [言イ(キ)] 文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。(準備シート)</p>	
	<p><b>ポイント④</b> 前時までの学習状況等をもとに児童の課題意識を把握し、一人一人に合ったアドバイスができるようになります。</p> <p><b>ポイント⑤</b> 解説文をよりよくするための相談や助言ができるように、同じ課題の児童同士によるペア・グループ学習の時間を設けます。</p>		
10・11	○ 「活用のポイント」を生かしながら、解説文を仕上げる。	<p>・「活用のポイント」を生かしながら、解説文の記述・推敲を進めていけるようにする。必要があれば、共通学習材や解説文の文例を参考にするように助言する。</p> <p>◇ [読カ] 説得力のある解説文を書くために、「活用のポイント」を生かして、情報を取捨選択したり、必要があればもう一度情報収集をしたりしながら、これまでに集めた情報を整理している。(準備シート、解説文)</p>	
三	12	<p>○ 解説文を読み合い、成果を交流する。</p> <p>○ この単元での学習を振り返る。</p>	<p>・この学習を通して、考えがどのように広がったり深まったりしたかについて感想を交流することができるようにする。</p> <p>◇ [関] 感想を発表し合い、エネルギー問題に対する考えを広げたり深めたりしようとしている。(発表、準備シート、振り返りシート)</p>



7 本時の指導（本時9/12）

(1) 目標

複数の本や文章から必要な情報が載っているものを選び、効果的な読み方を生かして、説得力を高める情報を収集することができる。 (読むことイ、カ)

(2) 指導過程

時間	主な学習活動	主な発問 (○) と指示 (△)	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
2	1 本時のめあてをつかむ。	△今日も引き続き解説文の説得力を高めるための効果的な工夫について考えていきましょう。後半は、学んだことを生かしながら自分に必要な情報を集めていきます。	
説得力を高めるための効果的な工夫について考え、それを生かして自分に必要な情報を集めよう。			
10	2 説得力を高めるための論の進め方の工夫について共通学習材を参考に考え、「活用のポイント」として共有する。	<p>○Aさんが挙げていた「筆者は本論2で風力発電の課題とその解決策を述べている」という点についてみんなで考えてみましょう。筆者は何のためにこのような述べ方をしているのだと思いますか。</p> <p>△説得力を高めるための論の進め方の工夫を「活用のポイント」としてまとめます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;活用のポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ再生可能エネルギーの課題を示し、その解決策を述べることで、さらに説得力を高めることができる。</li> <li>・情報を偏りなく示すことで、信頼度が高まる。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6時に児童が挙げていた「取り入れたい筆者の述べ方の工夫」を取り上げる。</li> <li>・筆者の主張（立場）や文章の構成、論の展開等を踏まえて考えるよう助言する。</li> <li>・学んだことを「活用のポイント」としてまとめ、後段の情報収集に生かせるようにする。</li> </ul>
30	3 「活用のポイント」を生かして、複数の資料を参考にしながら、自分の解説文に必要な情報を選ぶ。	<p>△これまでの「活用のポイント」を生かしながら、自分に必要な情報を選んだり整理したりしていきましょう。</p> <p>△困ったことや確認したいことが出てきたら友達に相談しましょう。お互いにアドバイスし合って、解説文の説得力を高められるといいですね。</p> <p>◆本や文章を選べない児童への声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次や索引を使ってみたら？</li> <li>・調べる言葉を換えて（広げて）みたら？</li> </ul> <p>◆必要な情報を選べない児童への声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目次や索引、見出しを見てみたら？</li> <li>・調べる言葉を換えて（広げて）みたら？</li> <li>・あなたが一番主張したいことは何だった？ そのもとになる情報を選ぶといいよ。</li> <li>・読む人がより納得するのはどの情報だと思う？</li> <li>・複数の本から自分に必要だと思う情報をいくつか集めて、そこからよりよいものを選ぶといいね。</li> <li>・他の本も読んで比べてみたら？この本にはない情報が載っているかもしれないね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一番主張したいこと」のもとになる情報を集めることは変わらないが、さらに広い視点で読んでいくように助言する。</li> <li>・ペア・グループ学習は適宜行ってよいことを伝える。</li> <li>・本や情報を選ばずにいる児童には必要に応じて声を掛ける。</li> </ul> <p>◇ [読カ] 自分の主張に必要な情報を集めるために、複数の本や文章などを比べて読んでいる。（準備シート、振り返りシート）</p> <p>◇ [読イ] 自分の主張に必要な情報を集めるために、比べ読み、速</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の本に書かれているということは、信頼できる情報だということだね。</li> <li>・より新しい情報を探すといいね。</li> </ul> <p>△ペア・グループ学習を行いましょう。困っていることが解決したり、解説文の説得力が高まったりするようアドバイスができるといいですね。</p>	<p>読、摘読、多読などの多様な読み方の中から効果的な読み方を選択して読んでいる。 (準備シート、振り返りシート)</p>
3	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。	<p>△今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>△次の時間は、これまで学んできたことを生かして解説文の下書きをしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの視点を与えておく。</li> </ul>

## 8 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 学習意欲を引き出す導入 (ポイント①)

第一次において、新聞記事の紹介やブックトークを通して地球環境の現状を知らせることで、児童の課題意識を高められるようにした。また、毎時間振り返りシートに自分の思いを書かせるようにした。そこに書かれた「知りたい」「考えたい」「表現したい」「伝えたい」「広めたい」等の児童の学習意欲を出発点として、『『持続可能な社会』の実現のために、エネルギー問題や再生可能エネルギーについて調べたことや考えたことを解説する』という課題につなげていった。させられているのではなく、自分たちの思いで学習を進めていくという意識を高められるようにした。

#### ② 明確な目的を持って学習を進めるための準備シート (ポイント②)

自分に必要な情報を集める際に使用する解説文の準備シートには、「一番主張したいこと」を記入する欄を設け、それを常に意識しながら学習を進めていくことができるようにした。「一番主張したいこと」の根拠となる情報を複数集めることで説得力を高めることができるということについて重点的に指導することで、目的を見失うことなく活動を進めることができる考える。

#### ③ 主体的な課題解決を促す学習過程 (ポイント③)

本単元において、第7～9時は、1単位時間の前段に、説得力を高めるための論の進め方について共通学習材を参考に考え、それを「活用のポイント」として共有する時間を設けた。その後、後段で、それを生かして複数の資料を参照しながら自分の解説文に必要な情報を選んでいくようにした。ここでの「活用のポイント」とは、児童が共通学習材から見付けた論の進め方の工夫点である。児童が第6時で挙げていた「自分の解説文に取り入れてみたい述べ方の工夫」について全体でより深く考えたことを、その後の情報収集に生かせるようにまとめたものである。

#### ④ 一人一人の課題意識に合ったアドバイス (ポイント④)

授業中の活動、準備シートや振り返りシート等で、児童一人一人の課題や進み具合、困っていること等を把握し、それをもとに、児童に応じた適切なアドバイスができるようにした。また、学習の中で児童が気付いた効果的な本の読み方や情報の選び方等を「情報収集のこつ」としてまとめ、掲示することで、自力解決の助けとなるようにした。

#### ⑤ 目的を明確にしたペア・グループ学習 (ポイント⑤)

自分に必要な情報を集めていく段階で、ペア・グループ学習を取り入れた。相談や助言がしやすいように、同じ課題の児童同士でペアやグループをつくるようにした。さらに、「困っていることを解決するため」「友達の役に立ちそうなことを教えるため」等、いつ、誰と、どんな目的で行うと効果的かということについて事前に確認しておくことで、児童が明確な目的を持って交流し、その必要性を実感できるようにした。

### (2) 児童の姿から

児童は、「現在の地球環境の危機的状況を解決する方法の一つは、再生可能エネルギーの普及であ

る。それを一人でも多くの人に伝えて、『持続可能な社会』の実現を目指す。」という目的を常に意識して学習を進めていた。その中で、自分の主張に必要な情報は何か、読み手に納得してもらうにはどの情報をどう組み合わせると効果的なのかということについて試行錯誤していた。さらに、ペア・グループ学習の目的も明確化され、困っていることを解決しようと知恵を出し合ったり、説得力を高めるための有効な情報を紹介し合ったりしていた。学びのゴールが明確になっていたからこそ意欲は高まり、それに伴って主体的な学びが生まれていた。

### (3) 評価の実際

本時を含む第7～9時間目は、「C読むこと」の指導事項イ、ウ及びカを重点的に指導した。ここでは、指導事項イについての評価を取り上げて解説する。本時の評価のうち、イに対応するものは次の通りである。

[読イ] 自分の主張に必要な情報を集めるために、比べ読み、速読、摘読、多読などの多様な読み方の中から効果的な読み方を選択して読んでいる。

ここでは、「自分の主張のもとになる事実を集める」「課題と解決策についての情報を探す」等、目的に応じた情報を検索するために、効果的な読み方を工夫することができていれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。さらに、教師の支援や児童相互の交流を通してこのような状況が見られるようになった場合も「おおむね満足できる」状況（B）と判断するようにした。

さらに、「十分に満足できる」状況（A）と判断できる児童の具体的な姿として、以下のようなものが見られた。

（振り返りシートの記述）

本を選んだら、目次とさく引をざっと見て、自分が知りたい内容やワードがあったら、そのページを開く。それをくり返しました。

（準備シートの記述）

<課題>風車に鳥がぶつかるバードストライクという問題や、騒音や景観の問題がある。

<解決策>

バードストライク

→野鳥保護団体と協力して渡りの時期には風車を停止する共同作業も必要。

景観

→昔から日本には自然の中に人工物をそえて景観を形成する独自の考え方がある。この発想にならって、景観が引き立つように調査・設計を行っていくべき。

<解決策>

景観

→なぜ風車が白っぽいかというと、空の色にとけこむようにしているから。カラフルだと景観がそこなわれると考える人もいるので、なるべく目立たないようにしている。

これらの記述から、この児童は、風力発電の課題と、それに対する解決策について効果的な読み方を複数選択して情報を集めようとしていたことが分かった。さらに、目次や索引、見出しを活用して本や文章を選んで読むことを繰り返しながら、自分の力で安定的に必要な情報を集めることができていた。こうした効果的な情報の集め方については、振り返りシートの記述にも裏付けられている。このようなことから、「十分に満足できる」状況（A）と判断した。

### (4) 学習指導を振り返って

児童の興味・関心を高め、学習意欲を引き出しておくことは、単元全体の学習に非常によい影響を与えると感じた。児童は、第一次の活動を通して、「未来は自分たちの手にかかっている」「環境破壊を止めるために自分も貢献したい」というような学習意欲を抱いていた。そして、その思いを実現させるために、どのような学習をしていきたいかということ自体についても自分たちで計画していくことで、表現したい、伝えたいという思いがどんどん膨らんでいった。思いがあるからこそ学びが充実するというところを、目の前の児童が教えてくれたように思う。

## 事例12 第6学年

- 1 単元名 つなげて重ねて読み解く，立松和平の表現する命  
 ～読書座談会で，作者の考えを捉え，命に対する自分の疑問を解き明かそう～  
 教材名 「海の命」他 立松和平作品


### 2 言語活動とその特徴

本単元では，読書座談会でテーマについての考えを深める言語活動を行う。本単元における読書座談会は，4～5人のグループで，「立松和平の考える命」「自分たちの考える命」という二つのテーマを中心に，グループで設定した課題を解決することに向けて，司会を立てずに自由に話し合うという形式をとる。読書座談会の目的は，友達と考えを交流し深めること，課題に対する自分なりの答えを持つこととする。課題は最初に設定するが，話し合いの中で課題となりそうな疑問が出てきた場合には，その場で話し合ってもよいこととする。物語の読みを通して強く心に響いたことを自分の言葉で相手に伝えたり，相手の読みを受け止めて考えを述べ合ったりすることを目指す。

読書座談会の目的自体が，意見を交流し考えを深めることにあるので，その目的を達成させるような読書座談会を成立させていくための力を付けていくことは，「C読むこと」の指導事項オの力を付けることに直結する。また，叙述に対する疑問を課題として話し合うことは，その叙述が物語の中でどのような意味を持っているか，叙述を通して登場人物の深い心情や作者のメッセージをどう捉えるかなど，優れた叙述についての考えを持つことにもつながる。したがって，この読書座談会で「C読むこと」の指導事項エの力も付けることができると考える。

この単元でいう「課題」とは…

作品	課題として取り上げられそうな叙述の例		
『海のいのち』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千びきに一びき。</li> <li>・村一番の漁師。</li> <li>・瀬の主を殺さないですんだ。</li> <li>・生涯だれにも話さなかった。 など</li> </ul>	課題	<p>①この叙述については，自分なりの考えを持っているので話し合いたい。</p> <p>②この叙述の意味が分からないから，みんなに聞いてみたい。</p> <p>③この物語の中で，〇〇な謎があるから，話し合いたい。</p>
『山のいのち』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きているものは悲しい。</li> <li>・自分の声をひさしぶりにきいた。</li> <li>・ぜんぶがぐるぐるまわっている。 など</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">この単元でいう「解釈」とは…</div> <p>話し合う価値のある叙述（多様な意味を持つ叙述であり，優れた叙述であると考えられるもの）に対して根拠を明確にし，自分の考えを持っていること。</p>



### 3 単元について

#### (1) 児童について

「C読むこと」の指導事項エの力を付けることをねらった単元としては，重松清の作品や宮沢賢治の童話を推薦する学習を行ってきた。この学習の中で作品を推薦する際に，作品を象徴するような言葉を考えたり，登場人物の心情を捉えたりすることを学習している。また，「C読むこと」の指導事項オの力を付けることをねらった単元として，作中の叙述や自分が選んで読んでいる作品の中の言葉と自分の考えを関連付ける学習を，星野道夫の作品を読む学習の中で経験している。本単元は，それらの二つを踏まえて発展させた単元として位置付けるものである。

## (2) 教材について

本単元の読書座談会で中心として取り上げるのは、立松和平作の『山のいのち』と『海のいのち』である。これに加えて、同じ立松和平の命シリーズの作品及び、他の書き手による命をテーマに取り上げた作品も選んで読めるようにした。

命シリーズの作品には、象徴的に用いられている叙述が多くあり、作者の考えを主体的かつ多面的に捉えることができる。本文はさほど長いわけではなく、実際の本は絵本に近い。心情描写より、情景描写が多い。全体を通して、抽象度の高い表現の作品群であると言える。

内容面としては、主人公の成長を軸とした物語が多い。主人公もストーリーも様々だが、共通しているのは「命」について扱っている点である。また、自然との関わりが多く取り上げられており、生を扱うと同時に死が描かれていることも多く、本単元の読書座談会のテーマに直結する。

## (3) 指導について

読書座談会という言語活動を行うためには、読む能力以外にも、これまで身に付けてきた多様な言語の能力を駆使できるようにする必要がある。例えば、常に目的を意識しながら話し合えるようにしたり、交流を活発に、効率的に行うために必要な言葉を意識して使えるようにしたりする指導が必要となる。

## 4 単元の指導目標

- 命シリーズを読んで、立松和平の作品や表現に対する自分の解釈を持ち、それを意欲的に読書座談会で交流しようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 物語における象徴的な言葉や登場人物の心情を描く描写など、優れた叙述に着目して読むとともに、シリーズ作品などと重ねたり互いの感じたことや考えたことがどのように共通、あるいは相違しているのかを明らかにしたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
(読むことエ、オ)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・学習計画を立てる話合いや読書座談会での話合いに、意欲的に参加しようとしている。	・物語の象徴的な言葉や他の作品とつながりのある言葉を捉えている。(エ) ・登場人物の葛藤や心理的な成長を描いた描写、物語を象徴する言葉などに着目しながら読んでいる。(エ) ・シリーズ作品などと重ねたり、友達の意見との共通点や相違点を見付けたりしながら考えをまとめている。(オ)	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、物語を象徴するような一文や言葉を書き抜いている。(イ(カ))

## 6 単元の指導計画 (全9時間扱い)

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準(評価方法)
一	1	○「立松和平の作品を中心に『命』について読書座談会を行い、考えを深める」という学習全体を見通し、立松和平作品を中心にしたブックトークを聞く。	◇ [関] 読書座談会に興味を持ち、ブックトークを聞いて疑問に感じたことなどを、意欲的に振り返りに書こうとしている。 <b>指導のポイント①</b> <b>作品は、共通学習材と関連したものを、吟味して提示します。</b> (振り返りの記述)

2	<p>○学習計画を立てる。</p> <p><b>指導のポイント②</b> 単元の出口のイメージが明確になるように、学習計画は児童の力で立てます。</p>	<p>◇ [関] 作者のメッセージを捉え、「命」についての考えを深めることに向けて学習計画を立てようとしている。(話し合いの様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書座談会にふさわしい課題を考えられるように、課題の例を提示する。</li> </ul>
二 3 4	<p>○1回目の読書座談会『山のいのち』編の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述や作品相互の関連性についての気付き、話し合いたい疑問など、読書座談会で課題にしたいことを付箋に書く。</li> <li>・読書座談会で話し合う内容を決める。</li> <li>・解釈や自分の考えを書き込む。</li> </ul>	<p>◇ [言] 『山のいのち』の作品における象徴的な言葉や場面、また、シリーズ作品や既習の学習とつながりのある言葉を書き抜き、読書座談会の課題を考えている。</p> <p>(話し合いの様子、学習シートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を選べない児童には、率直な疑問をそのまま課題にするよう助言する。</li> <li>・学習シート、付箋の使い方について、具体的に指導する。</li> </ul>
5	<p>○1回目の読書座談会『山のいのち』編を行う。</p> <p><b>指導のポイント③</b> 文章全体を1枚にまとめたシート(以下、学習シート)を活用し、叙述相互の関連を見通しやすくします。</p>	<p>◇ [読オ] 読書座談会の中で、シリーズ作品や既習の作品と重ね、自分の考えをまとめている。</p> <p>(読書座談会の様子、振り返りの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身も随時一参加者として話し合いに加わり、グループの考えを深める。</li> </ul>
6 7 本時 ①	<p>○2回目の読書座談会『海のいのち』編の準備を行う。</p> <p>[一人読み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『海のいのち』を読み、課題を考える。</li> </ul> <p>[全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全グループ共通で話し合いたいことを決める。</li> </ul> <p>[グループ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに課題を決め、グループの話題シートに書き込む。</li> </ul> <p>[一人読み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題についての自分の解釈を作品の叙述や他作品とつなげながら考え、学習シートに記入する。</li> </ul>	<p>◇ [読エ] 「千びきに一びき」などの言葉や、太一がクエにもりを打たない場面などの『海のいのち』の象徴的な場面及び、シリーズ作品や既習の作品とのつながりのある言葉を捉えて読んだり、読書座談会の課題として取り上げたりしている。</p> <p>(話し合いの様子、学習シートの記述)</p>
8 本時 ②	<p>○2回目の読書座談会『海のいのち』編を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想交流から始める。</li> <li>・考えたい課題について話す。</li> <li>・共通の課題について話す。</li> <li>・各自で振り返りを行う。</li> </ul> <p><b>指導のポイント④</b> 交流を深めていくときに必要となる言葉や話し合いの進め方を児童に提示します。</p>	<p><b>指導のポイント⑤</b> グループで1枚のワークシート(以下、話題シート)を利用し、課題を共有し、整理します。</p> <p>◇ [読オ] 読書座談会の中で、『海のいのち』の「千びきに一びき」「海に帰った」などの叙述を他作品の叙述とつなげながら考え、課題についての自分の考えを持っている。(読書座談会の様子、振り返りの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書座談会で使うとよい話型を掲示する。</li> <li>・考えがはっきりせず、話題シートの保留ゾーンに移動された付箋についても、最後にもう一度見直すよう助言する。</li> <li>・どうしてもつなげる根拠がない児童は、例外として、自分の体験と結び付けて話してもよいこととする。</li> <li>・どの本の叙述よりも自分の体験が、課題の解釈にぴったりであると考えられる児童は、自分の体験を語ってもよいこととする。</li> <li>・事前にグループを回る計画を立て、話し合い</li> </ul>
	<p><b>指導のポイント⑥</b> どのようにしてその考えに至ったのか、話し合いの過程を具体的に書くように指導します。</p>	

			に参加して、グループの考えを深める。
三	9	○単元全体の振り返りを行う。 ・立松和平が伝えたかったことについて、自分たちはどう思うのかを考える。	◇ [読オ] 交流で友達と考えを述べ合ったことを振り返り、立松和平がシリーズを通して伝えたかったことと「命」に対する自分の考えをまとめている。(発言の内容、振り返りの記述)

## 7 本時①の指導 (7/9)

### (1) 本時①の目標

『海のいのち』の叙述から、作品を象徴する言葉や「命」というテーマとつながっている言葉を捉え、読書座談会で解決したい課題として取り上げることができる。(読むことエ)

### (2) 本時①の展開

学習活動		・指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
1	本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">第2回読書座談会で解決したい課題を出し合い、整理しよう。</div>	
2	グループごとに課題を決める。 ・一人一人の疑問や課題としたいことを出し合い、整理する。 ・他のグループで出ている課題を見合い、自分たちの読書座談会で取り上げたいもの考える。 ・読書座談会で話し合いたい課題や話し合うべき課題を整理する。 ＜課題の整理の仕方＞ ・読み誤りについてはその場で指摘する。 ・少し話し合えば分かるような課題は、その場で解決する。 ・少し話し合っても答えの出ない課題は、読書座談会の課題とする。 ・話し合う価値が見いだしにくいと判断したら課題として採用しない。 ・比較的取り組みやすいと思われるものから、話し合う順番に課題を並べていく。	◇ [読エ] 「千びきに一びき」などの言葉や太一がクエにもりを打たない場面などの『海のいのち』の象徴的な場面及び、シリーズ作品や既習の作品とのつながりのある「命」を表現している言葉を捉えて読んだり、その言葉を読書座談会の課題として取り上げたりしている。 (話し合いの様子、学習シートの記述)  ・課題の整理については具体的に例示し、指導する。 ・話し合いたい順番は、基本的に自由とするが、テーマや題名については後半に話し合うように助言する。
3	課題についての自分の解釈を作品の叙述や他の作品とつなげながら考え、学習シートに記入する。 ＜学習シートに書き込むつながり＞ ・違う言葉だけれど、同じ意味。 ・課題の答えの根拠となる部分。 ・題名とつながる。	・学習シートについては、基本的に各自が自由に使えるようにする。叙述についての課題は、赤の四角で囲むようにする。また、テーマに直結するようなものについては付箋に書いて欄外に貼り、課題として設定する。 ・自分の考えを読書座談会で明確に話せるように準備する。
4	本時の振り返りを行う。	・振り返りの視点を具体的に提示する。

- ・特にどの課題について解決したいか。また、その理由をどう考えているか。

## 8 本時②の指導（8／9）

### （1）本時②の目標

読書座談会を通して、シリーズ作品などと重ねたり互いの感じたことや考えたことがどのように共通、あるいは相違しているのかを明らかにしたりすることで、自分の考えをまとめたり新たな意味を見いだしたりすることができる。（読むことオ）

### （2）本時②の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>第2回読書座談会『海のいのち』編で課題について話し合い、叙述についての考えを深めたり、立松和平のメッセージを考えたりしよう。</p> </div> <p>2 グループごとに読書座談会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・序盤にグループのみんなが重要だと考えている叙述に対する疑問を話し合う。</li> <li>・中盤はテーマと直接つながらないかもしれない課題についても、時間があれば話す。</li> <li>・終盤は、全グループ共通のテーマや題名の意味などについて話し合う。</li> <li>・解決しなければいけないと考えられる課題のうち、グループの読書座談会で解決しなかったことがあれば、振り返り（学習活動3）の前に時間を設定し、全体で検討する。</li> <li>・今日分かったことや考えが深まったこと、疑問がより深まったことについて、振り返りをする。</li> </ul> <p>〔読書座談会に対して共通に理解すること〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の切り口を自分たちで決められる。</li> <li>・大きなテーマがあってよい。</li> <li>・中心となる本、作家などがある。</li> </ul> <p>＜課題とすることの内容例＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①考えを持ってはいるが、それについてみんなはどう考えるか、聞いてみたいこと。</li> <li>②叙述の意味がはっきりとせず、まだ疑問として残っている部分で、みんなに聞いてみたいこと。</li> <li>③叙述の意味というより、ストーリー展開の中で、なぜそうなっているのか分からないような疑問。</li> </ol> <p>＜つなげる視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命シリーズの他作品</li> <li>・立松和平の他作品『森に生きる』など</li> <li>・他作者の作品で、「命」をテーマにしたもの</li> </ul>	<p>◇ [読オ] 読書座談会の中で、『海のいのち』の「千びきに一びき」「海に帰った」などの叙述を他作品の叙述（『木のいのち』の「変わりありません」、『田んぼのいのち』の「米そのものが命」、『街のいのち』の「おかあさんありがとう」など）とつなげながら考え、課題についての自分の考えを持っている。（読書座談会の様子、振り返りの記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する考えがはっきりしていない児童には、個別に話を聞いて自分なりの考えをもてるように指導する。</li> <li>・それぞれの学習シートを事前に読み、話し合いに深まりが出ないかもしれないグループに、読書座談会のメンバーの一員として参加する。</li> <li>・話す児童は考えの根拠となる叙述を提示するよう指導する。また聞いている児童もその叙述の場所を毎回確かめることを指導する。</li> <li>・読書座談会で使うとよい話型を掲示する。</li> <li>・考えがはっきりせず、話題シートの保留ゾーンに移動された付箋についても、最後にもう一度見直すように助言する。</li> <li>・どうしてもつなげる根拠がない児童は例外として、自分の経験と結び付けて話してよいこととする。</li> <li>・自分の経験が、どの本の叙述よりも課題の解釈にふさわしいと考えられる児童は、自分の経験を語ってもよいこととする。</li> </ul>



- |  |  |
|--|--|
| 3 振り返りを行う。<br>・誰の、どのような読みによって自分の考えが広がったり深まったりしたのか。 |  |
|--|--|

## 9 指導の実際

### (1) 指導の工夫点

#### ① 作品相互の関連を意識させる手立て (ポイント①③)

本単元の読書座談会の目的は、「命」について自分の考えを持つことである。「命」をテーマに書かれた作品群を児童に提示することで、読書座談会で関連付けて読むことのできる作品が増える。本単元では学校司書と連携し、指導のねらいに適していると考えた作品を「立松和平と読みたい10の作品」として選定して教室に置いた。その作品と命シリーズとの共通点を見いだしたり、考えの根拠としたりしながら読書座談会で自分の解釈を述べる児童の姿があった。

また、本単元では「考えを深める」ことを「根拠となる様々な叙述と関連付けながら考える」とと捉えている。したがって、取り上げる作品も叙述を相互に関連付けやすいようなものにした。

さらに、作品の文章全体を1枚にまとめた学習シートを活用した。命シリーズについては全ての作品を学習シートにして、読書座談会で中心として扱った『海のいのち』『山のいのち』と関連付けられるようにした。

#### ② 学習の見通しを持たせる手立て (ポイント②)

学習計画は、児童と共に立てる。ゴールやそこに至る過程を具体的に考えることで、単元全体のイメージを明確に持つことができ、各単位時間のめあてや活動内容も明確に捉えられる。本単元では、単元の目的を共有するところから始めた。本単元は年間指導計画の中で「命三部作」の第三部と位置付けている。「命三部作」とは「大切なことは分かっているけれど、一体どんなものか、なぜ大切なのか、分かるようで分からない『命』について自分なりの考えを持つ」ことを目的とした三つの単元の総称である。科学者・中村桂子、写真家・星野道夫、作家・立松和平、三者の命についての考え方を捉え、それについての自分の考えを持つことを軸として学習を展開した。本単元においても「命について自分の考えを持つ」ことを児童の読書座談会の目的として共通理解を図った。

#### ③ 読書座談会に向けた、自分の考えのメモの工夫 (ポイント③)

読書座談会は、叙述を根拠としながらも「話し合うこと」が中心の活動である。自分たちで決めた課題について自分の考えを書きまとめ、話ができるようにする準備が必要である。しかし、全てを書いてしまうと、書くこと自体が活動の目的になってしまったり、読書座談会の際に書いたものを読むだけの交流になってしまったりすることにもつながる。本単元では、自分の考えを思い出せる程度の「メモ」を書くようにしたことで、書きまとめたものを見るのではなく、本文の叙述を指し示しながら交流することができた。

#### ④ 話合いの進め方を具体化する役割の設定 (ポイント④)

話合いにおいて、考えを深めていけるように交流するためには、単に意見を述べ合えばよいわけではない。分からないと思ったことはその場で聞いたり、納得のいかないことについては反論したりするなど、その場での「やりとり」を経る中で考えは深まっていく。考えを深める「やりとり」を行うために必要な話合いの進め方があると考え、それらを話合いにおける役割という形にして提示した。具体的には「分からないと言う」「質問をする」「まとめる」「反論する」などである。例えば「分からないと言う」役割は、分からないことを「分からないからもっと詳しく教えて」と言う役割である。この役割を意識することで話合いの内容を共通理解しながら話合いが進められる。

#### ⑤ 自分たちの思考を整理するためのグループの話題シート (ポイント⑤)

読書座談会では、自分たちの立てたいいくつもの課題がある。この課題について、目的に照らして必要か不必要かを判断したり、話合いの流れを考えて解決する順番を決めたりすることは活動の見

通しを持つために大切な活動である。そこで、課題についてそれぞれが納得いく考えを持つことができたのか、あるいはグループの交流だけでは納得する考えを持つことができなかつたから他のグループにも聞いてみたいのか、など現在の状況を示す話題シートを活用した。

#### ⑥ 考えを深めた過程が分かるように書く振り返り（ポイント⑥）

読書座談会は、話合いの内容や自分の考えを深めた足跡が記録として残らない。したがって、どのような話合いが行われ、どのように自分の考えが深められたのかが分かるような振り返りを書くことが重要である。本時のめあてに即して、自分の考えがどのように深まったのかについて、その過程も具体的に書くよう助言した。こうした記述は、評価の材料としても有効に活用した。

### （２）児童の姿から

本単元を「命三部作」の第三部として位置付けたことで、読書座談会を行う目的を始めから明確に持つことができていた。また、先行する二つの単元で読んだ既習の作品が数多くあることとなり、児童は様々な作品と関連付けて自分の課題を考えることができていた。読書座談会における交流については、1年を通じて指導してきている。各自が話合いを深めるための役割を理解し、けれどもその役割に縛られることなく自由に発言をしながら考えを深めていた。グループの考えを整理する話題シートの形式も、児童からの要望を踏まえて改訂した。自分たちのグループの状況を共通理解しながら活動していくことで、全員が話合いに参加し考えを深めていくことができた。

### （３）評価の実際

第8時における評価の具体例を取り上げる。読書座談会の評価においては、主に「ノート」「発言」「学習シート」の三つを使って評価していく。評価規準は以下の通りである。

【読オ】読書座談会の中で、『海のいのち』の「千びきに一びき」「海に帰った」などの叙述を他作品の叙述（『木のいのち』の「変わりありません」、『田んぼのいのち』の「米そのものが命」、『街のいのち』の「おかあさんありがとう」など）とつなげながら考え、課題についての自分の考えを持っている。

この評価規準に照らして、次のような児童の状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

#### 【Bの状況】

・自分たちで立てた課題について、読書座談会で扱ってきた作品の叙述をつなげながら考え、課題についての自分の考えを持っている。

(例)・「千びきに一びき」という意味は、『天とくつついた島』で言っていたように、「海をこわさないようにする」というメッセージだと思う。

・『天とくつついた島』では、「海は自分たちの母親みたいなものだから、何だってくれる」ということを言っている。「海のめぐみだからなあ」というのは、それと同じで、海が人間に与えてくれるものっていうことだと思う。

ここでは、友達の考えを聞いたりシリーズ作品の叙述と関連付けながら話したりして作品を読むことをねらっている。作品によっては関連付けやすいものと関連付けにくいものがある。例えば『天とくつついた島』はシリーズ作品ではないが、内容やメッセージも重複している部分が多いので関連付けやすい。そのように関連付けやすい作品や叙述を根拠として自分の考えを記述していたり、交流場面で述べていたりした場合は「おおむね満足できる」(B)と判断した。

一方、命をテーマにした他作品や既習の作品、同じシリーズ作品でも複数の作品を根拠とする場合は、さらに抽象度の高い思考が必要となるため「十分満足できる」状況(A)と判断した。

## 【Aの状況】

### ノートの記述

[ 複数作品を総合的に関連付けている例 ]

- ・『海のいのち』『天とくつついた島』『山のいのち』はどれも大きなものの中で命のサイクルがえがかれているという共通点を見付けられました。

[ 既習の作品と関連付けている例 ]

- ・星野道夫の『我々はみな大地の一部』という考えとつなげて考えられた。死ぬことを「海に帰る」と表現したのは、「我々はみな海の一部」ということなんだと思った。

[ 命がテーマの他作品と関連付けている例 ]

- ・『葉っぱのフレディ』にもあった、命は永遠に生きている、という考えとつなげて、クエもまた、お父さんの一部でありたましいが宿って生き続けると考えられるようになった。

### 交流での発言

[ 複数作品のテーマを関連付けている例 ]

- ・「死ぬってというのは、肉体が減びるってことじゃん。でも、命ってというのは永遠に生きているな、ってことを考えると、星野道夫とこのフレディもつながるし、『海のいのち』ともつながるなって思いました。」

[ シリーズ作品の中でも関連付けるのが難しい『街のいのち』とつなげている例 ]

- ・『街のいのち』でも立松さんがあらわしたように、イチョウってというのが共通点だったじゃない。お母さんとひとみの。それと同じで共通点のクエがいなくなったら、なんか海って言えない……。」

これらの評価を1単位時間だけで行うことは非常に困難である。学習シートに書き込んだことや毎時間の振り返り、さらには単元のまとめでの振り返りを活用して児童の具体的な姿を丁寧に見取り、評価していく必要がある。また、交流での発言を評価する際には、どのグループに入って指導、支援するのかを計画的に考えていく必要がある。特に、話し合いを深めていくのが困難と考えられるグループを中心に支援に入りながら評価し、次時の改善に向けて手立てを講じていく必要がある。

#### (4) 学習指導を振り返って

読書座談会の目的は「それぞれの課題に対して自分なりの考えを持つ」ことができるようになることである。課題に対する解釈をする際に、読み誤りや捉え違いといったことは起きても、解釈そのものに優劣が生まれるわけではない。したがって読書座談会は、能力や読書経験などの個人差を超えたところで、クラス全員が同じ土俵で同じように学び合える言語活動である。

本単元でも、話すことが苦手な児童も意欲的に読書座談会に参加する姿が見られた。話す目的が明確で、話す課題は自分たちで決めたものであり、それについての考えも学習シートに書き込んである。心の準備と学習に向かうための実質的な準備が十分に整っている中で、児童たちは安心して生き生きと活動できるのだと感じた。また、「命」という深遠なテーマであっても、1年間を見通して段階的、系統的に学習を計画し、12歳なりに真摯に向き合えるように支援することで、児童それぞれが納得のいく考えを得られることが分かり、改めて国語科の授業づくりの楽しさを感じた単元となった。

## [本書作成協力者] (五十音順, 敬称略) ※職名は平成28年2月現在

阿部 千咲	横浜市立大鳥小学校教諭
石山 裕美	長崎県佐世保市立世知原小学校教諭
鶴飼 洋子	京都市立開晴小学校教頭
浮田 真弓	岡山大学大学院准教授
笈 理沙子	東京学芸大学附属小金井小学校教諭
岸田 薫	横浜市教育委員会事務局西部学校教育事務所指導主事
小林 沙由理	東京都八王子市立由木中央小学校教諭
小林 真	横浜市立並木中央小学校主幹教諭
瀧川 文子	横浜市立並木中央小学校主幹教諭
但木 功	北海道小樽市立潮見台小学校教諭
中田 祐二	香川県教育委員会事務局西部教育事務所主任指導主事
西川さやか	東京都多摩教育事務所統括指導主事 (平成27年3月31日まで)
益子 一江	秋田県横手市立十文字第一小学校教諭
皆川美弥子	宇都宮大学教育学部附属小学校教諭
山崎 孝雄	埼玉県新座市立大和田小学校教諭
山田眞由美	大分大学教育福祉科学部附属小学校指導教諭

## [本書作成編集担当者] ※職名は平成27年6月現在

国立教育政策研究所においては、次の者が担当した。

水戸部修治	教育課程研究センター教育課程調査官
西川さやか	教育課程研究センター学力調査官

この他、本書編集の全般にわたり、国立教育政策研究所においては次の者が担当した。

梅澤 敦	教育課程研究センター長
高口 努	教育課程研究センター長 (平成27年4月30日まで)
佐藤 弘毅	教育課程研究センター研究開発部長
大金 伸光	教育課程研究センター研究開発部長 (平成27年3月31日まで)
松本 吉正	教育課程研究センター研究開発部副部長
五十嵐祐子	教育課程研究センター研究開発部研究開発課長 (平成27年4月30日まで)
伊倉 剛	教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係長
池田森太郎	教育課程研究センター研究開発部研究開発課企画係専門職
岩切 陽平	教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係専門職
寺田 政輝	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

